LIXIL

テグラン フリーパーツ 取付説明書

●このたびは、当社製品をお買いあげいただきましてまことにありがとうございます。
●この取付説明書に示した表示記号の内容は、製品を安全に正しく施工していただき、施主様等の危害や損害を未然に防止するためのものです。
表示記号の内容を良く理解したうえで、本書の内容（指示）にしたがってください。
●この取付説明書では、次のような記号を使用しています。

安全に関する記号	記号の意味
警告	●取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負うおそれのある内容を示しています。
注意	●取扱いを誤った場合に、使用者が中・軽傷を負うおそれのある内容、または物的損害のおそれがある内容を示しています。
一般情報に関する記号	
ポイント	●取付手順で、特に注意して作業をしていただきたいことを示しています。 ●守っていただかないと組付けができない内容、または製品全体に後々不具合が発生するおそれのある内容を示しています。
※	●取付説明の内容全体（個々の説明枠）にかかる注意事項を示しています。 ●取付説明の内容に制限がある場合の条件を示しています。
補足	●説明の内容で知っておくと便利なことを示しています。

※製品破損、倒壊による人への危害・物的損害が想定されますので、下記事項をお守りください。

＜施工の前に＞

注意

●製品の施工には、危険を伴う場合がありますので、必ず専門の工事業者による施工をお願いします。
●シーリング材（変成シリコーン系指定、例：セメダインPOSシール、コニシボンド変成シリコンコーク）は、現場手配してください。

ポイント

●正しく施工、組付けをするために、施工前に必ず取付説明書をお読みください。
●製品の施工については、必ず取付説明書にしたがってください。
●施工終了後、取扱説明書は施主様にお渡しください。
●梱包明細表で必要な部材、部品が揃っているか確認してください。

＜施工上のご注意＞

注意

●ボルト、ネジは弊社純正品の規定本数を確実に締付け、固定してください。
●アルミ製品が異種金属と接触する場合は、絶縁処理をしてください。
●製品の改造は絶対にしないでください。
●施工終了後は、ボルト、ネジなどにゆるみがないか確認してください。
●製品の強度低下、またはケガの原因になりますので、ボルト、ネジは弊社純正品の規定本数を使い、下記の推奨締付けトルクで固定した後にゆるみがないか確認してください。
・φ4ネジ：1.5N･m
・φ5ネジ：3.0N･m

＜施工上のご注意 つづき＞

ポイント

●施工工事にあたっては、安全に施工を行なってください。
・作業服および保護具（保護帽、安全帯、眼、手、足の保護具）を正しく使用してください。
・作業場所の整理整頓を行なうとともに、安全確保を行なってください。
特に高所作業での安全確保、倒壊防止、照明による照度の確保など。
・器具、工具、保護具などの機能を確認し、使用してください。
・作業は、相互の作業と各作業工程を考慮して進めてください。免許、技能講習、特別教育が必要な作業は、有資格者が行なってください。
・作業者が相互に安全確認を行なってください。健康状態を十分に確認し、健康管理を実施してください。
・万が一、事故が発生した際には、直ちに手当を行ない、救助を第一に心がけてください。
●取付説明書の順序通りに組付けてください。製品の強度など、性能が低下する場合があります。
●施工中についた汚れは取除き、誤ってキズをつけた場合は補修塗料で補修してください。

＜基礎工事についてのご注意＞

注 意

●基礎は弊社指定の寸法以上にしてください。強度低下の原因になります。
●寒冷地で凍上するおそれのある地域で使用する場合は、凍上線の下まで基礎を設けてください。強度低下の原因になります。
●養生期間は十分にとり、その間に重い物をのせたり、振動を与えないでください。

ポイント

●モルタルやコンクリートの抽出液が、施工中に製品に付着しないように注意してください。抽出液は強アルカリ性で、シミやムラなどの外観不良の原因になります。
●製品の表面に付着したモルタルやコンクリートなどは、速やかに拭き取ってください。
●コンクリート（またはモルタル）には、塩分を含む砂（海砂）および塩素系や強アルカリ系のコンクリート用混和剤（凍結防止剤、凝固促進剤、急結剤など）は使用しないでください。使用するとアルミなどの金属が腐食する原因になります。必要な場合は非塩素系や非アルカリ系の混和剤をご使用ください。

＜仕上げ材（タイル）施工のご注意＞

警 告

●モルタルにてタイル張りする「モルタル張り工法」は絶対に行なわないでください。はく離や脱落してケガに至るおそれがあります。またヒビ割れが発生することにより、躯体内部に雨水が浸入して躯体を劣化させるおそれがあります。

注 意

●本工事は、専用乾式下地に専用タイルを専用接着剤で張付ける「接着剤張り工法」を採用しています。この工法以外では仕上げ材施工を行なわないでください。
●取付説明書の順序通りに施工してください。所定の性能が得られないだけでなく、はく離や脱落してケガに至る場合があります。

ポイント

●正しく施工していただくため、施工前に必ず取付説明書をお読みください。
●施工にあたっては、必ず使用する材料に付属する注意書きや取付説明書にしたがってください。
●施工終了後、取扱説明書は施主様にお渡しください。

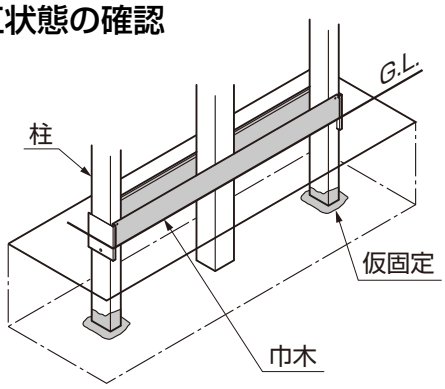
INDEX

1　施工前の重要確認事項…… 4
2　梱包明細表…… 5
3　基本寸法と各部名称…… 10
　1．基本寸法と各部名称…… 10
　2．基礎寸法…… 14
4　配線工事…… 14
5　本体の施工…… 14
　1．門柱の組立て…… 14
　2．150角機能柱の組立て…… 15
　3．調整金具の取付け…… 16
　4．片開き受け部材の取付け…… 22
　5．サインの取付け…… 23
　6．表札灯の取付け オプション …… 25
　7．インターホンの取付け…… 26
　8．パネル取付部材の取付け…… 27
　9．巾木Bの加工…… 27
　10．ベースプレートの取付け…… 29
　11．巾木の取付け…… 31
　12．柱の建込み、基礎の施工…… 34
　13．機能柱カバーの取付け…… 34
　14．下地ボードの取付け…… 35
　15．サイン・LEDブラケット・インターホンの取付け…… 38
　16．笠木の取付け…… 43
　17．陶笠木の取付け オプション …… 46
6　仕上げの施工：タイル仕上げ…… 48
　1．梱包明細表…… 48
　2．施工フロー…… 49
　3．施工面の確認…… 50
　4．ジョイントテープ貼付け…… 51
　5．ガイド定規取付位置の墨出し…… 52
　6．ガイド定規の取付け…… 53
　7．タイルの割付確認…… 53
　8．タイルの張付け…… 54
　9．目地詰め…… 60
　10．点検・仕上げ…… 61
7　仕上げの施工：塗り仕上げ…… 62
8　門扉の吊込み…… 64

1　施工前の重要確認事項

※施工時には下記の事項を厳守してください。

1-1　柱 施工状態の確認

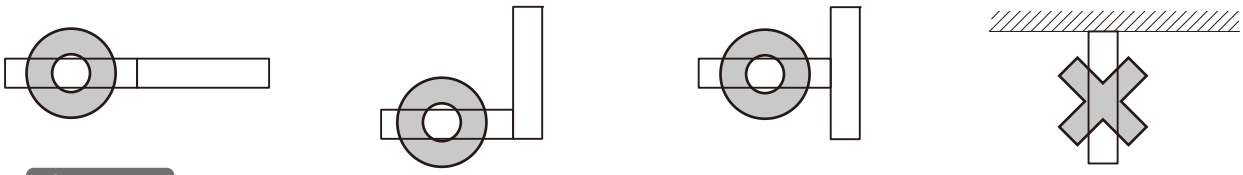


ポイント

●柱の基礎打設前であることを確認してください。基礎打設後の場合、巾木、柱の取付けができません。

1-2　フリーパーツの施工条件

（1）直線接続　（2）L字連結　（3）T接続　（4）躯体（住宅）接続



ポイント

●上記表にしたがって施工してください。

1-3　下地ボードの取扱いについて

（1）保管のしかた

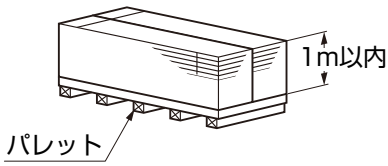


図1-1　パレット積みの場合

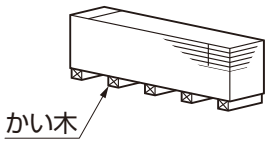


図1-2　パレット積みでない場合

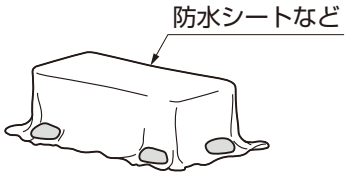
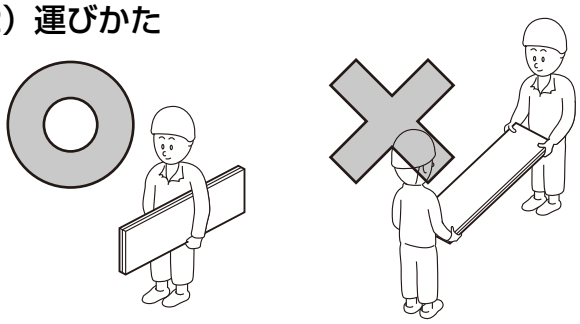


図1-3　屋外保管する場合

ポイント

●必ずパレットの上に置き、屋内で保管してください。やむを得ずパレットの上に置けない場合には、角材を5本以上をかい木にし、不陸のないよう水平に置いてください。
●施工現場でやむを得ず屋外に保管する場合は、防水シート、その他適当なものでおおい、雨や飛沫のかからないように保護してください。
●積み重ねの高さは1メートル以内にしてください。

（2）運びかた



注意

●開梱後、板の持ち運びは木端立てにして運んでください。
●水平に持つことや、板の両端を持って吊るすような運び方は避けてください。
●PPバンドを持って運ぶことは絶対に避けてください。

2　梱包明細表

【1】パネル取付部材セット

名　　称	略　図	員数 H15
パネル取付部材		1
【1-1】φ4×16ナベドリルネジ		8

【2】取付ネジセット

名　　称	略　図	員数
取付説明書<C445>	–	1
取扱説明書<UB013>	–	1
【2-1】φ3.8×25ステンレスフレキネジ		50

【3】150角機能門柱セット

名　　称	略　図	員数
150角機能門柱		1
【3-1】M5×20十字穴付六角ボルト (PW+SW)		4
【3-2】M5六角ナット		2

【4】150角用カバーセット

名　　称	略　図	員　数	
		門柱機能なし	門柱機能あり
150角柱カバー		1	1
切欠きカバー		–	2

【5】90角門袖柱セット

名　　称	略　図	員数
90角門袖柱		1

【6】90角連結柱セット

名　　称	略　図	員数
90角連結柱		1

【7】50×90柱セット

名　　称	略　図	員数
50×90柱		1

【8】縦胴縁セット

名　　称	略　図	員数
縦胴縁F 機能門柱用		1
【8-1】φ4×13ナベドリルネジ D=8.2		8

【9】下地ボードW05単体

名　　称	略　図	員数
下地ボード		1

【10】下地ボードW08単体

名　　称	略　図	員数
下地ボード		1

【11】下地ボードW05端部A

名　　称	略　図	員数
下地ボード		1

【12】下地ボードW05端部B

名　　称	略　図	員数
下地ボード		1

【13】下地ボードW10中間

名　　称	略　図	員数
下地ボード		1

【14】巾木Bセット

名　　称	略　図	員　数			
		W05	W08	W10	W20
巾木B		2	2	2	2
通気キャップ		1	2	2	4
【14-1】φ4×16 特サラドリルネジ		4	6	6	10
【14-2】φ4×13 ナベドリルネジ		4	6	6	10

【15】端部巾木セット

名　　称	略　図	員数
巾木B　端部用		1
【15-1】φ4×13ナベドリルネジ		1

【16】コーナー巾木セット

名　　称	略　図	員数
巾木B　コーナー用		1
【16-1】φ4×30ナベドリルネジ		2

【17】笠木15セット

名　称	略　図	員　数				
		W05	W08	W10	W20	門柱用
笠木15		1	1	1	1	1
笠木ベース		1	1	1	1	1
【17-1】φ4×20 ナベタッピンネジ2種		4	6	8	14	2
【17-2】φ4×16 ナベドリルネジ（※）		4	6	8	14	2

（※）本製品では使用しません。

【18】笠木20セット

名　称	略　図	員　数				
		W05	W08	W10	W20	門柱用
笠木20		1	1	1	1	1
笠木ベース		1	1	1	1	1
【18-1】φ4×20 ナベタッピンネジ2種		4	6	8	14	2
【18-2】φ4×16 ナベドリルネジ（※）		4	6	8	14	2

（※）本製品では使用しません。

【19】笠木30セット

名　称	略　図	員　数				
		W05	W08	W10	W20	門柱用
笠木30		1	1	1	1	1
笠木ベース		1	1	1	1	1
【19-1】φ4×20 ナベタッピンネジ2種		4	6	8	14	2
【19-2】φ4×16 ナベドリルネジ（※）		4	6	8	14	2

（※）本製品では使用しません。

【20】笠木15端部キャップセット

名　称	略　図	員数
笠木15 端部キャップ		2

【21】笠木20端部キャップセット

名　称	略　図	員数
笠木20 端部キャップ		2

【22】笠木30端部キャップセット

名　称	略　図	員数
笠木30 端部キャップ		2

【23】笠木15連結キャップセット

名　称	略　図	員数
笠木15 連結キャップ		1
【23-1】φ4×16ナベドリルネジ		2

【24】笠木20連結キャップセット

名　称	略　図	員数
笠木20 連結キャップ		1
【24-1】φ4×16ナベドリルネジ		2

【25】笠木30連結キャップセット

名　称	略　図	員数
笠木30 連結キャップ		1
【25-1】φ4×16ナベドリルネジ		2

【26】笠木15コーナーキャップセット

名　称	略　図	員数
笠木15 コーナーキャップ		1
Lアングル		1
【26-1】φ4×16ナベドリルネジ		12

【27】笠木20コーナーキャップセット

名　称	略　図	員数
笠木20 コーナーキャップ		1
Lアングル		1
【27-1】φ4×16ナベドリルネジ		12

【28】笠木30コーナーキャップセット

名　称	略　図	員数
笠木30 コーナーキャップ		1
Lアングル		1
【28-1】φ4×16ナベドリルネジ		12

【29】スリム縦型ポスト

名　　称	略　図	員　数	
		ブッシュ錠付き	錠なし
ポスト本体 ブッシュ錠付き		1	−
ポスト本体 錠なし		−	1
取付説明書<A460>	−	1	1
取扱説明書<UA172>	−	1	1

【30】表札灯セット

名　　称	略　図	員　数
表札灯		1
表札灯パッキン		1
【30-1】φ4×12トラスタッピンネジ3種 D=8		2

【31】サイン(ガラスサイン･鋳物サイン･ステンレスサイン)

名　　称	略　図	員　数			
		ガラスサイン	鋳物サイン	ステンレスサイン	ガラスサイン(特注)
ガラスサイン		1	−	−	1
鋳物サイン		−	1	−	−
ステンレスサイン		−	−	1	−
ネームシール	AAAABB CCDDEEF GGHHHIII JKKLMM NNOOOP QRRSST TUUVWW XYYZ	2 (※)	1	1	−
【31-1】化粧ネジ M4用		4	−	−	4
【31-2】M4×20ナベ (SW+PW)		4	−	−	4
【31-3】ゴムスペーサー L=6		4	−	−	4
【31-4】M4ゴムワッシャー		4	−	−	4
【31-5】φ4×6トラスタッピンネジ(D=8) 3種		−	2	−	−
【31-6】M4六角ナット		−	−	4	−

※黒文字と白文字の2種類同梱しています

【32】サイン(江戸硝子サイン･備前焼サイン)

名　　称	略　図	員　数	
		江戸硝子サイン(特注)	備前焼サイン(特注)
江戸硝子サイン 150角		1	−
備前焼サイン 145角		−	1
【32-1】化粧ネジ M4用		−	4
【32-2】化粧ネジ M6用		4	−
【32-3】M6高ナット L=15		4	−
【32-4】M6ゴムワッシャー		8	−
【32-5】M4全ネジ L=25		−	4
【32-6】M6全ネジ L=40		4	−
【32-7】M4六角ナット		−	4
【32-8】M6六角ナット		4	−

【33】陶笠木ベースセット

名　　称	略　図	員数
陶笠木ベース		1
エッジ用クッション材		6
【33-1】φ4×15サラタッピンネジ2種		20

【34】陶笠木

名　　称	略　図	員数
陶笠木		4

【35】LED笠木照明セット

名　　称	略　図	員数
LED笠木照明ユニット		1
LEDユニット 固定金具		2
【35-1】φ4×8トラスタッピンネジ3種 D=8		2

【36】ベースプレート 150角用セット

名　　称	略　図	員　数
ベースプレートスリーブ 150角用		1
ベースプレート		1
【36-1】六角ボルトM10×25		4
【36-2】φ4×16ナベドリルネジ		4
【36-3】φ5×55サラタッピンネジ2種		4
【36-4】グリップアンカー		4
【36-5】M10バネ座金		4
【36-6】M10平座金		4

【37】ベースプレート　50×90用

名　　称	略　図	員数
ベースプレートスリーブ50×90用		1
ベースプレート		1
【37-1】六角ボルトM10×25		4
【37-2】φ4×16ナベドリルネジ		4
【37-3】φ5×55サラタッピンネジ2種		4
【37-4】グリップアンカー		4
【37-5】M10バネ座金		4
【37-6】M10平座金		4

【38】ベースプレート　90角用

名　　称	略　図	員数
ベースプレートスリーブ90角用		1
ベースプレート		1
【38-1】六角ボルトM10×25		4
【38-2】φ4×16ナベドリルネジ		4
【38-3】φ5×55サラタッピンネジ2種		4
【38-4】グリップアンカー		4
【38-5】M10バネ座金		4
【38-6】M10平座金		4

【39】ベースプレート　120角門柱用

名　　称	略　図	員数
ベースプレートスリーブ120角門柱用		1
ベースプレート		1
【39-1】六角ボルトM10×25		4
【39-2】φ4×16ナベドリルネジ		4
【39-3】φ5×55サラタッピンネジ2種		4
【39-4】グリップアンカー		4
【39-5】M10バネ座金		4
【39-6】M10平座金		4

【40】調整金具カバーセット

名　　称	略　図	員数
調整金具カバー		1
調整金具切欠きカバー		2
門柱カバー端部キャップ		左右各1
【40-1】φ4×13ナベドリルネジ		4

【41】調整金具セット

名　　称	略　図	員数
調整金具本体		上下各1
シャフト用ワッシャー		2
【41-1】M5×12トラス小ネジ D=10		4

【42】調整金具ピースカバー 下地セット

名　　称	略　図	員数
ピースカバー用下地		1
ピースカバー下地用キャップ		1
【42-1】φ4×25ナベドリルネジ		9
【42-2】φ4×15サラタッピンネジ2種		2

【43】調整金具ピースカバー カバーセット

名　　称	略　図	員数
調整金具ピースカバー		2
調整金具ピースカバー受け		2
【43-1】φ4×13ナベドリルネジ		8

【44】調整金具取付部品

名　　称	略　図	員数
調整金具施工治具		1
【44-1】φ5×12トラスタッピンネジ3種 D=10		8

【45】120角門柱セット

名　　称	略　図	員数
120角門柱		1
巾木120角用		1
【45-1】φ4×13ナベドリルネジ		1

【46】調整金具ピースカバー 120角門柱用 下地セット

名　　称	略　図	員数
ピースカバー用下地		1
ピースカバー下地用キャップ		1
【46-1】φ4×25ナベドリルネジ		9
【46-2】φ4×15サラタッピンネジ2種		2

【47】調整金具ピースカバー 120角門柱用 カバーセット

名　　称	略　図	員数
調整金具ピースカバー		2
調整金具ピースカバー受け		2
【47-1】φ4×13ナベドリルネジ		8

【48】調整金具取付部品　120角門柱用

名　　称	略　図	員数
調整金具施工治具		1
【48-1】φ5×12トラスタッピンネジ3種 D=10		8

【49】サイン・照明取付材セット

名　　称	略　図	員数
【49-1】φ4×40ナベタッピンネジ1種		4
【49-2】φ5×40ナベタッピンネジ1種		4
【49-3】30フィッシャープラグ S6		4
【49-4】40フィッシャープラグ S8		4

【50】延長用巾木セット

名　　称	略　図	員数
巾木延長部材		1
【50-1】φ4×13ナベドリルネジ		5

【51】片開き受け部材セット

名　　称	略　図	員数
片開き受け部材		1
錠受け部材		1
片受け部材上下キャップ（上）		1
片受け部材上下キャップ（下）		1
受け部材カバー		1
【51-1】φ4×10トラスタッピンネジ3種		2
【51-2】φ4×19ナベドリルネジ		8
【51-3】φ5×30サラタッピンネジ3種		2

【52】結露防止材

名　　称	略　図	員数
結露防止材(発泡ビーズ)		約460g

【53】小口シーラー（VKSY2）（※）

名　　称	略　図	員数
小口シーラー（VKSY2）		1

※下地ボードを現場切断した場合は、かならず切断面に塗付してください。

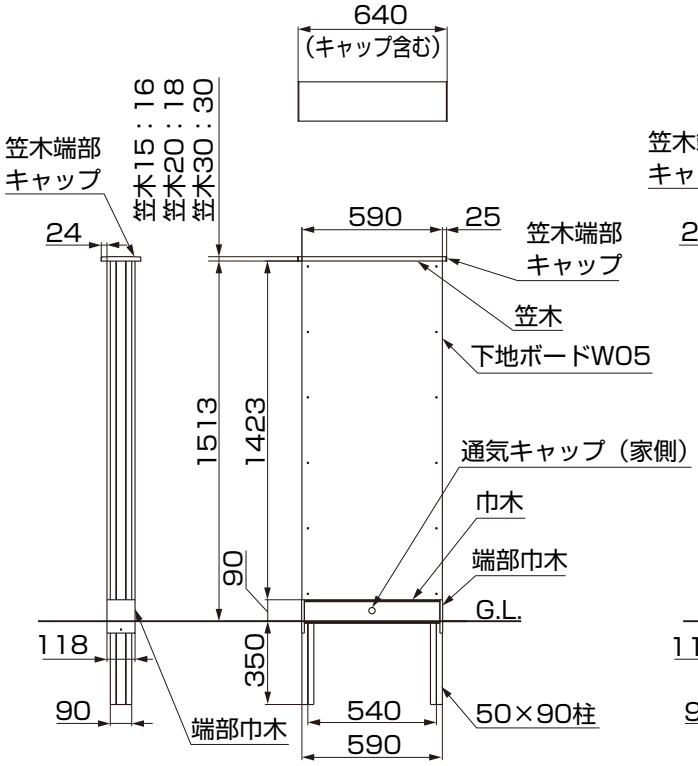
【54】下地ボード用切断刃セット

名　　称	略　図	員数
下地ボード用切断刃		1

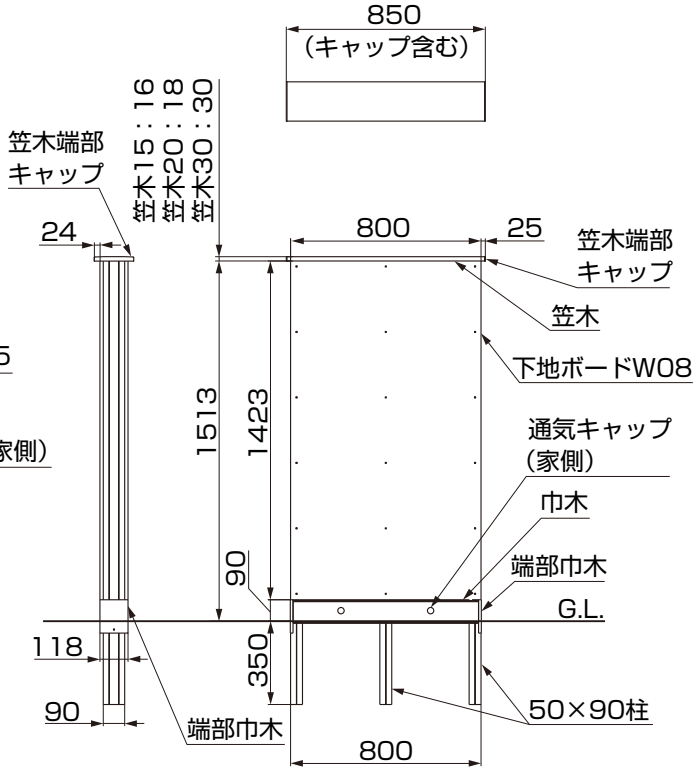
3　基本寸法と各部の名称

1. 基本寸法と各部の名称

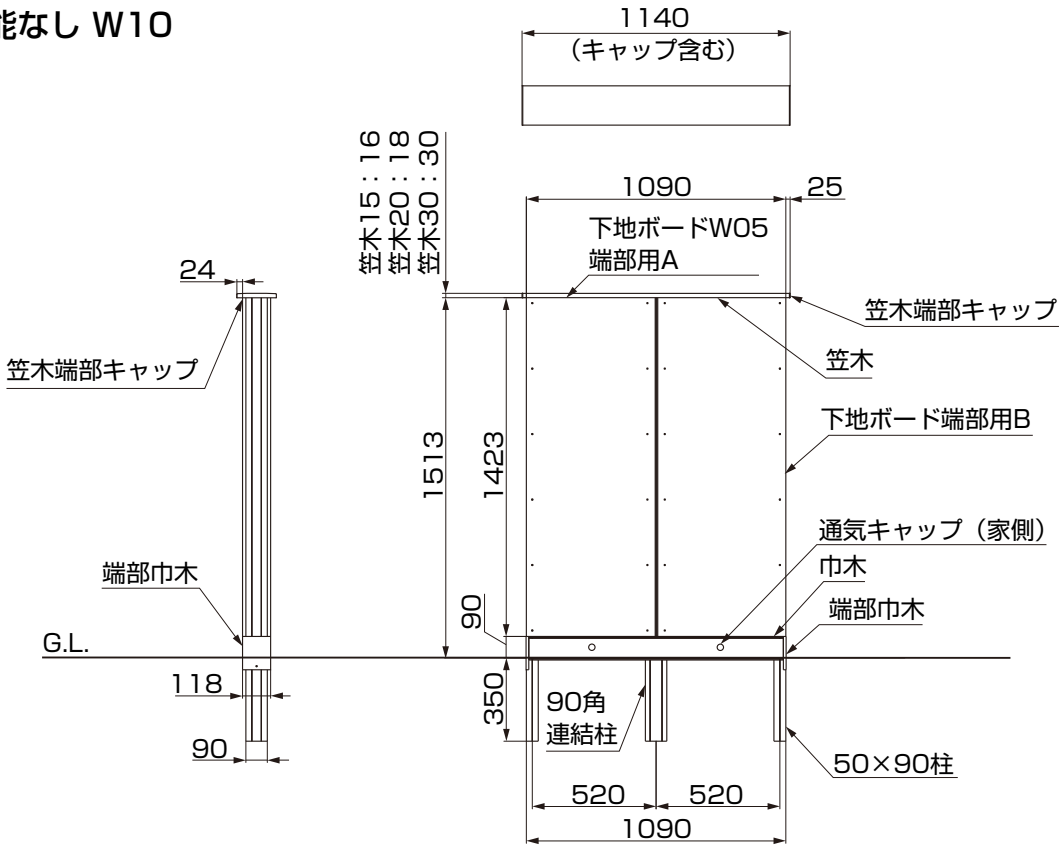
1-1 機能なし W05



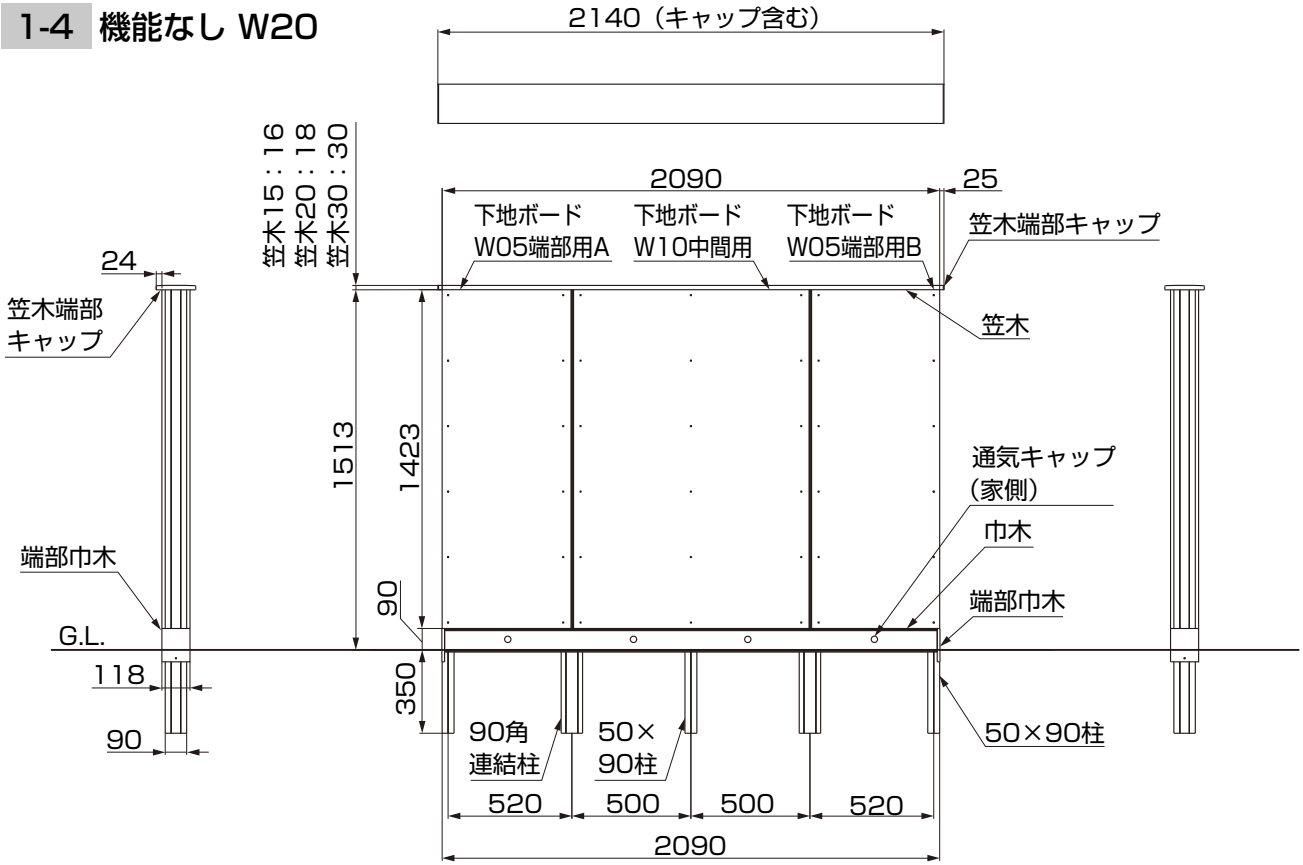
1-2 機能なし W08



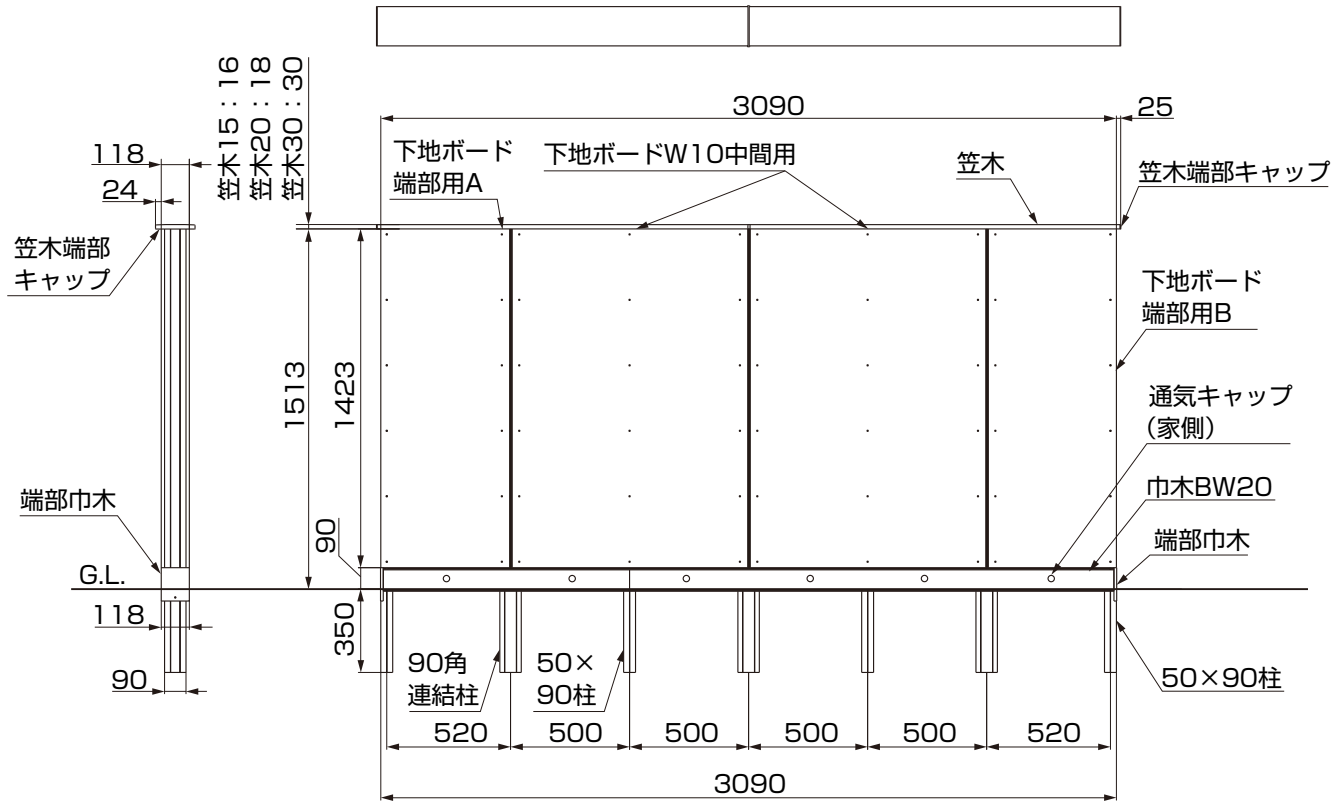
1-3 機能なし W10



1-4 機能なし W20

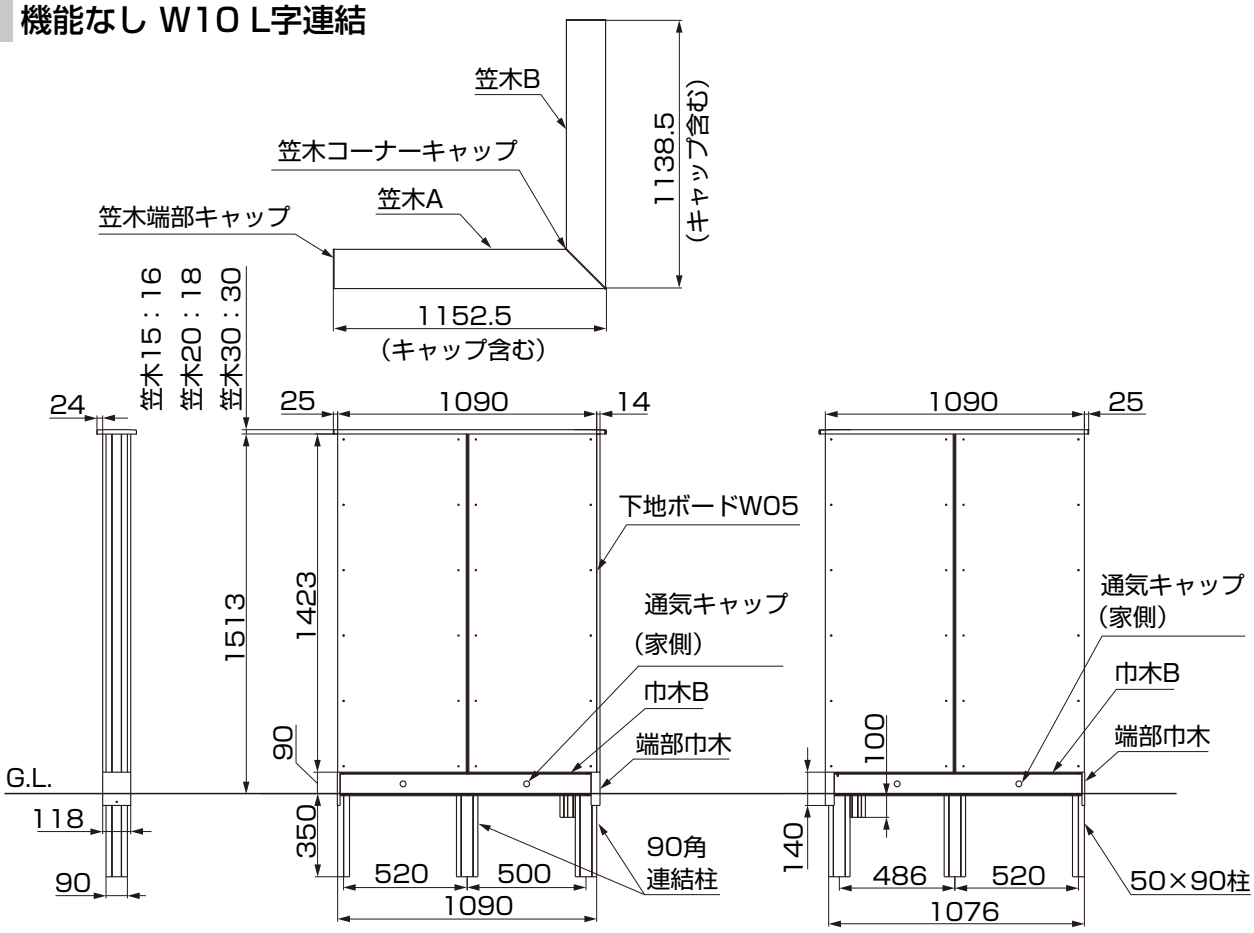


1-5 機能なし W30

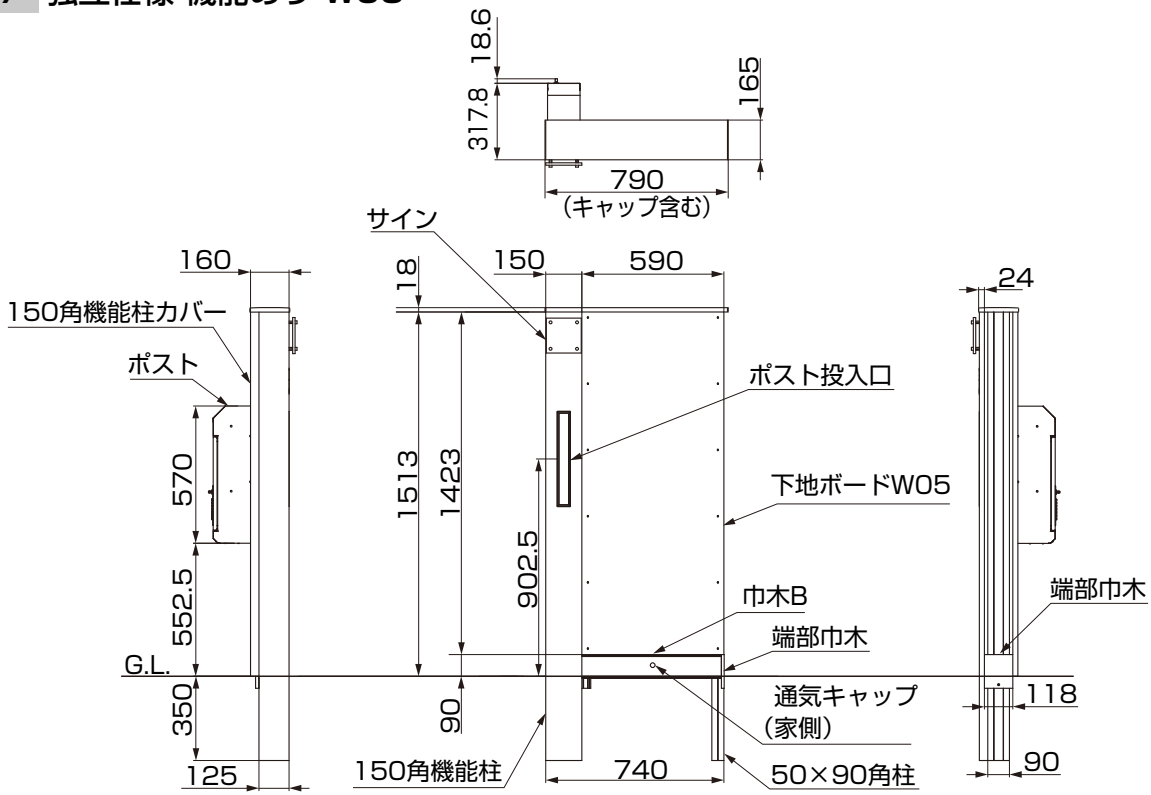


1.（つづき）

1-6 機能なし W10 L字連結

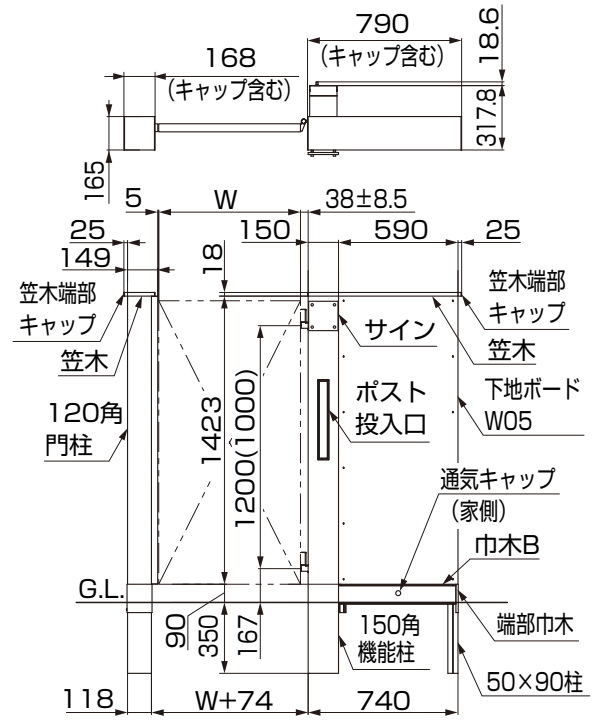


1-7 独立仕様 機能あり W05

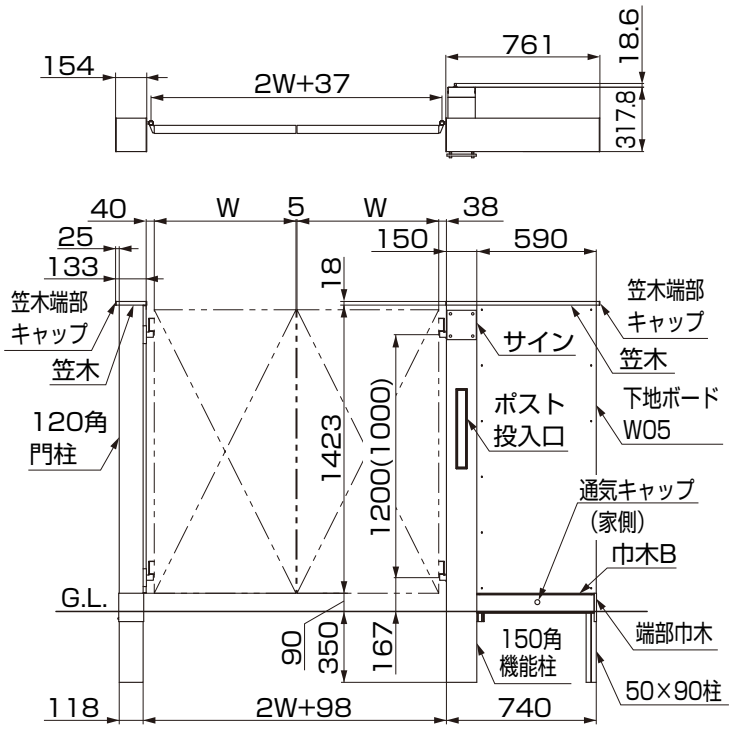


1-8 門柱仕様 機能あり

（1）W05 片開き

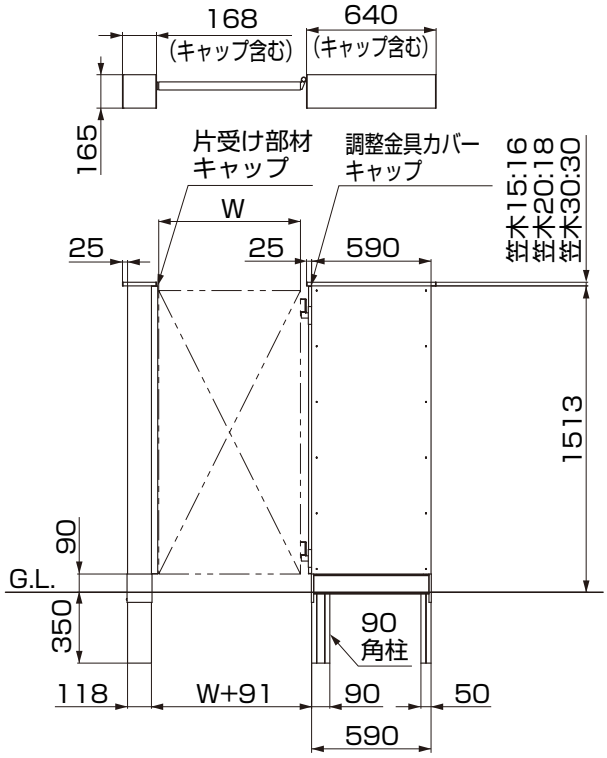


（2）W05 両開き

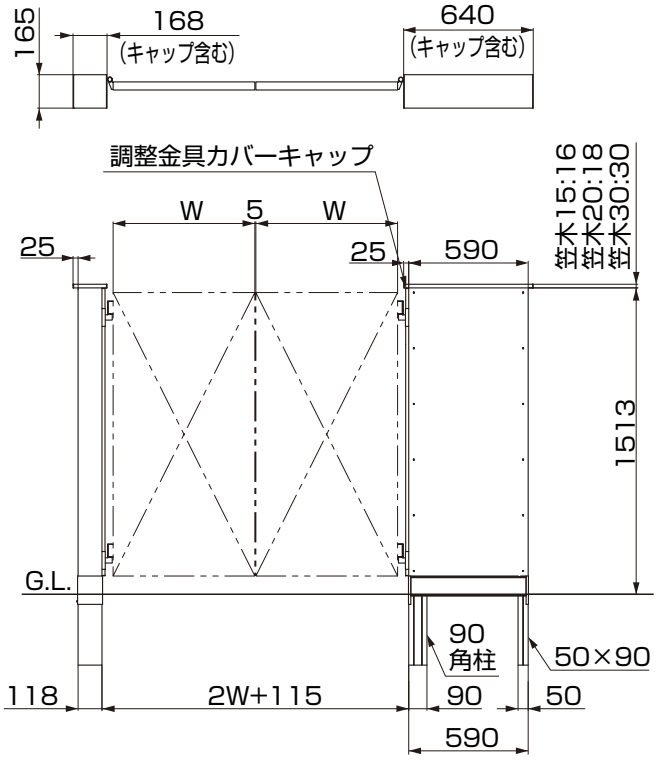


1-9 門柱仕様 機能なし

（1）W05 片開き



（2）W05 両開き



2. 基礎寸法

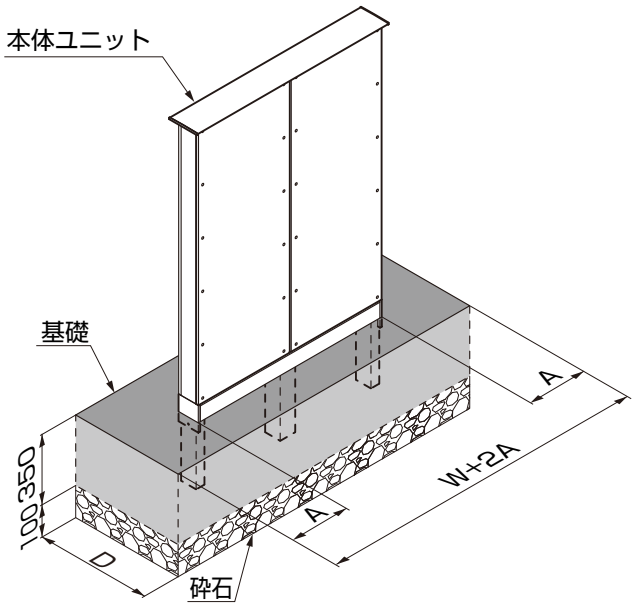


表2-1

	A	D
独立仕様	100	300
機能門柱仕様（150角）		400

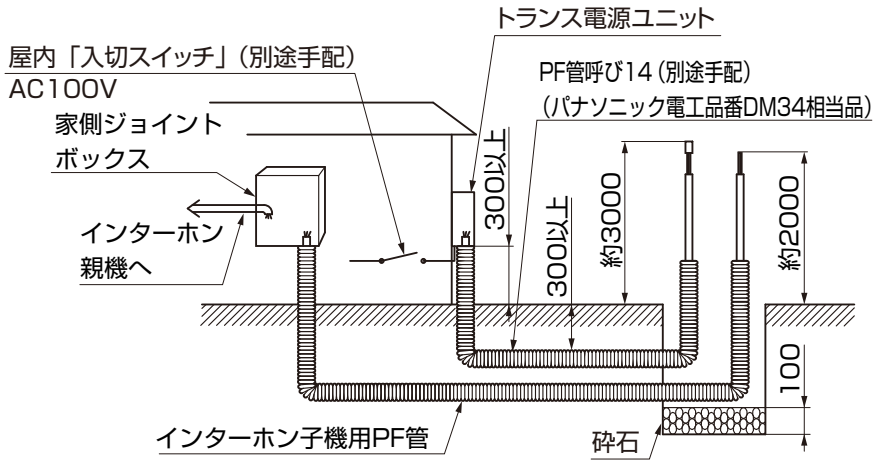
表2-2

	W
W05	590
W08	800
W10	1090
W20	2090
W30	3090

ポイント

●湿気対策と強度保持のため、基礎は必ず指定の寸法以上で施工してください。

4　配線工事



①基礎穴を掘り、砕石を敷いてください。

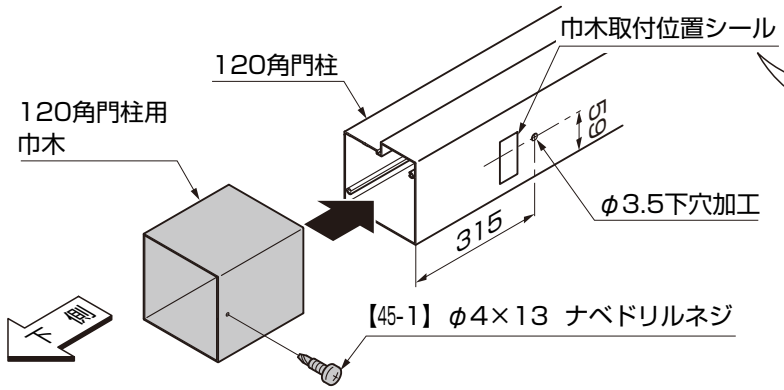
ポイント

●配管はG.L.より100mm程度立上げ、パテ埋めなどの処理を施してください。
●照明とインターホン子機用配線は、PF管により隔離してください。
●屋内「入切スイッチ」は必ず設けてください。ランプ交換やお手入れの際、夜間照明を消灯したい場合に電源をOFFにできなくなります。

②照明およびインターホン子機用の配線配管をしてください。

5　本体の施工

1. 門柱の組立て ※120角門柱の場合の作業です。



ポイント

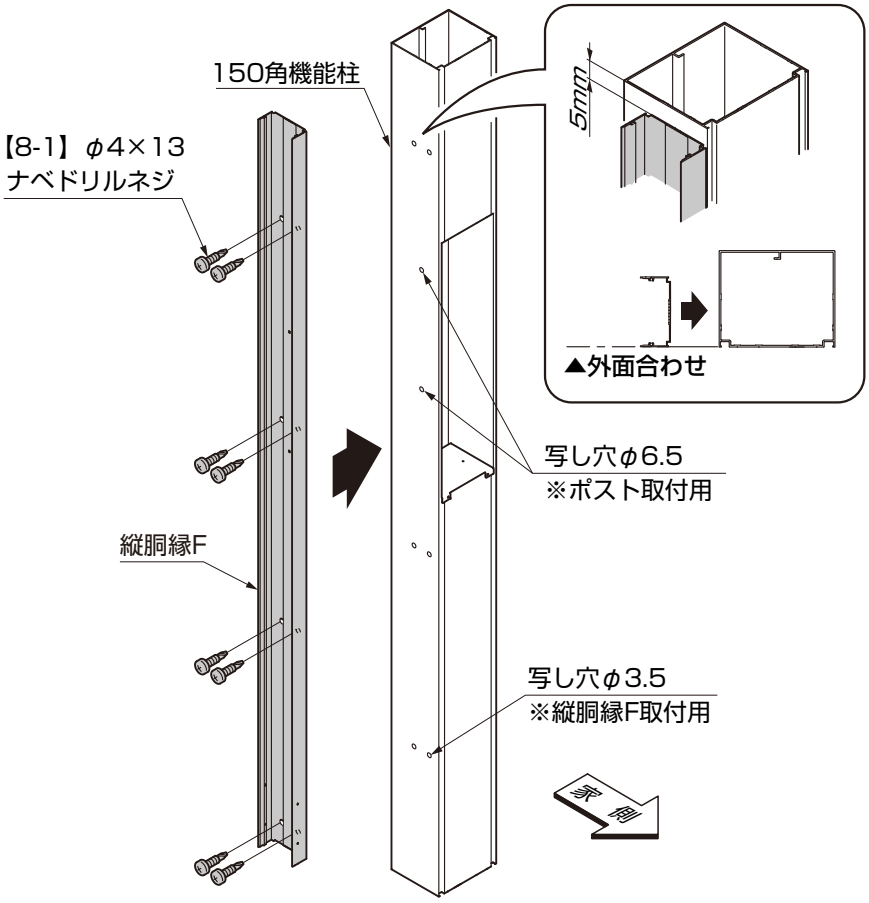
●120角門柱用巾木取付後、シールをはがしてください。

①120角門柱にφ3.5の穴加工をしてください。

②120角門柱用巾木を120角門柱に【45-1】で取付けてください。

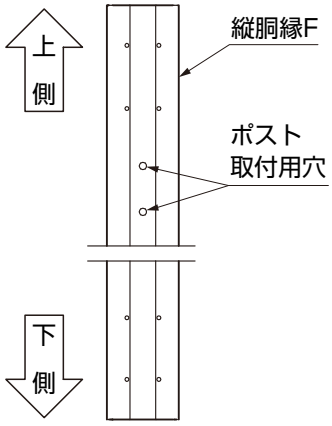
2. 150角機能柱の組立て　※150角機能柱の場合の作業です。

2-1 縦胴縁Fの取付け



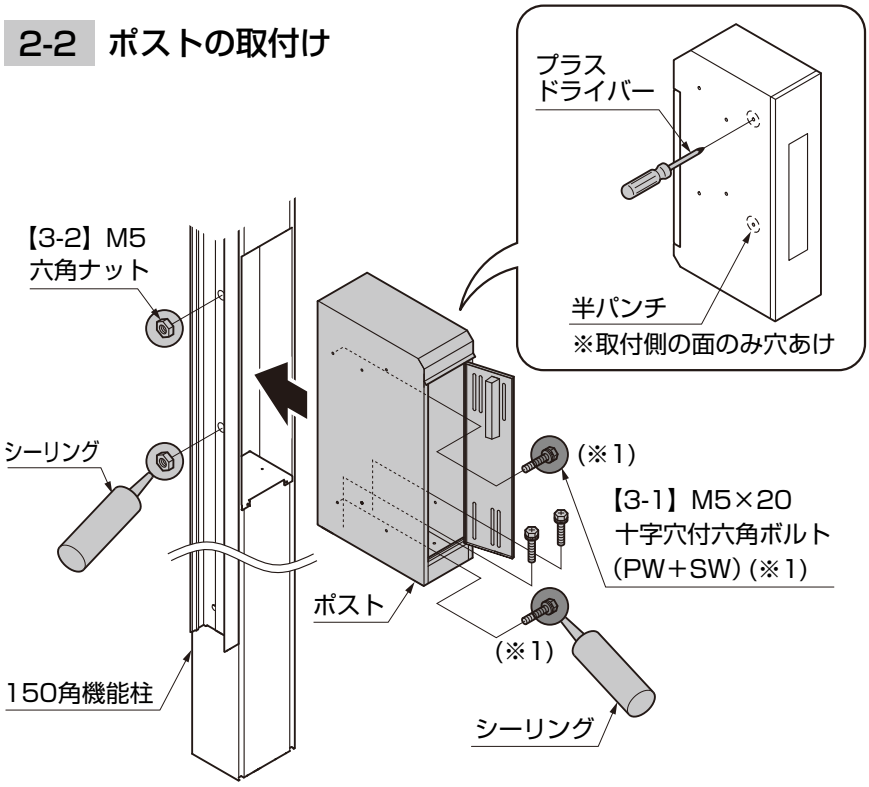
①150角機能柱に縦胴縁Fを仮当てし、φ3.5とφ6.5の写し穴加工をしてください。
②縦胴縁Fを150角機能柱に【8-1】で取付けてください。

ポイント



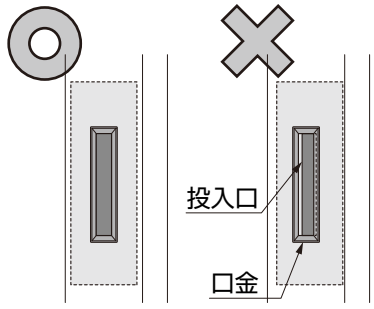
●縦胴縁Fには、上下があります。ポスト取付用穴があいている側が、上側になります。

2-2 ポストの取付け



①ポストの半パンチにプラスドライバーをあて、ハンマーなどでたたいて穴をあけてください。
②ポストを150角機能柱に【3-1】、【3-2】で取付けてください。

ポイント



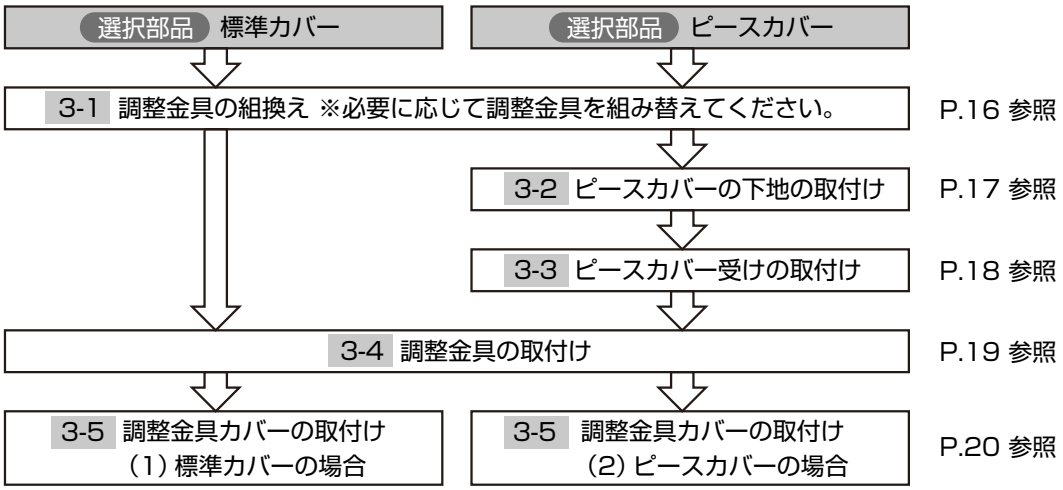
●ボルト(※1)は締め過ぎないでください。締め過ぎるとポスト投入口と口金の位置がズレてしまいます。

③指定の箇所にシーリングしてください。

3. 調整金具の取付け　※門扉を取付けるの場合の作業です。

ポイント

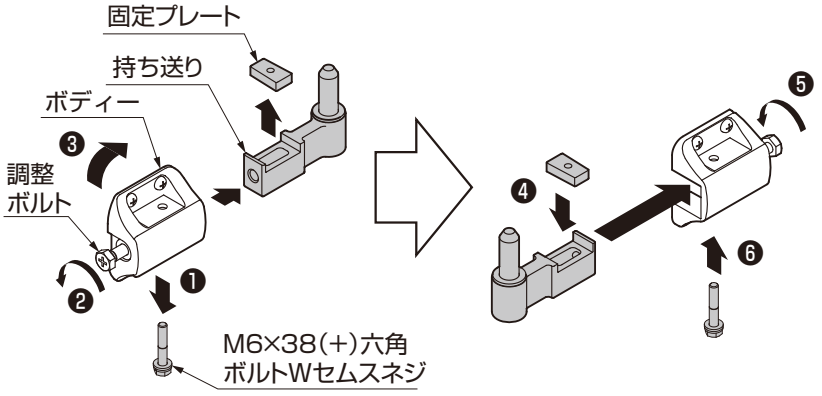
●調整金具カバーには、標準カバーとピースカバーがあり、施工手順が一部異なります。



3-1 調整金具の組替え

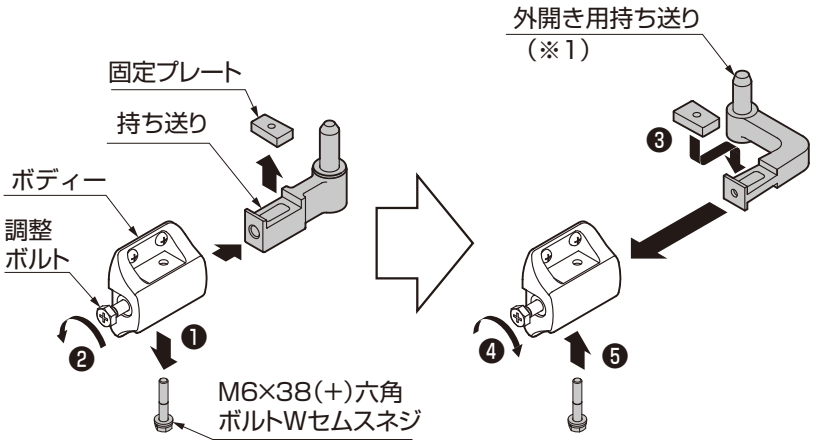
※調整金具ピースカバーの場合、調整金具切り欠きカバーの取り付けは不要です。
組替え手順のみ参照してください。

（1）片開き、左勝手に組替える場合



①「M6×38（+）六角ボルトWセムスネジ」を外してください。
②調整ボルトをゆるめて、持ち送りと固定プレートを外してください。
③ボディーの向きを変えてください。
④固定プレートを持ち送りに取付け、ボディーに挿入してください。
⑤調整ボルトを締めてください。
⑥持ち送りを調整ボルトと「M6×38（+）六角ボルトWセムスネジ」で固定してください。

（2）外開き用持ち送りに組替える場合



①「M6×38（+）六角ボルトWセムスネジ」を外してください。
②調整ボルトをゆるめて、持ち送りと固定プレートを外してください。
③固定プレートを外開き用持ち送りに取付け、ボディーに挿入してください。
④調整ボルトを締めてください。
⑤持ち送りを調整ボルトと「M6×38（+）六角ボルトWセムスネジ」で固定してください。

ポイント

●外開き（※1）の場合は、90°以上開くと門袖本体に門扉が当たる場合があります。

3-2 ピースカバー下地の取付け 選択部品

（1）ピースカバー下地の加工

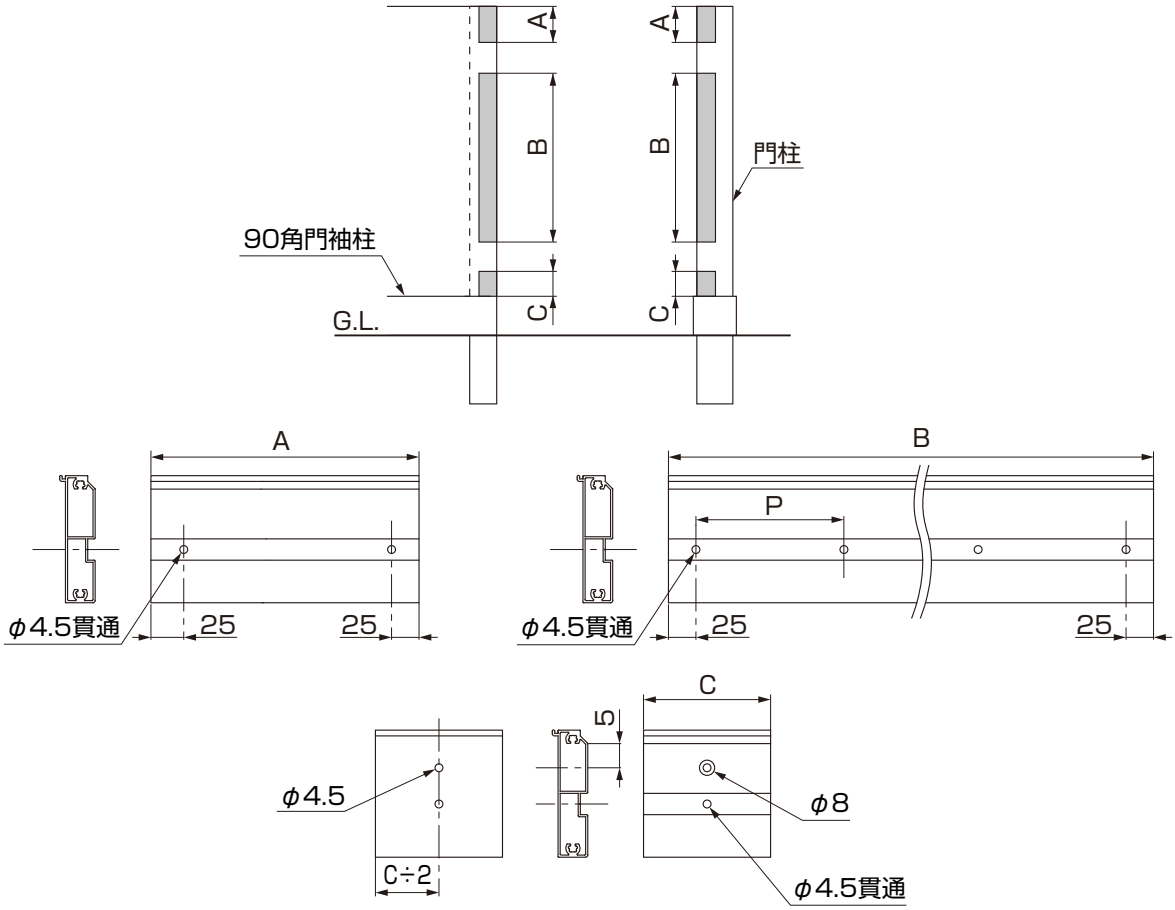


図3-1　切断と穴加工

表3-1 切断寸法

	寸法	寂雅楽Ⅱ	細割ボーダー	サイモン	センティア	セラヴィオR	エクセンシア	塗り
H12門扉	A	309	305	302	302	301	307	296
	B	890	894	875	860	876	875	900
	P	210	211	206.25	202.5	206.5	206.25	212.5
	C	22.5	22.5	44.5	59.5	44.5	39.5	25.5
H14門扉	A	116.5	109	101.5	100.5	101.5	119.5	96
	B	1082.5	1090	1075.5	1061.5	1075.5	1062.5	1100
	P	258	260	256	253	256	253	262.5
	C	22.5	22.5	44.5	59.5	44.5	39.5	25.5
H12門扉（ラフィーネ門扉1型・4型）	A	396	392	402	403	401	419	396
	B	803	807	775	759	776	763	800
	P	188.25	189.25	181.25	177.25	181.5	178.25	187.5
	C	22.5	22.5	44.5	59.5	44.5	39.5	25.5

①ピースカバー下地を加工してください。

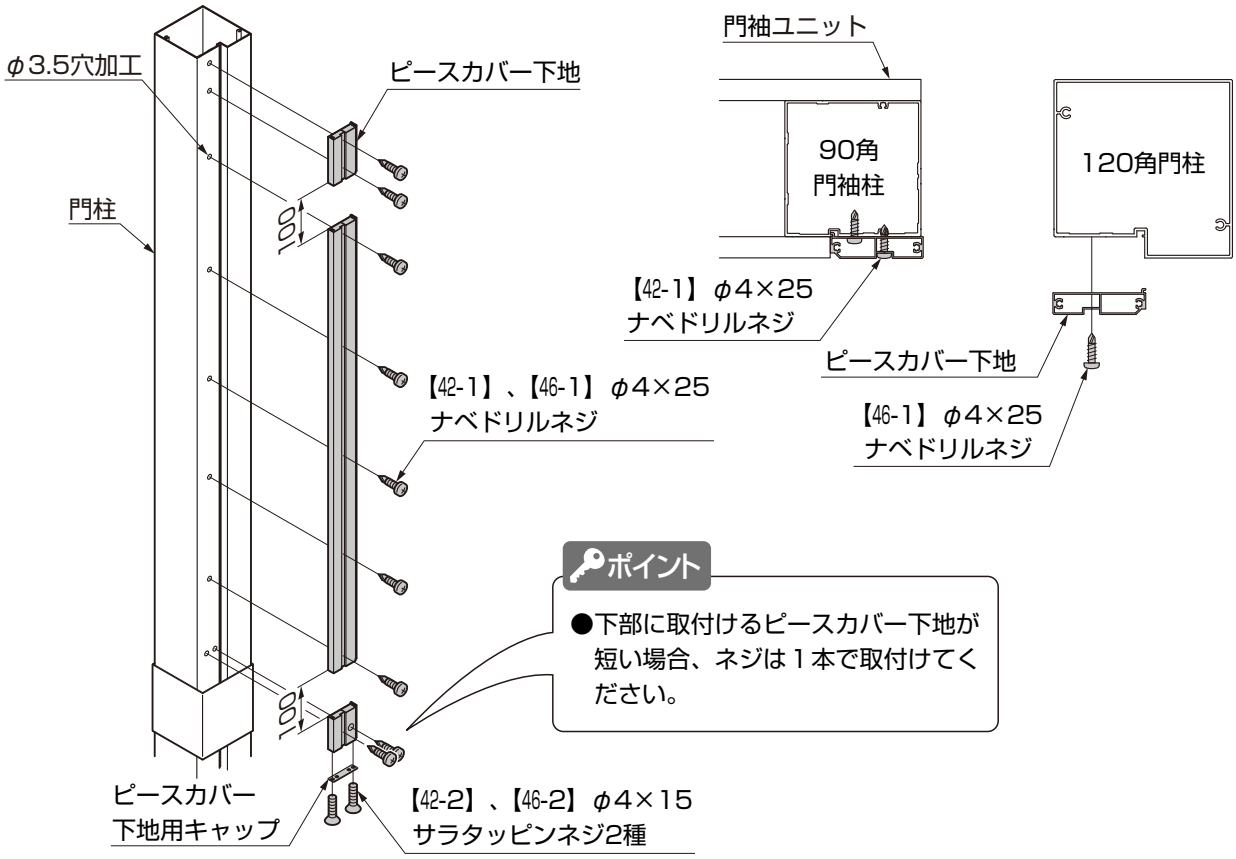
ポイント

●ラフィーネ門扉1型・4型を使用する場合、調整金具ピッチが900のためピースカバー仕様は現場でのタイルカットが必要になります。

3.（つづき）

3-2 つづき

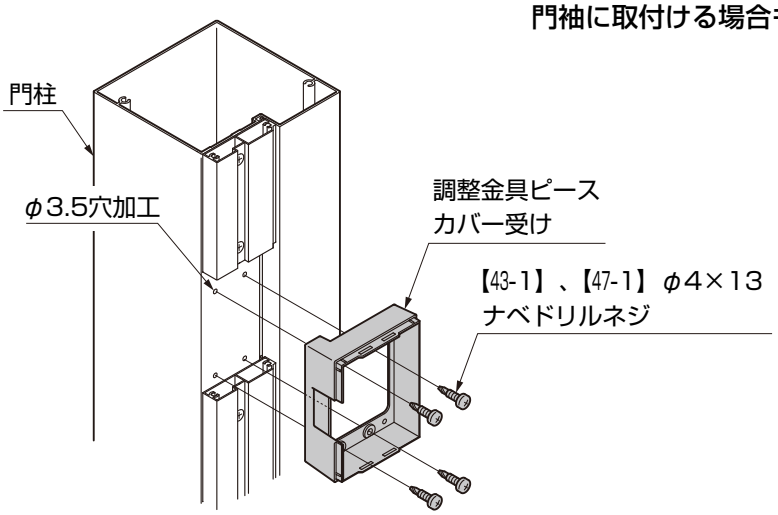
（2）ピースカバー下地の取付け



①門柱（または門袖ユニットの柱）にφ3.5の穴加工をし、ピースカバー下地を【42-1】、【46-1】で取付けてください。
②ピースカバー下地用キャップをピースカバー下地に【42-2】、【46-2】で取付けてください。

3-3 調整金具ピースカバー受け 選択部品 の取付け

※図は門柱に取付ける場合を示します。
門袖に取付ける場合も同様の手順です。



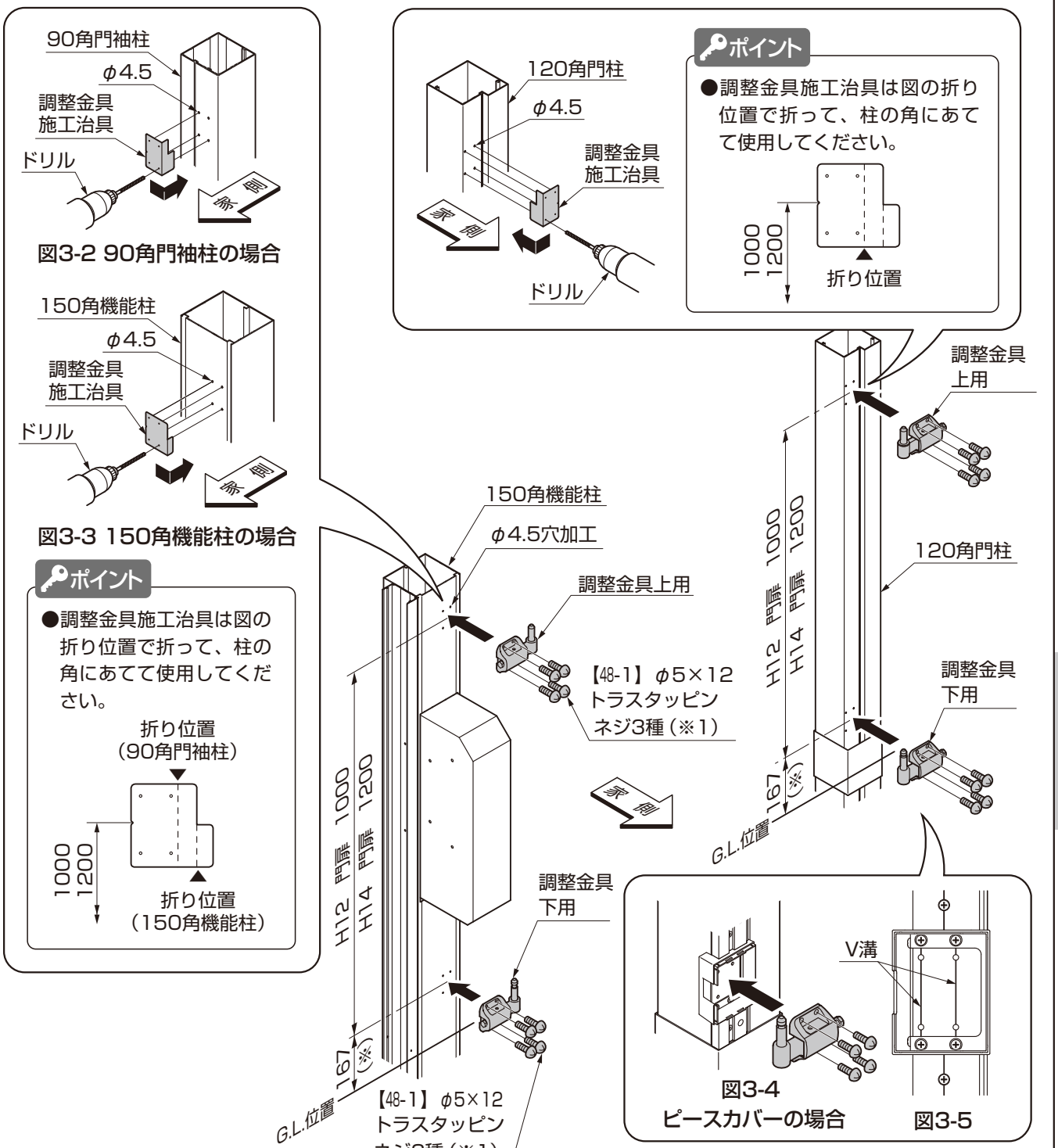
①門柱（または門袖ユニットの柱）にφ3.5の穴加工をし、調整金具ピースカバー受けを【43-1】、【47-1】で取付けてください。

ポイント

●下側も同様に取付けてください。

3-4 調整金具の取付け

※図は150角機能柱と120角門柱に取付ける場合を示します。
90角門袖柱に取付ける場合も同様の手順です。



ポイント

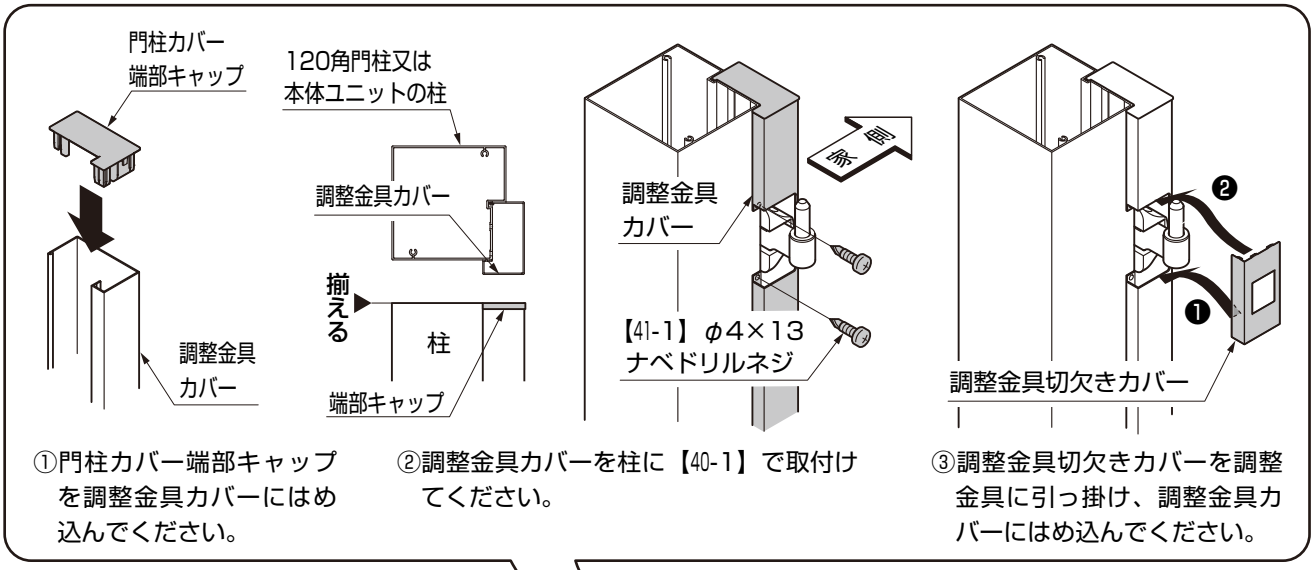
●調整金具に同梱の【41-1】M5×12トラス小ネジは使用しません。（※1）

①150角機能柱、120角門柱、90角門袖柱に調整金具施工治具をあてケガキ、ドリルで穴加工してください。
②調整金具ピースカバーの場合、ピースカバー受けを取付けた後、調整金具の写し穴をV溝に加工してください。
③調整金具を柱に【48-1】で取付けてください。
※ピースカバー仕様でタイル張りの場合は図3-5を参照して写し穴で取付けてください。

3.（つづき）

3-5 調整金具カバーの取付け 選択部品

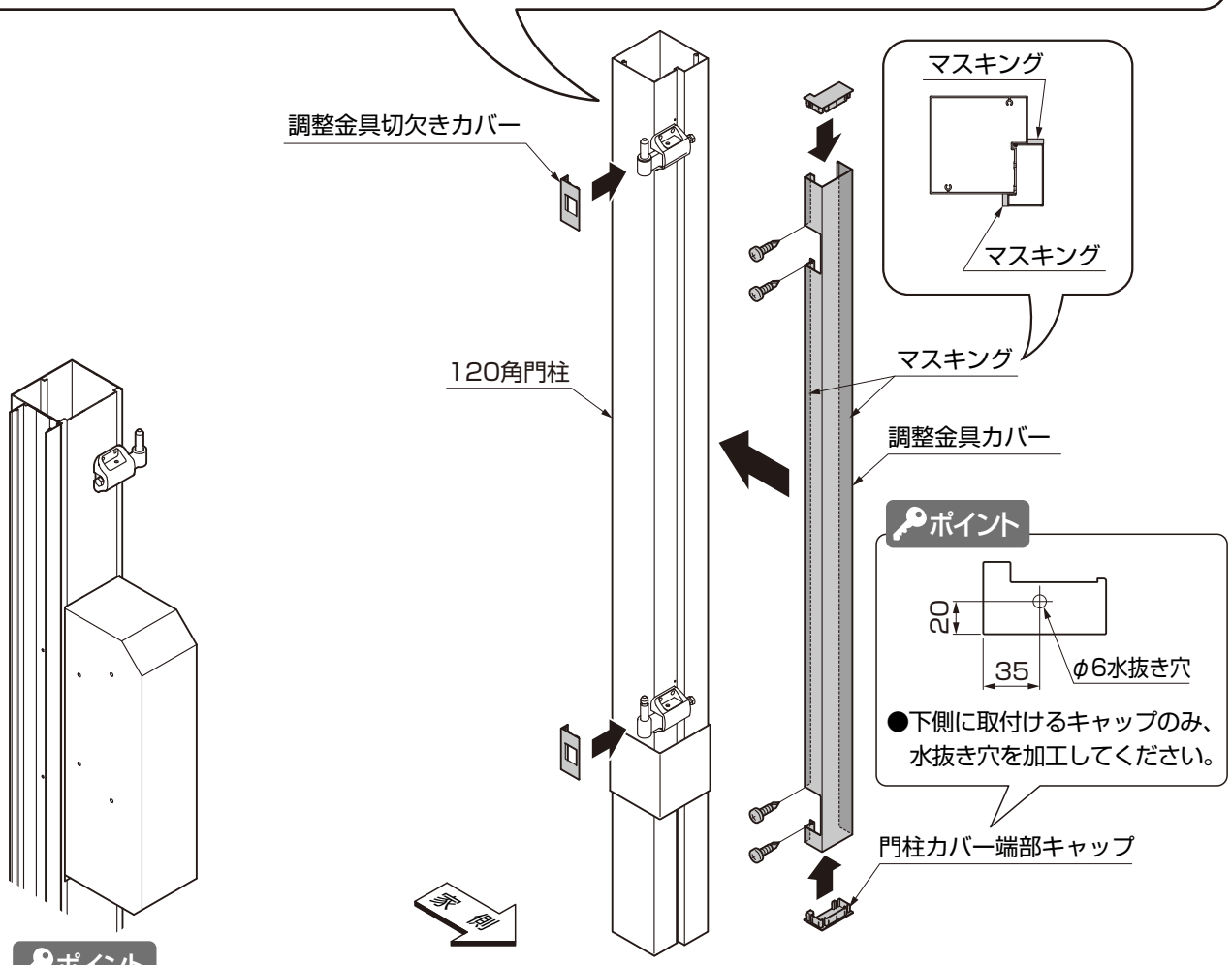
（1）標準カバーの場合



①門柱カバー端部キャップを調整金具カバーにはめ込んでください。

②調整金具カバーを柱に【40-1】で取付けてください。

③調整金具切欠きカバーを調整金具に引っ掛け、調整金具カバーにはめ込んでください。

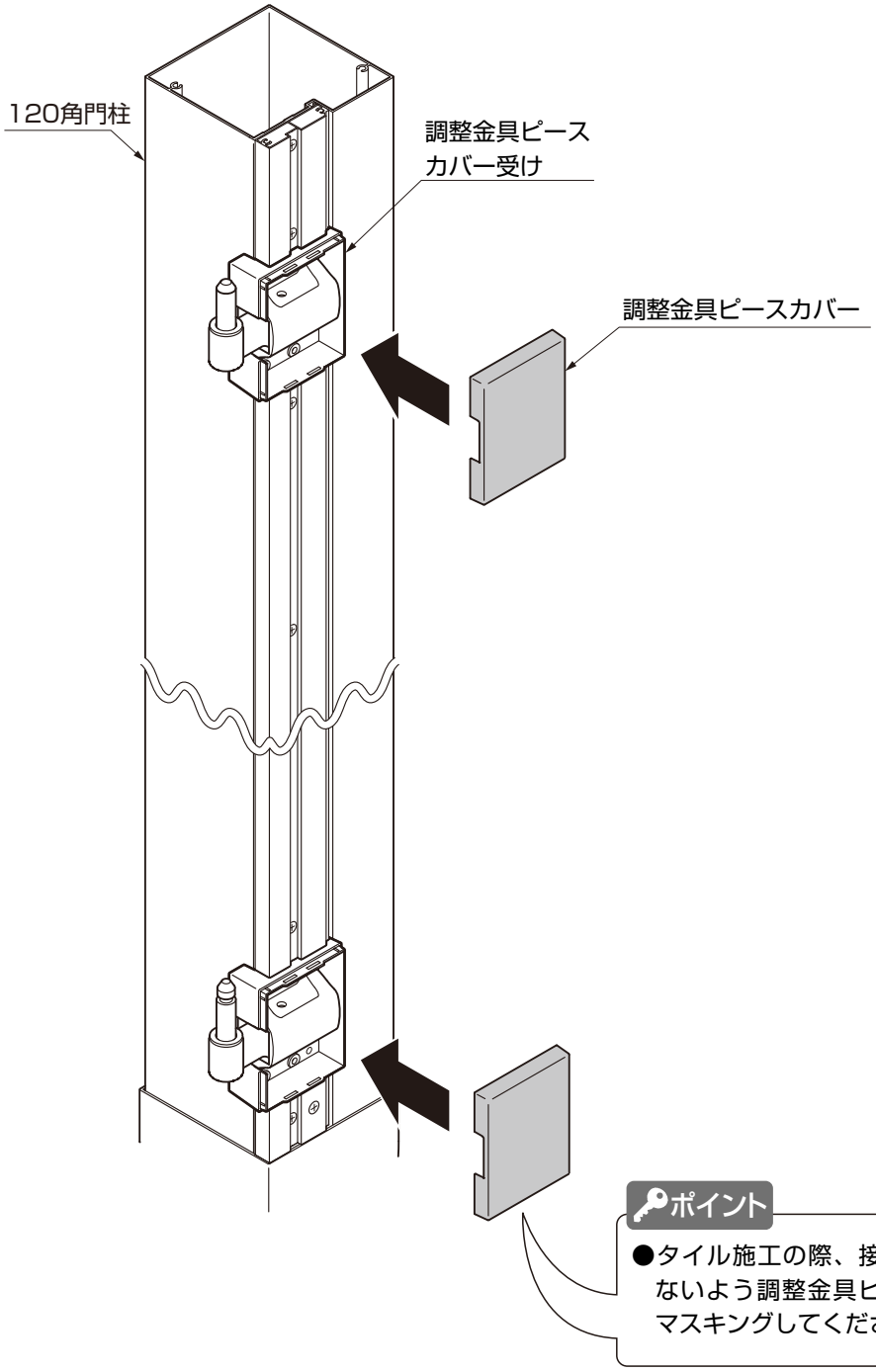


ポイント

●タイル仕上げ、塗り仕上げの際に調整金具カバーにタイル用接着剤や塗剤がつかないように、調整金具カバーをマスキングしてください。あとから調整金具カバーが外れなくなってしまいます。

（2）ピースカバーの場合

※図は120角門柱に取付ける場合を示します。門袖に取付ける場合も同様の手順です。



①調整金具ピースカバーを調整金具ピースカバー受けにはめ込んでください。

4. 片開き受け部材の取付け

※図は120角門柱に取付ける場合を示します。
門袖に取付ける場合も同様の手順です。

4-1 部品配置

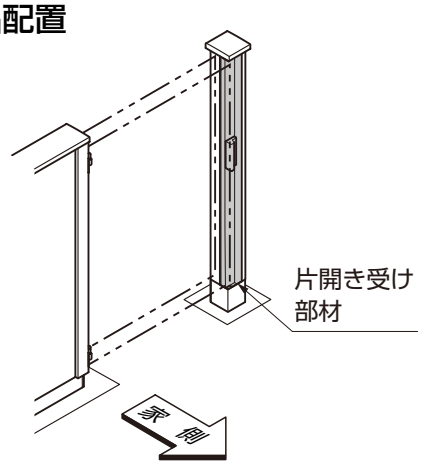


図4-1 門柱に取付ける場合

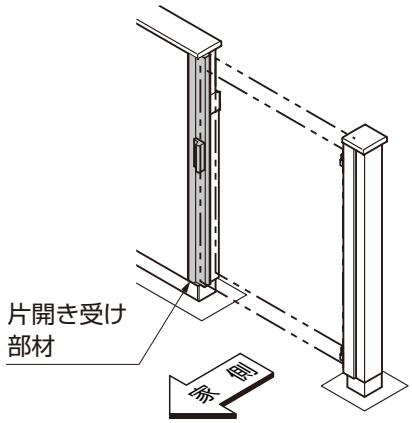
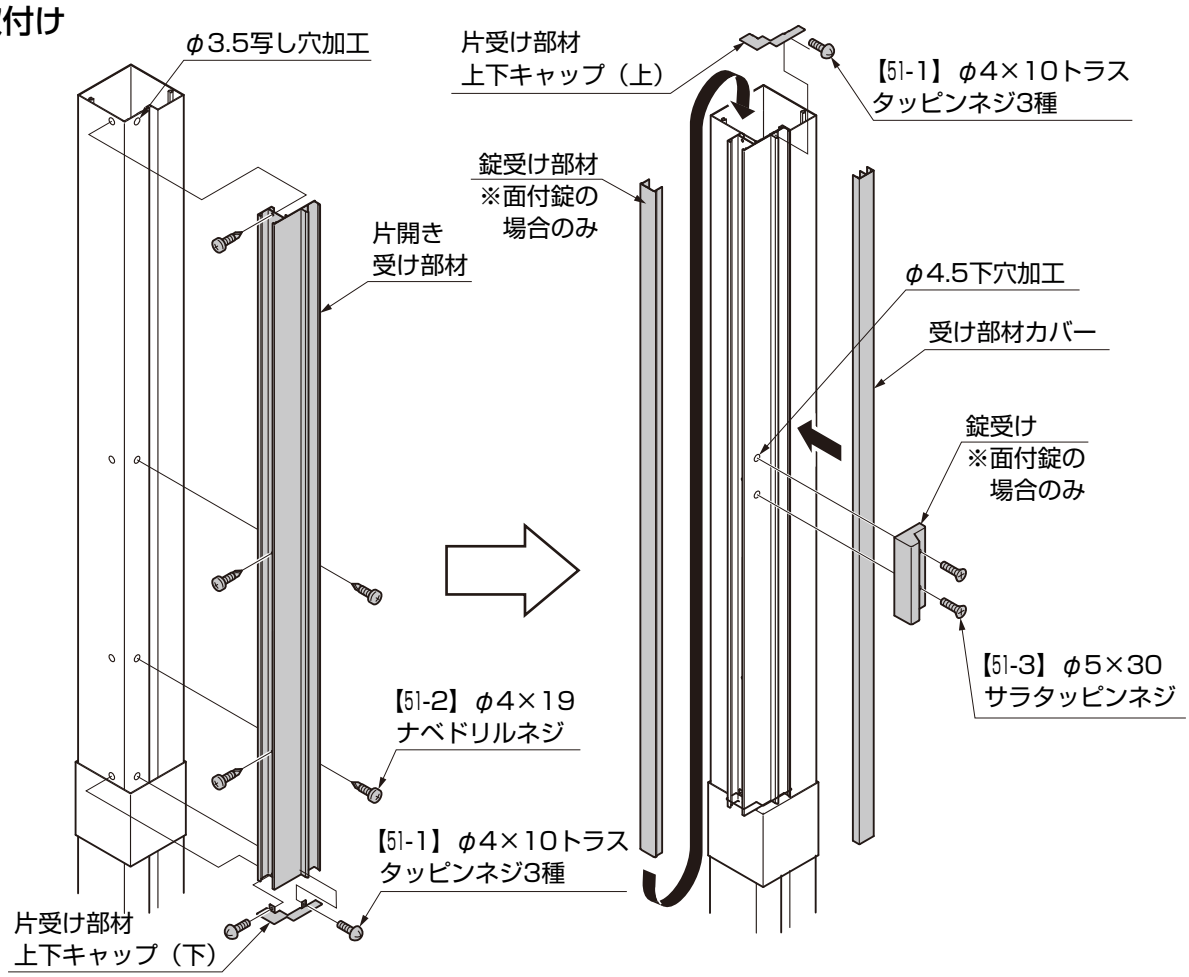


図4-2 門袖に取付ける場合

4-2 取付け



①柱に片開き受け部材を当てがい、φ3.5の写し穴をあけてください。
②片開き受け部材、片受け部材上下キャップ（下）を柱に【51-1】、【51-2】で取付けてください。
③錠受け部材を片開き受け部材に挿入してください。
④片受け部材上下キャップ（上）を片開き受け部材に【51-1】で取付けてください
⑤受け部材カバーを片開き受け部材にはめてください。
⑥片開き受け部材にφ4.5の下穴をあけ、面付け錠を【51-3】で取付けてください。

ポイント

●各錠の取付説明書も確認してください。

5. サインの取付け

5-1 ガラスサインの取付け

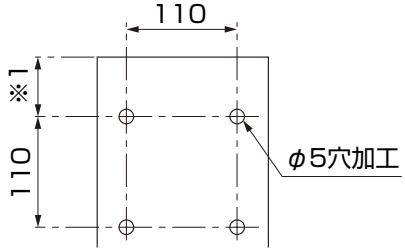


図5-1 穴加工

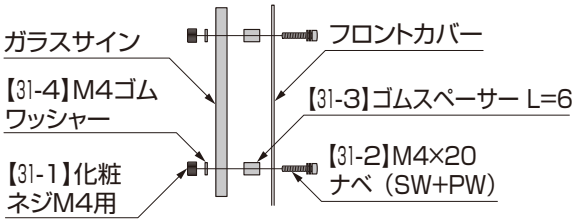
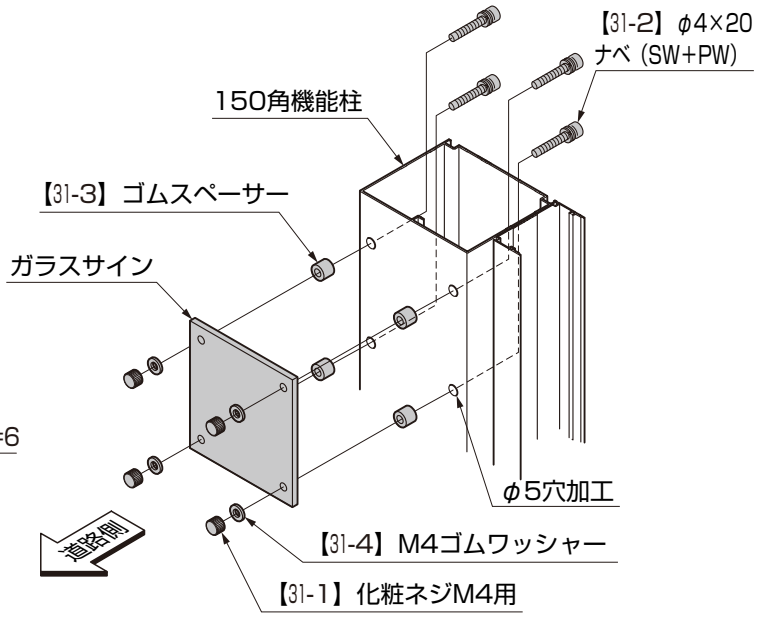


図5-2 側面図



①150角機能柱にφ5の穴加工をしてください。
②ガラスサインを150角機能柱に【31-1】、【31-2】、【31-3】、【31-4】で取付けてください。

ポイント

●ガラスサインの上に表札灯を取付ける場合、150角機能柱とサインの取付け穴の寸法を60mm以上あけてください。（※1）

5-2 鋳物サインの取付け

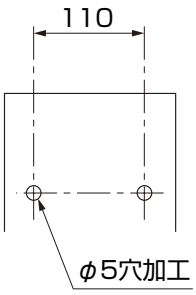


図5-3 穴加工

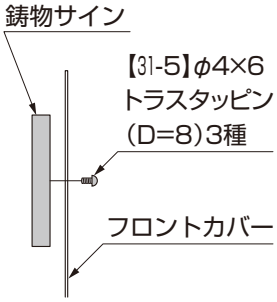
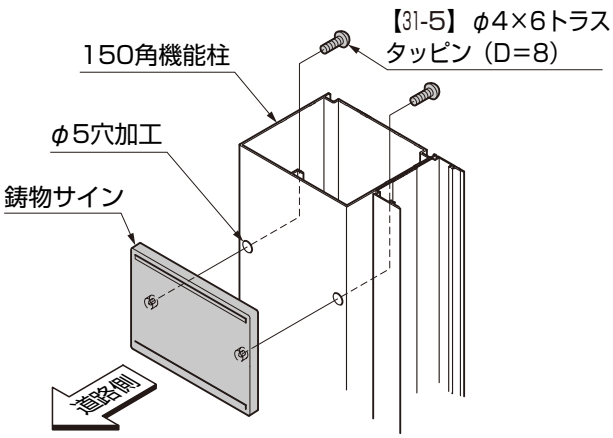


図5-4 側面図



①150角機能柱にφ5の穴加工をしてください。
②鋳物サインを150角機能柱に【31-5】で取付けてください。

5-3 ステンレスサインの取付け

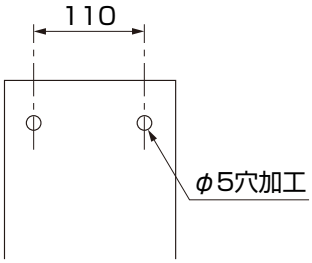


図5-5 穴加工

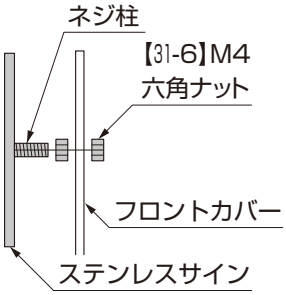
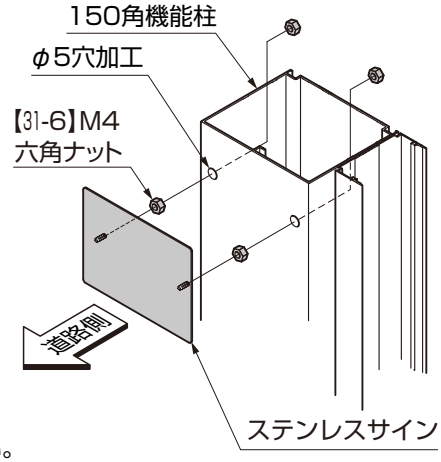


図5-6 側面図



①150角機能柱にφ5の穴加工をしてください。
②ステンレスサインを150角機能柱に【31-6】で取付けてください。

5-4 備前焼サインの取付け

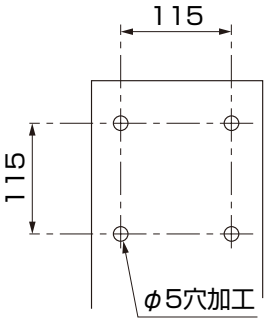


図5-7　穴加工

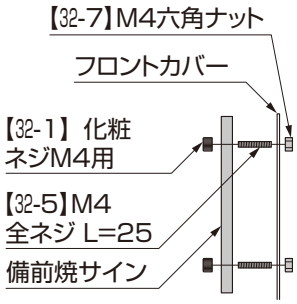
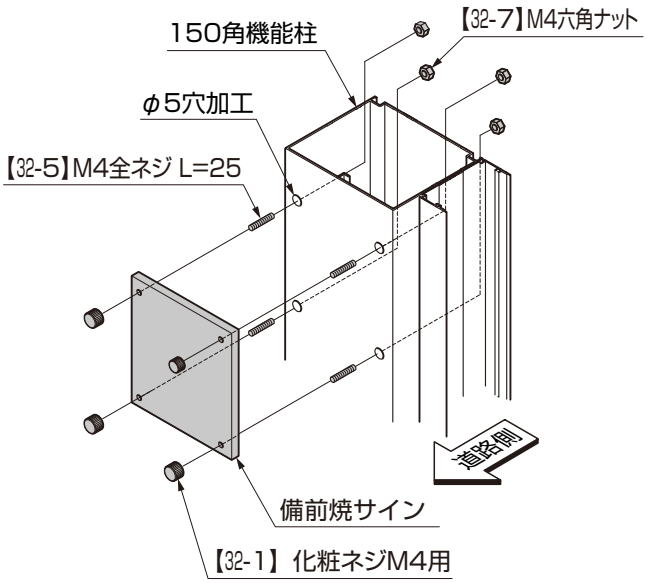


図5-8　側面図



①150角機能柱にφ5の穴加工をしてください。
②備前焼サインを150角機能柱に【32-1】、【32-5】、【32-7】で取付けてください。

5-5 江戸硝子サインの取付け

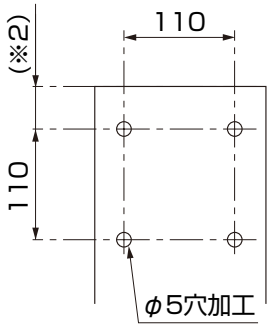


図5-9　穴加工

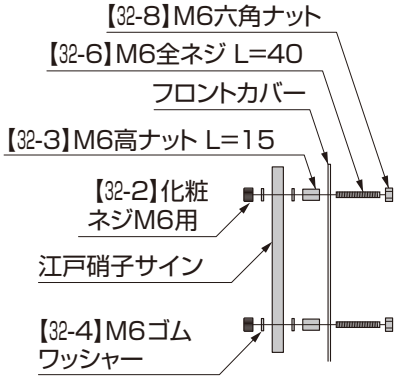
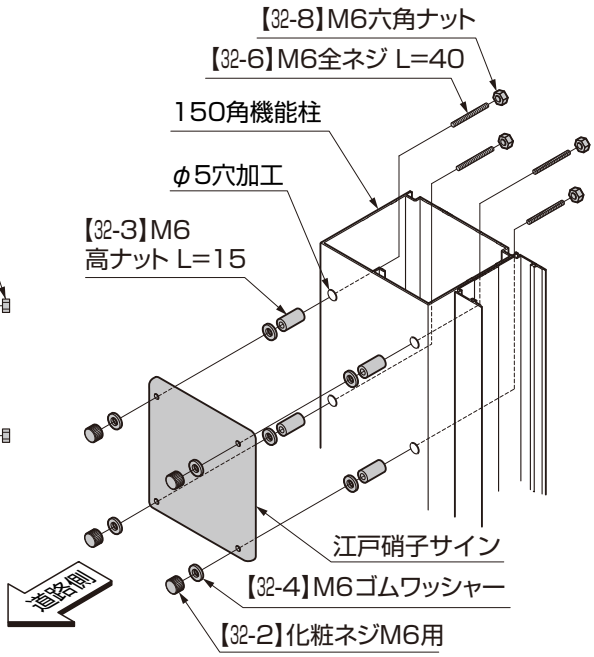


図5-10　側面図

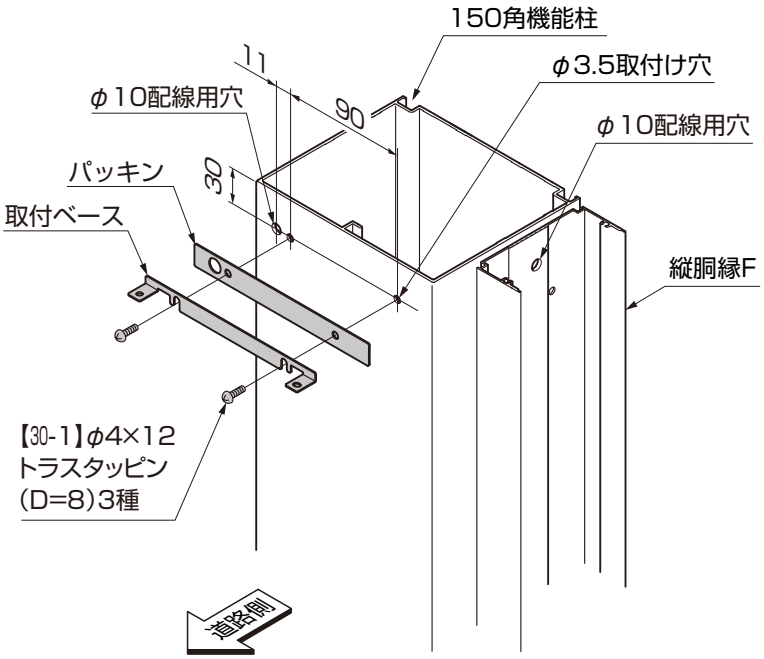


①150角機能柱にφ5の穴加工をしてください。
②江戸硝子サインを150角機能柱に【32-2】、【32-3】、【32-4】、【32-6】、【32-8】で取付けてください。

ポイント

●江戸硝子サインの上に表札灯を取付ける場合、150角機能柱とサインの取付け穴の寸法を60mm以上あけてください。(※2)

6. 表札灯の取付け オプション



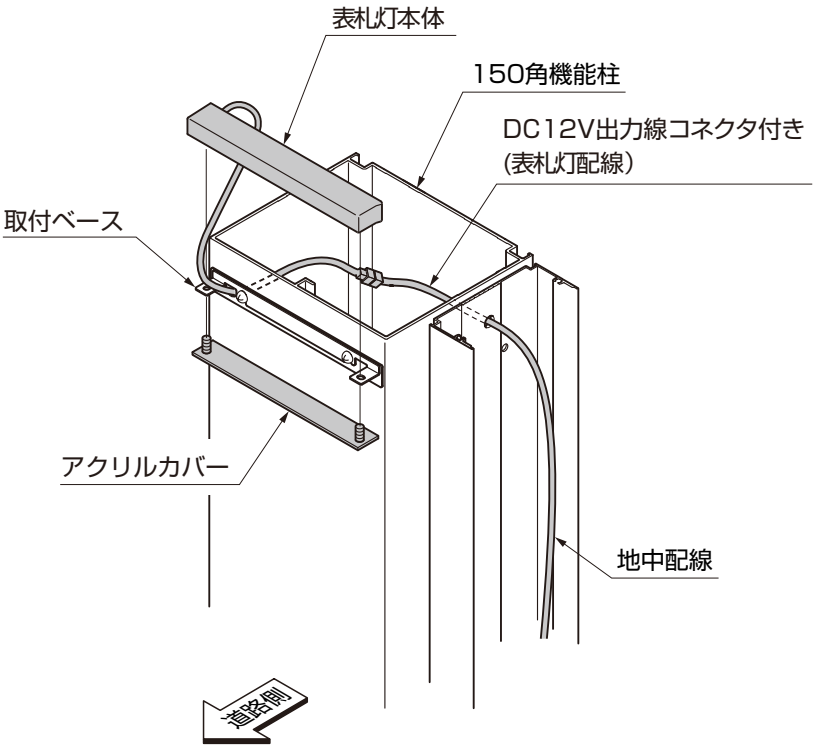
①150角機能柱にφ3.5の取付け穴とφ10の配線用穴を、縦胴縁Fにはφ10の配線用穴を加工します。

②パッキンのハク離テープをはがし、150角機能柱に加工した穴に合わせて貼付けます。

③表札灯のアクリルカバーを外し、取付ベースを150角機能柱に【30-1】で固定してください。

補 足

●表札灯本体、取付ベース、アクリルカバーは、仮組付けしてあります。取付けの際に各部品を取外してください。



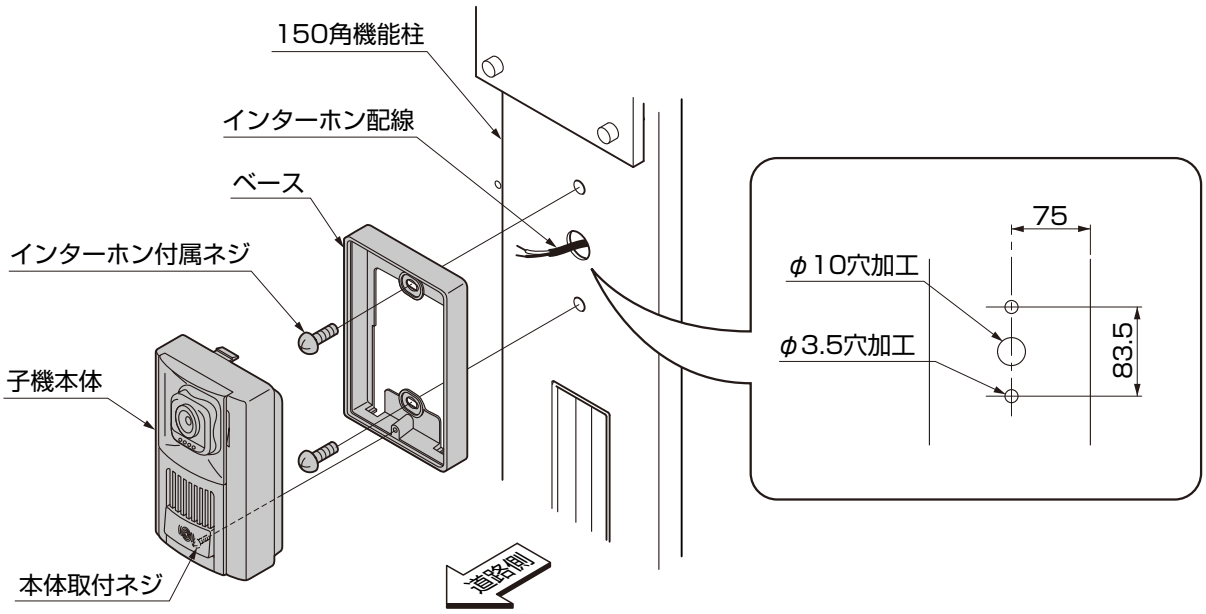
ポイント

●アクリルカバーの固定ネジは強く締め付けないでください。アクリルカバーが破損します。
●接続しないコネクタ付き配線は防水テーピング処理を施してください。

④配線用穴から表札灯本体の配線を通し、地中配線と接続してください。

⑤表札灯本体とアクリルカバーを取付ベースにアクリルカバーに付いているネジで共締めしてください。

7. インターホンの取付け



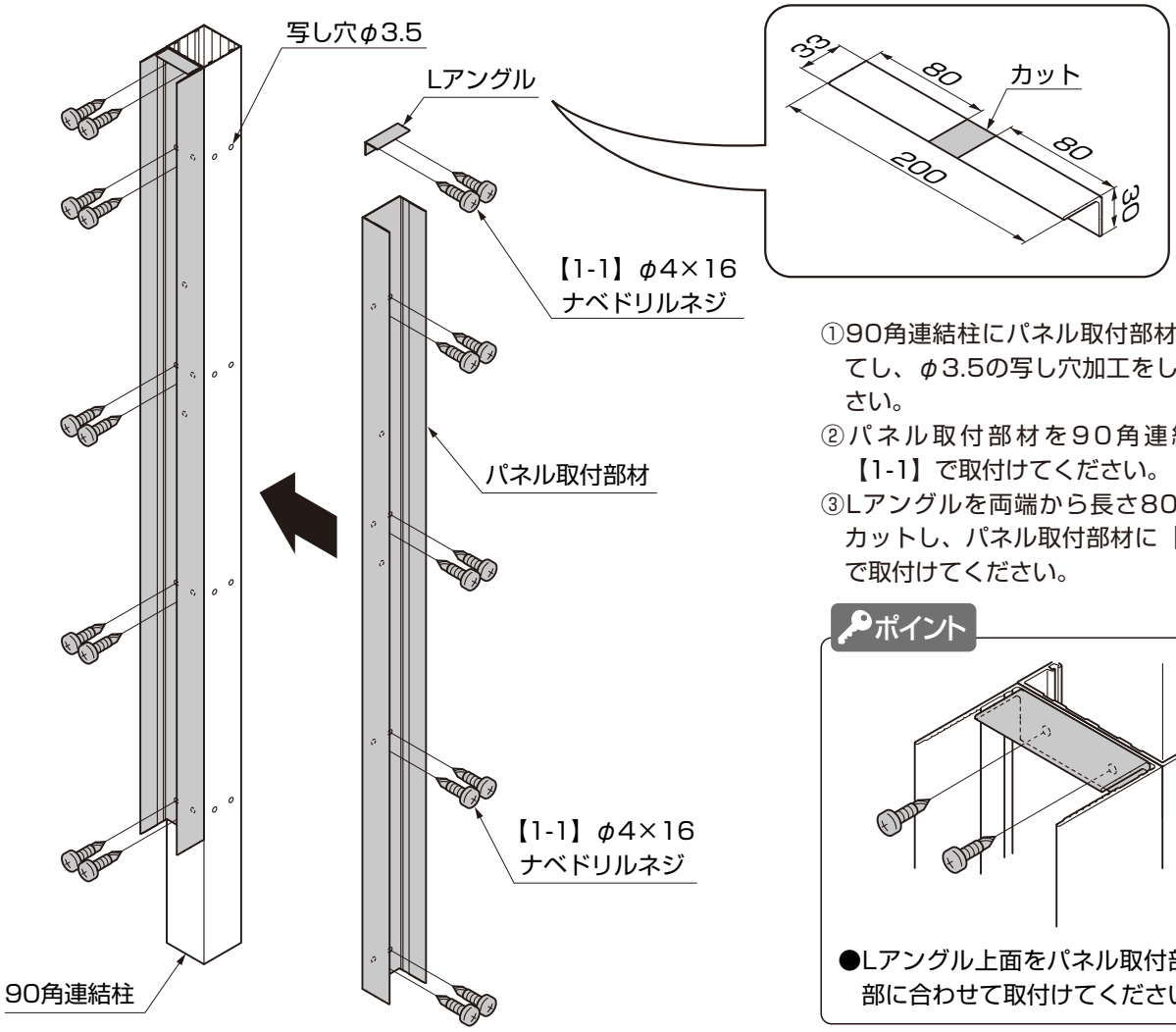
①150角機能柱に配線用穴φ10と取付用穴φ3.5をあけてください。
②ベースを付属ネジで固定してください。
③インターホン子機の取付けおよび配線を行なってください。

ポイント

●配線の詳細は、インターホン子機の取付説明書を参照してください。

メモ

8. パネル取付部材の取付け　※L字連結の場合の作業です。



①90角連結柱にパネル取付部材を仮当てし、φ3.5の写し穴加工をしてください。
②パネル取付部材を90角連結柱に【1-1】で取付けてください。
③Lアングルを両端から長さ80mmでカットし、パネル取付部材に【1-1】で取付けてください。

ポイント

●Lアングル上面をパネル取付部材端部に合わせて取付けてください。

9. 巾木Bの加工

9-1　切断と取付穴の加工

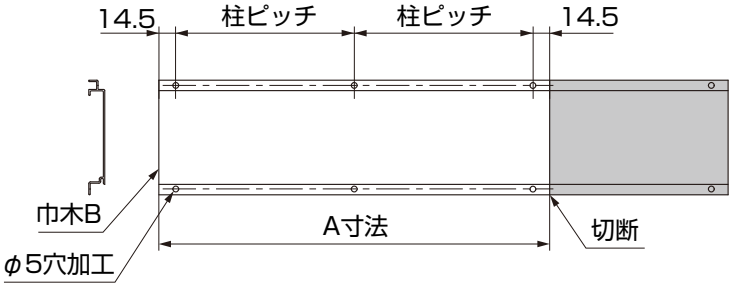


表9-1

サイズ	A寸法
W05	569
W08	779
W10	1069
W20	2069

①巾木Bを切断してください。

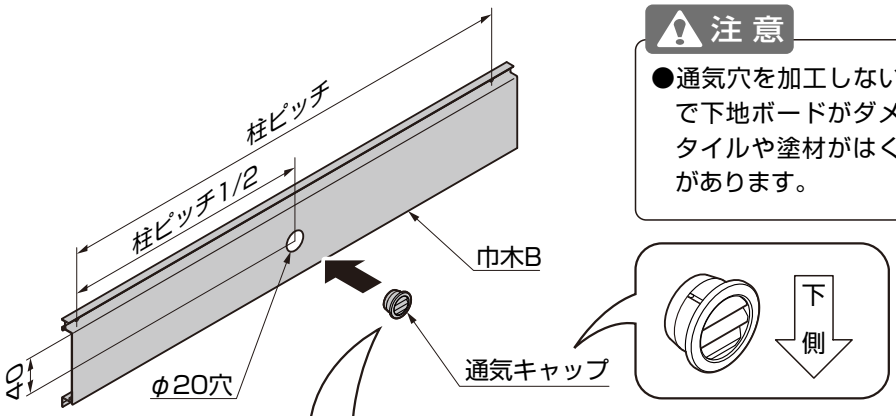
ポイント

●150角機能柱に接続する場合は加工の必要ありません。
●W30、L字連結の場合は、現場に合わせて加工してください。

9.（つづき）

9-2　通気キャップの取付け

※家側に取付ける巾木Bのみ
※全ての柱間の巾木中央に取付けます。



注 意

●通気穴を加工しないと、結露などで下地ボードがダメージを受け、タイルや塗材がはく離するおそれがあります。

[通気キャップの取付け位置]

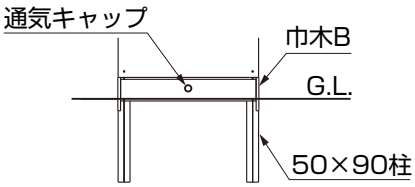


図9-1　W05の場合

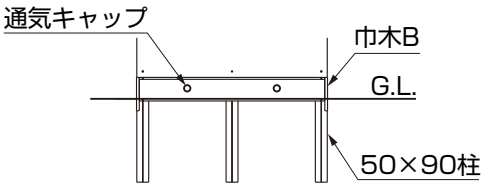


図9-2　W08の場合

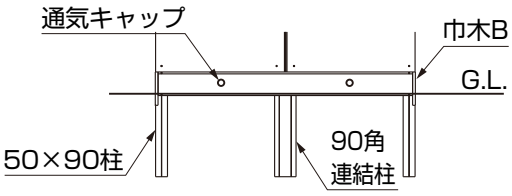


図9-3　W10の場合

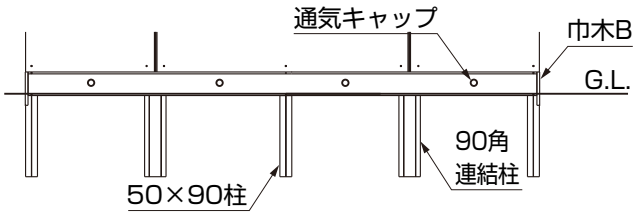


図9-4　W20の場合

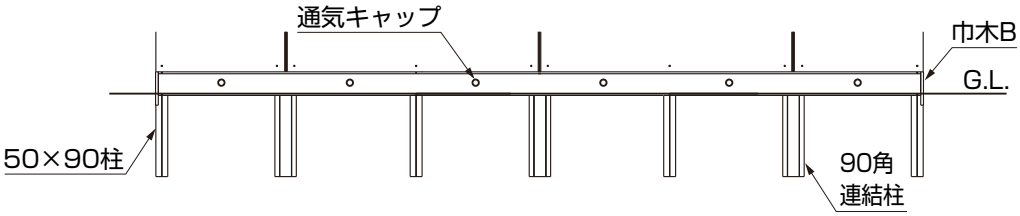


図9-5　W30の場合

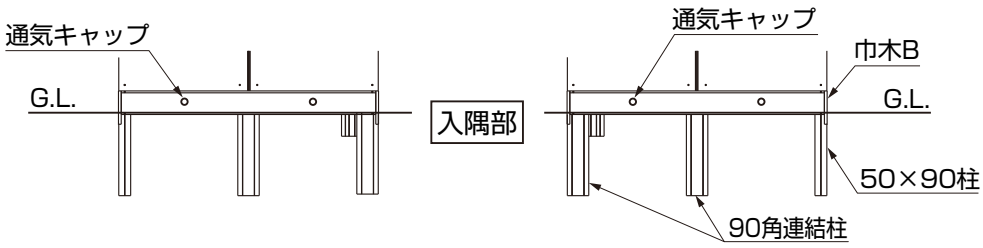


図9-6　L字連結の場合

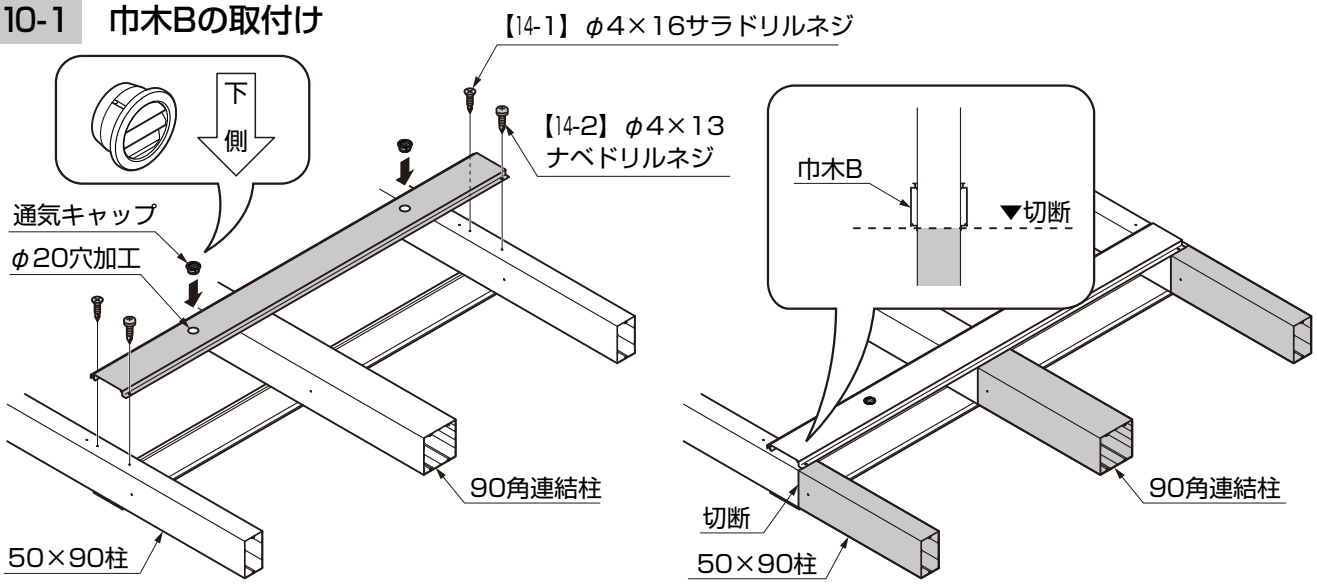
①巾木Bにφ20の穴加工をし、通気キャップをはめてください。

10. ベースプレートの取付け　※柱をベースプレートを使用して建込む場合の作業です。

ポイント

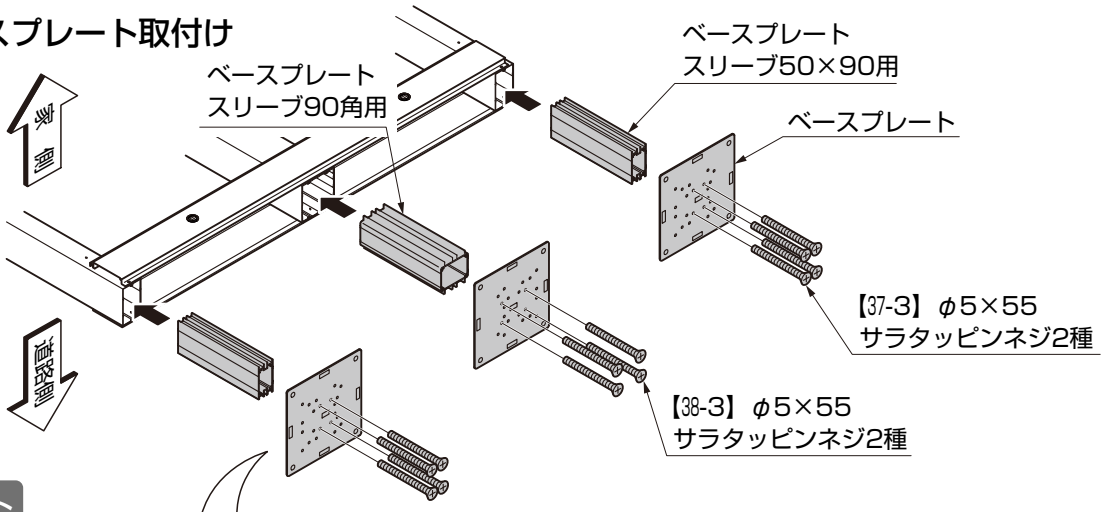
●門柱仕様にはベースプレートを使用できません。
●ベースプレートでの施工はW10まで可能です。

10-1　巾木Bの取付け



①家側の巾木Bにφ20穴加工をし、通気キャップをはめ込んでください。
②巾木Bを柱に【14-1】、【14-2】で取付けてください。
③柱を切断してください。

10-2　ベースプレート取付け



ポイント

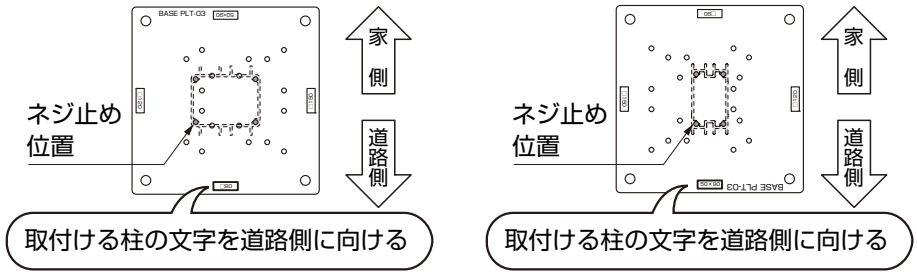


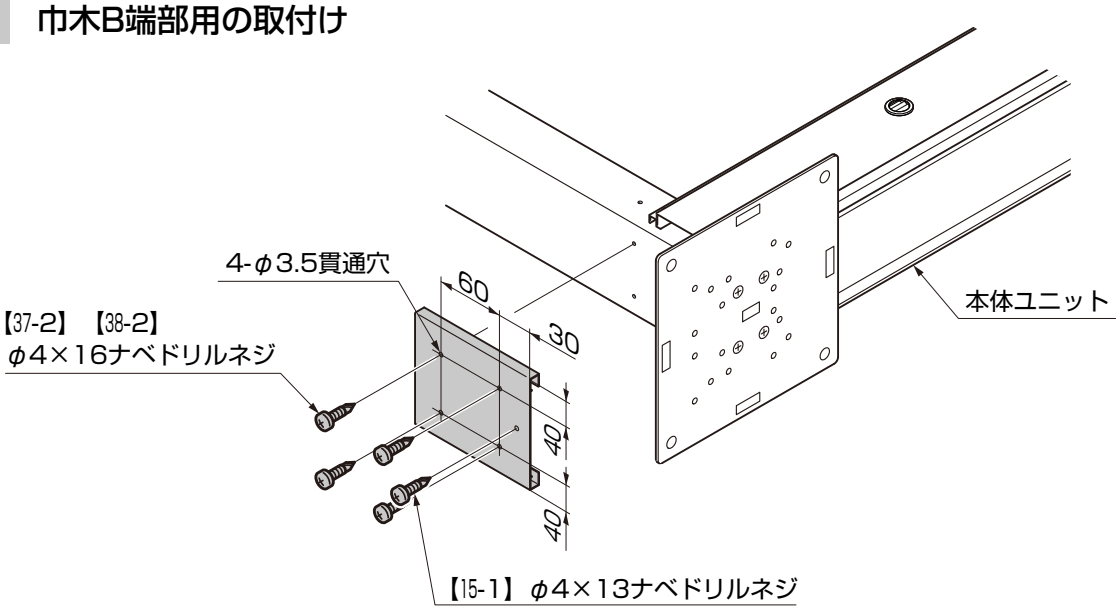
図10-1 90角用　　図10-2 50×90用

●取付ける向きを間違えないでください。

①ベースプレートスリーブとベースプレートを【37-3】、【38-3】で固定してください。
②ベースプレートスリーブを柱に挿入してください。

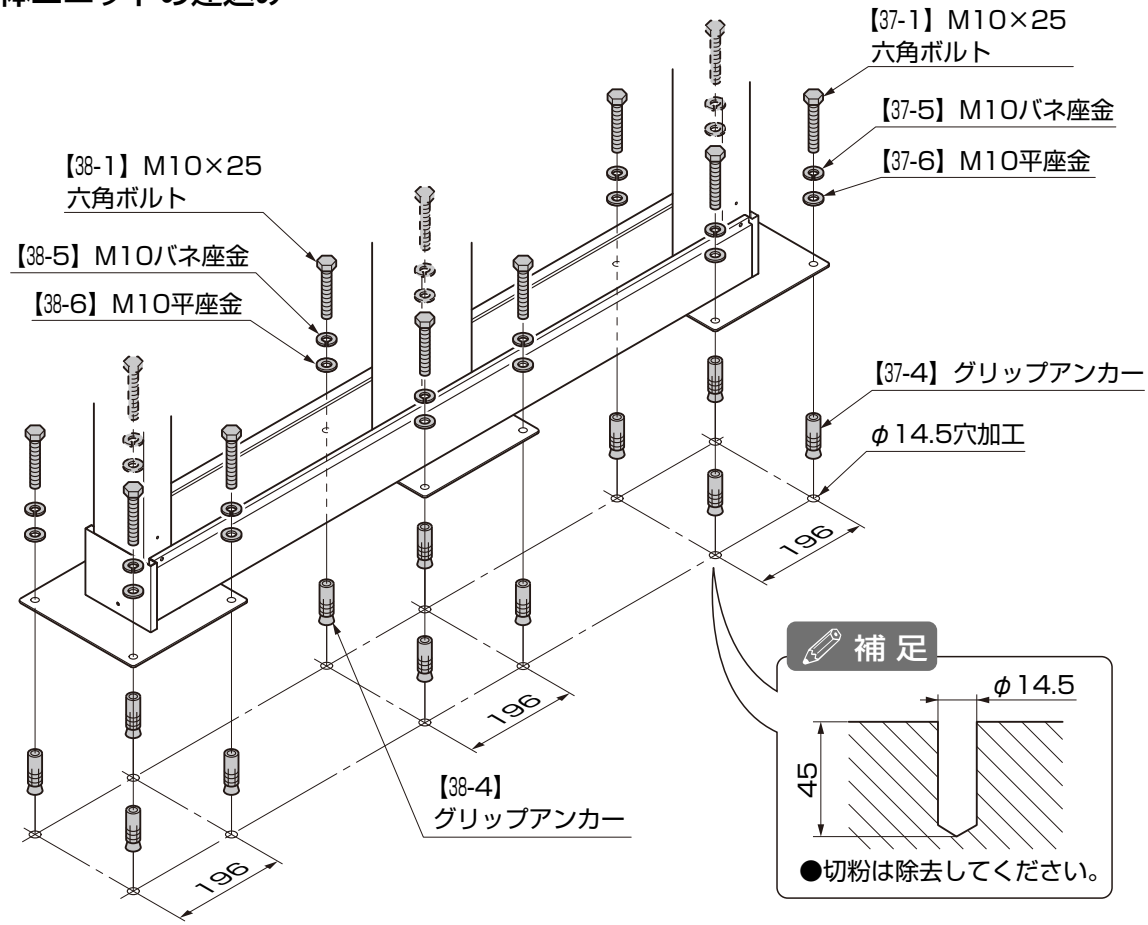
10.（つづき）

10-3　巾木B端部用の取付け



①巾木B端部用を柱にあてがいφ3.5の貫通穴をあけてください。
②巾木B端部用を柱に【15-1】、【37-2】、【38-2】で取付けてください。

10-4　本体ユニットの建込み

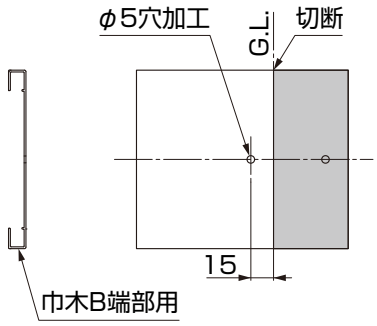


①土間にφ14.5の穴加工をし【37-4】、【38-4】を打ち込んでください。
②本体ユニットを土間に【37-1】、【37-5】、【37-6】、【38-1】、【38-5】、【38-6】で取付けてください。

11. 巾木の取付け

11-1 巾木B 端部用の取付け

ポイント



●巾木延長部材 オプション
を取付ける場合は、巾木B端部用に加工が必要になります。

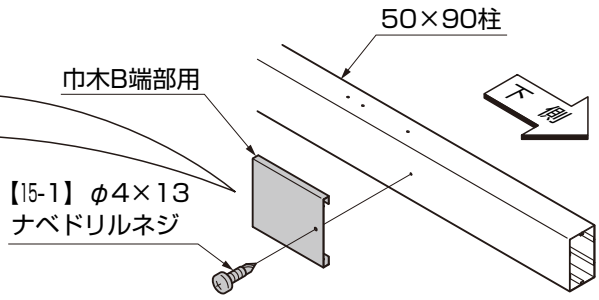
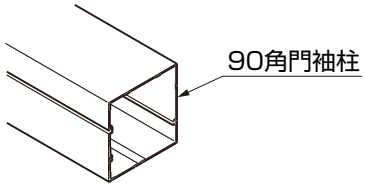


図11-1　直線接続の場合

補 足

●門扉を取付ける場合、門扉取付け側の柱は90角門袖柱となります。



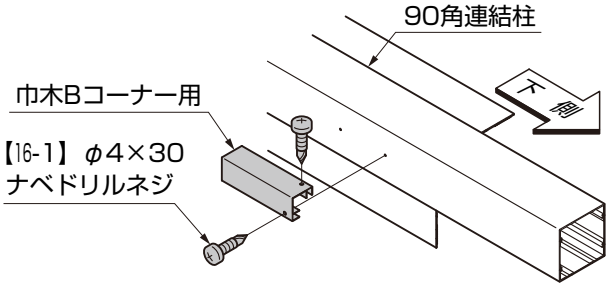
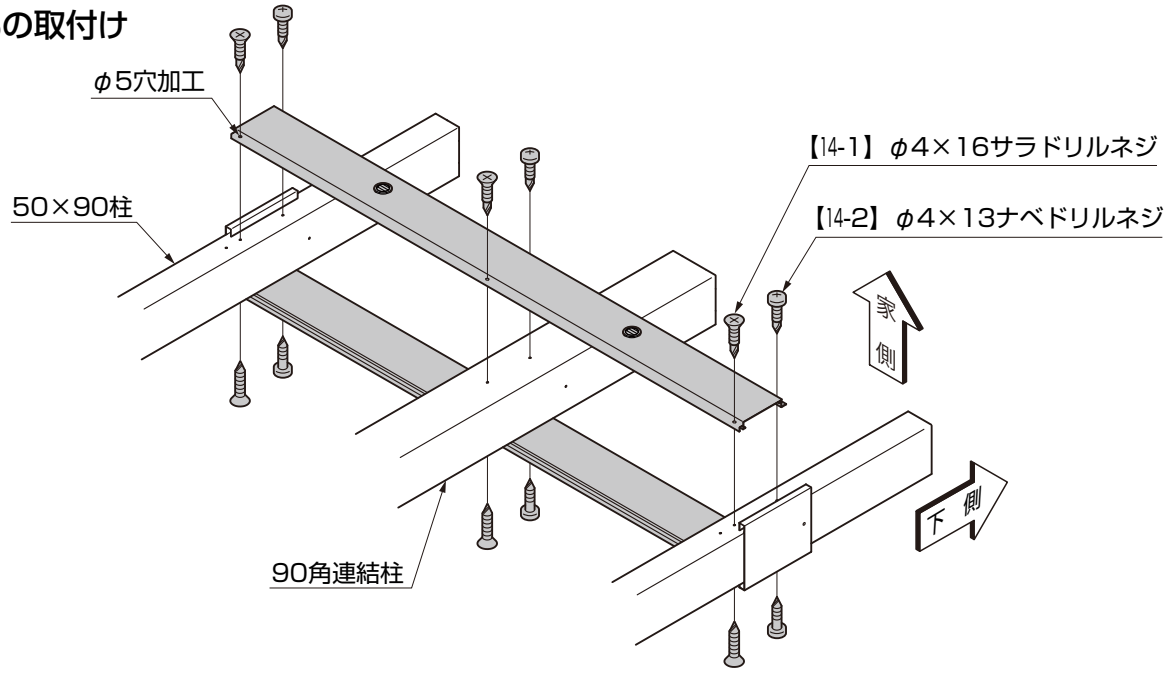


図11-2　L字連結の場合

①巾木B端部用または巾木Bコーナー用を柱に【15-1】、【16-1】で取付けてください。

11-2 巾木Bの取付け

(1)巾木Bの取付け

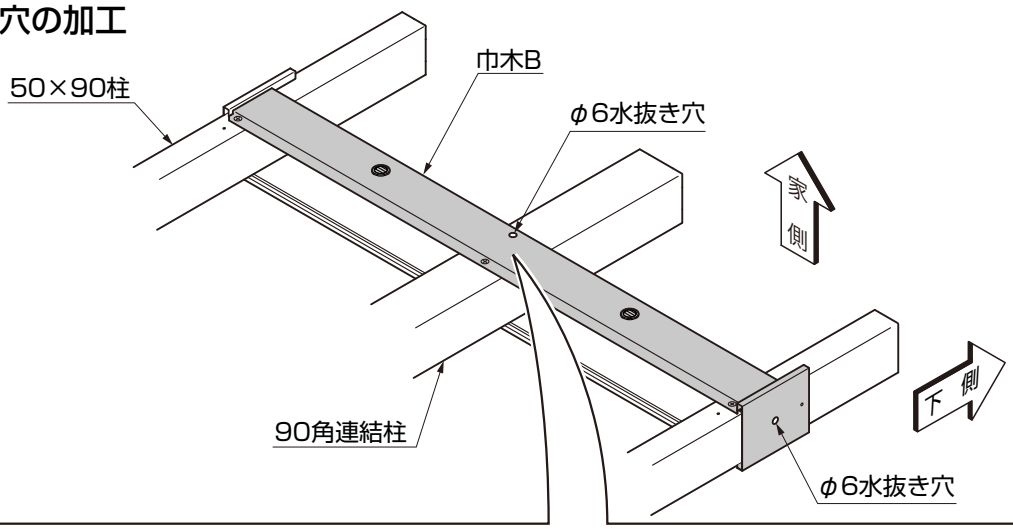


①巾木Bを50×90柱、90角連結柱に【14-1】、【14-2】で取付けてください。

11.（つづき）

11-2 つづき

(2)水抜き穴の加工



[水抜き穴の加工位置]

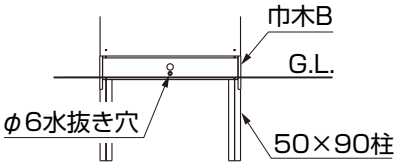


図11-3　W05の場合

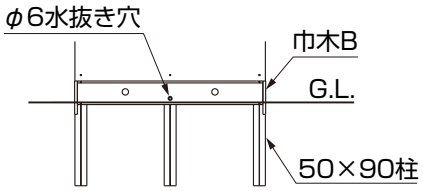


図11-4　W08の場合

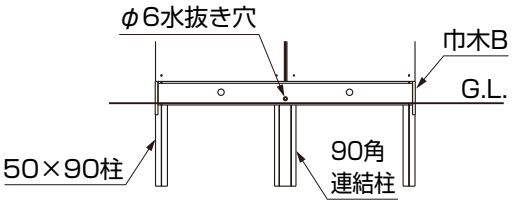


図11-5　W10の場合

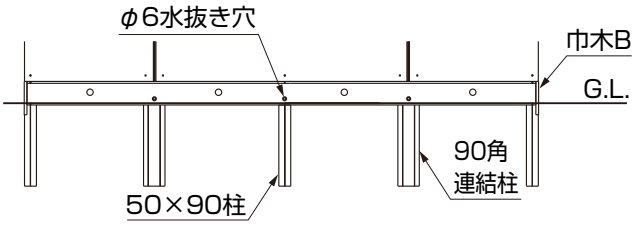


図11-6　W20の場合

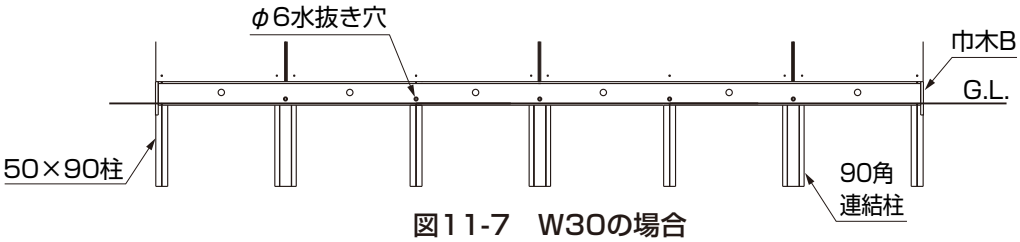


図11-7　W30の場合

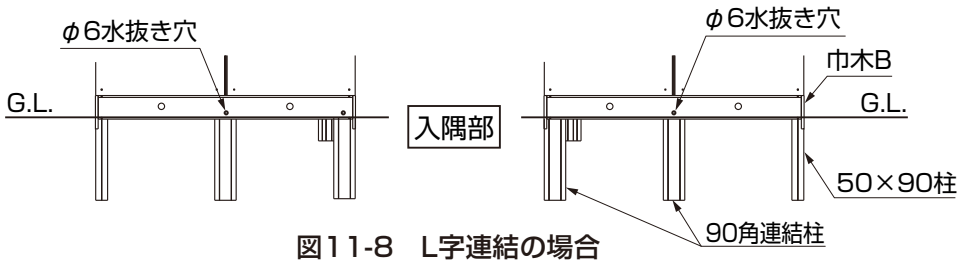
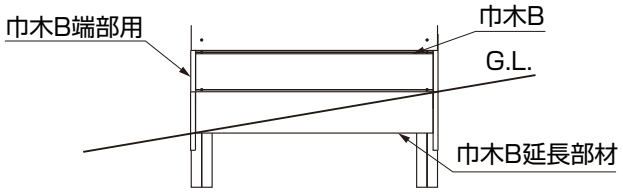


図11-8　L字連結の場合

①両小口面の巾木B端部用と家側の巾木Bにφ6の水抜き穴をあけてください。水抜き穴加工は、必ず柱まで貫通させてください。

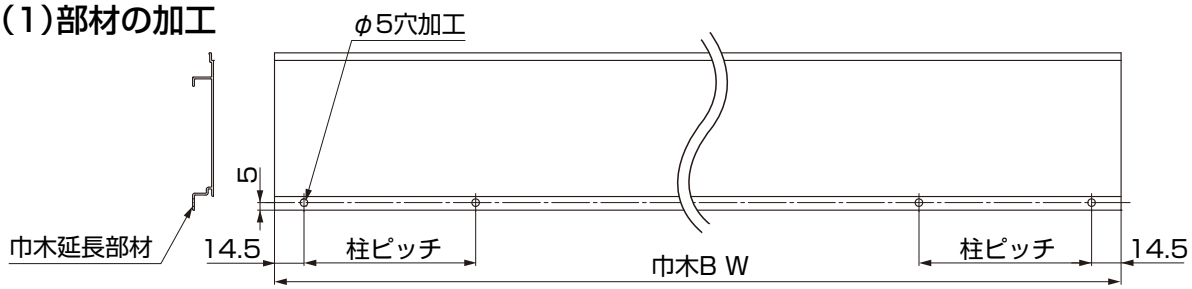
11-3 巾木延長部材の取付け オプション

補 足



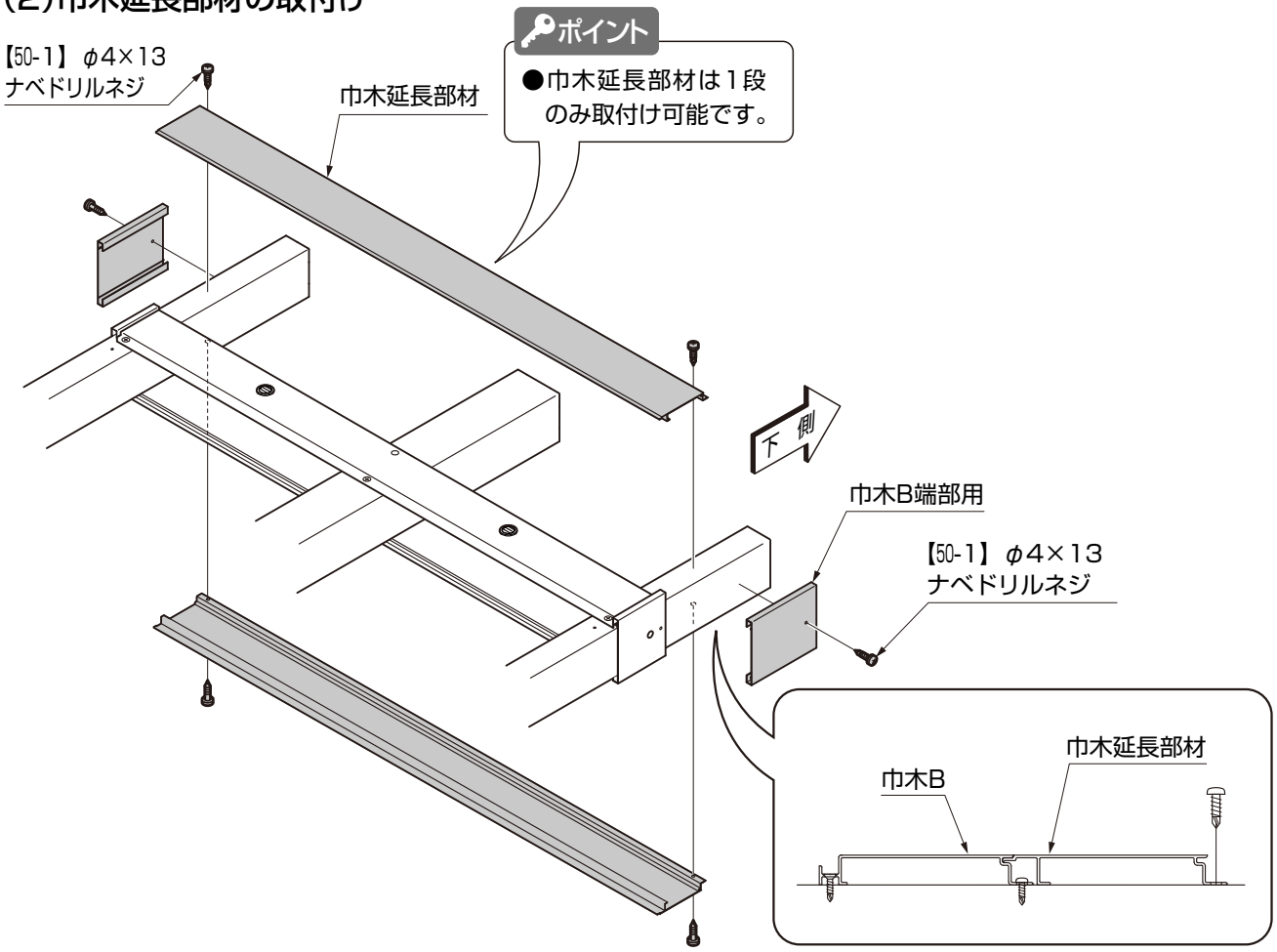
●巾木延長部材は傾斜地に施工する際に取付ける部品です。
●150角門柱には取付けできません。

(1)部材の加工



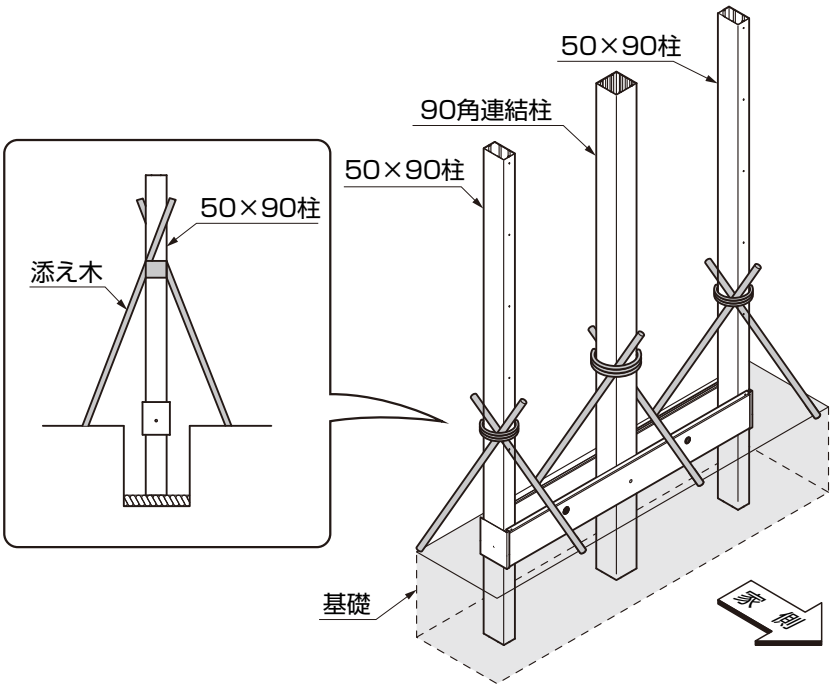
①巾木BのWサイズに合わせて、巾木延長部材を切断し、φ5の穴加工をしてください。

(2)巾木延長部材の取付け



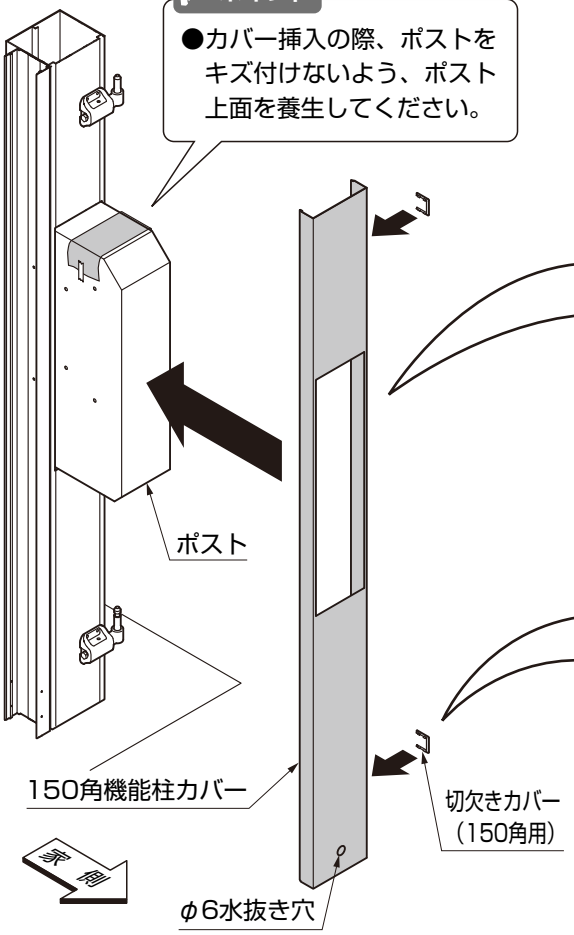
①巾木延長部材の上側を巾木Bの下側に差し込み、本体ユニットに【50-1】で取付けてください。

12. 柱の建込み、基礎の施工



①柱を基礎穴に建込み、添え木などで仮固定してください。
②基礎を施工してください。

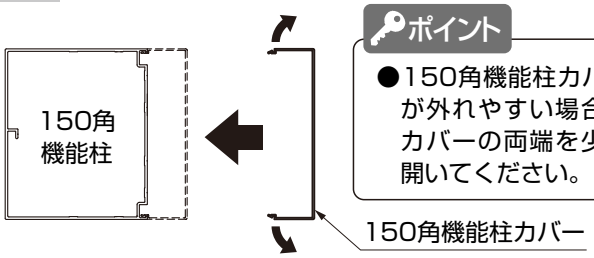
13. 機能柱カバーの取付け



ポイント

●カバー挿入の際、ポストをキズ付けないよう、ポスト上面を養生してください。

13-1 150角機能柱カバー



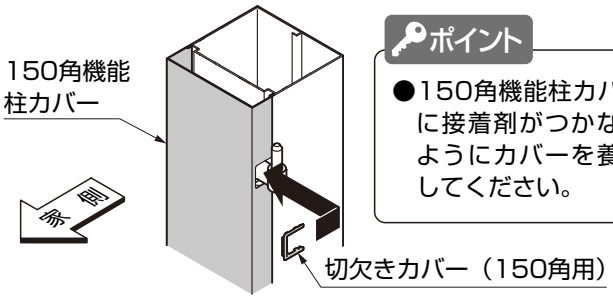
ポイント

●150角機能柱カバーが外れやすい場合はカバーの両端を少し開いてください。

①150角機能柱カバーのセンターG.L.付近にφ6穴の水抜き穴の加工をしてください。
②基礎の養生が完了したら、150角機能柱カバーを150角機能柱にはめ込んでください。

13-2 切欠きカバー（150角用）の取付け

※門柱仕様の場合です。



ポイント

●150角機能柱カバーに接着剤がつかないようにカバーを養生してください。

①切欠きカバー（150角用）を150角機能柱カバーに取付けてください。

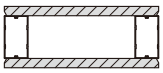
14. 下地ボードの取付け

14-1 下地ボードの配置確認

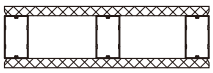
ポイント

●下地ボードのジョイント部にはかならず90角連結柱を使用してください。
●下地ボードW08単体、W10中間には、かならず下地ボード中央に50×90柱を使用してください。

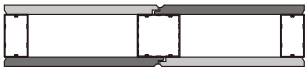
[W05]



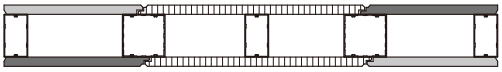
[W08]



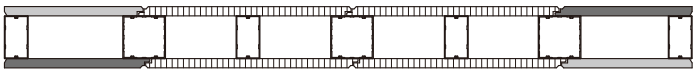
[W10]



[W20]



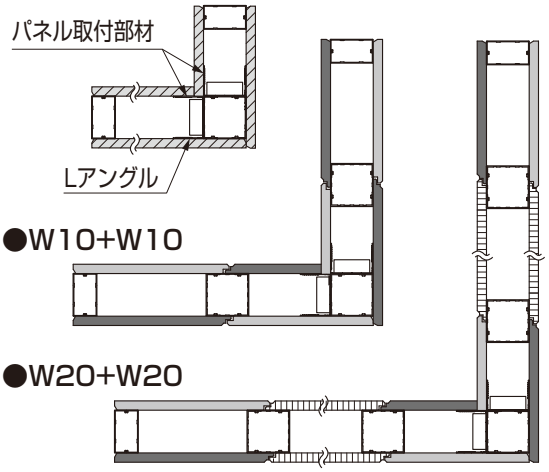
[W30]



①下地ボードの配置を確認してください。

[L字連結]

●W05+W05

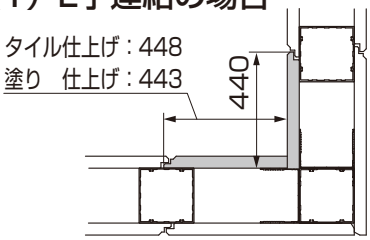


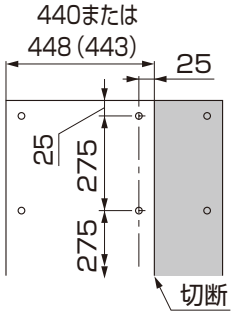
●W10+W10

●W20+W20

14-2 下地ボードの加工

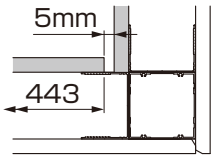
（1）L字連結の場合





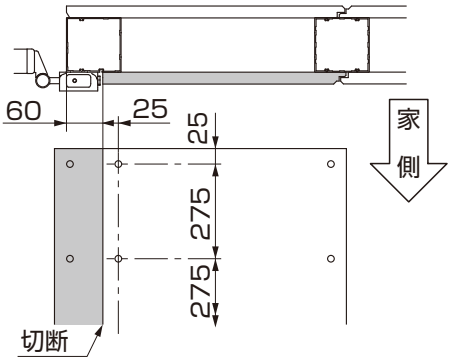
ポイント

●塗り仕上げの場合、連結部内側のボードに5mmの目地を取ってください。



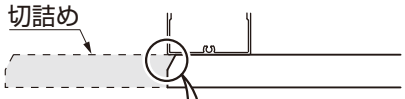
①内側のコーナー部に納める下地ボードを加工してください。
②切断面に小口シーラーを塗布してください。

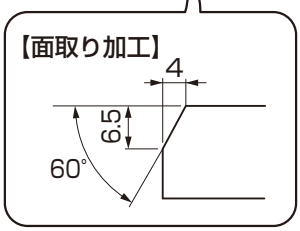
（2）W10、W20、W30で門扉を吊る場合



①門扉よりの下地ボードを加工してください。
②切断面に小口シーラーを塗布してください。

（3）塗り仕上げで下地ボードを切詰める場合





ポイント

●面取りを行なわないと「塗り材」のクラック発生の原因となります。

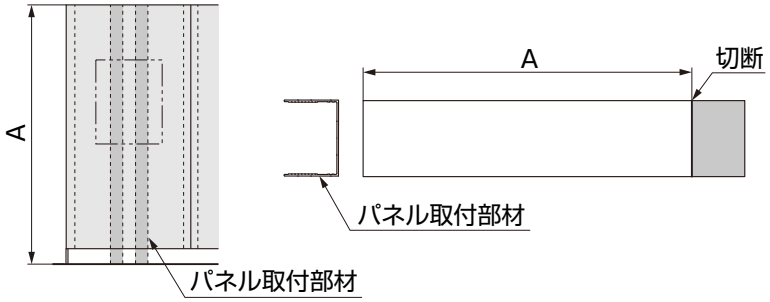
①切詰め後、面取り加工してください。
②切断面に小口シーラーを塗布してください。

14.（つづき）

14-3 下地ボードの取付け：壁付タイプのポストを選択の場合

※壁付ポストを選択していない場合は、14-4 へ進んでください。

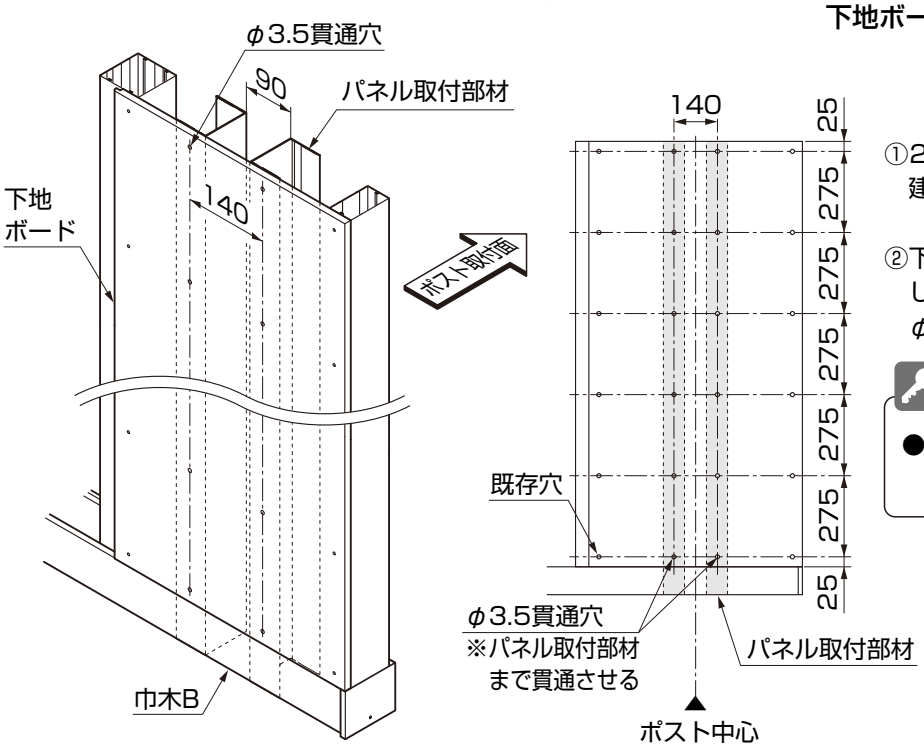
（1）パネル取付部材の切断



①2本のパネル取付部材を切断してください。

（2）パネル取付部材、下地ボード（片面）の穴加工

※ポスト取付面の逆側のパネル取付部材と下地ボードのみ



①2本のパネル取付部材を巾木Bの間に建ててください。

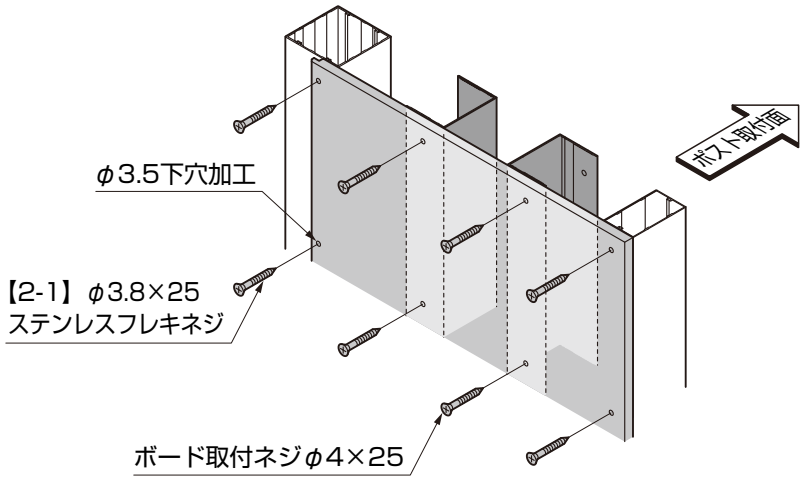
②下地ボードをパネル取付部材に仮当てし、下地ボードの既存穴と同じ高さにφ3.5の貫通穴をあけてください。

ポイント

●加工穴はパネル取付部材まで貫通させてください。

（3）パネル取付部材、下地ボード（片面）の取付け

※ポスト取付面の逆側の下地ボードのみ



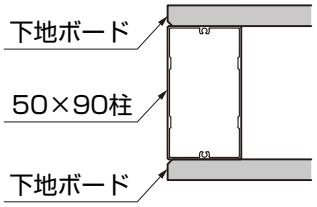
①下地ボードの既存穴の位置で柱にφ3.5の穴加工をしてください。

②下地ボードをパネル取付部材に「ボード取付ネジφ4×25」で取付けてください。

③下地ボードを柱に【2-1】で取付けてください。

14-4 下地ボードの取付け

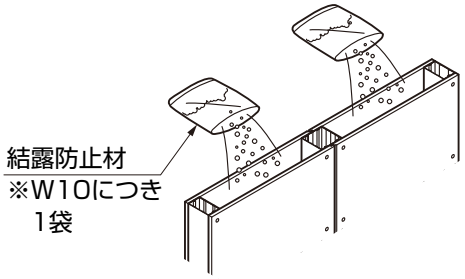
ポイント

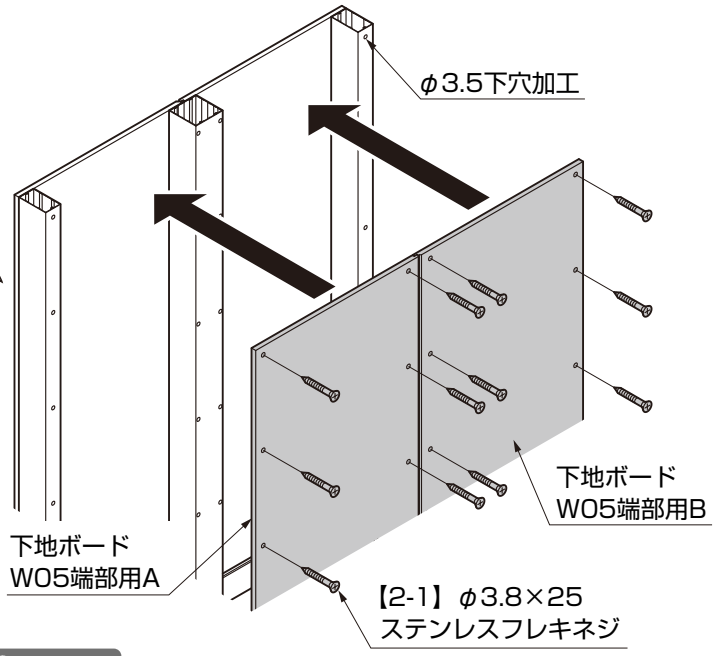


●50×90柱と下地ボードになるべく段差ができないように取付けてください。

ポイント

●結露が予測される場所に設置する場合は、柱間に結露防止材を均等に入れてください。





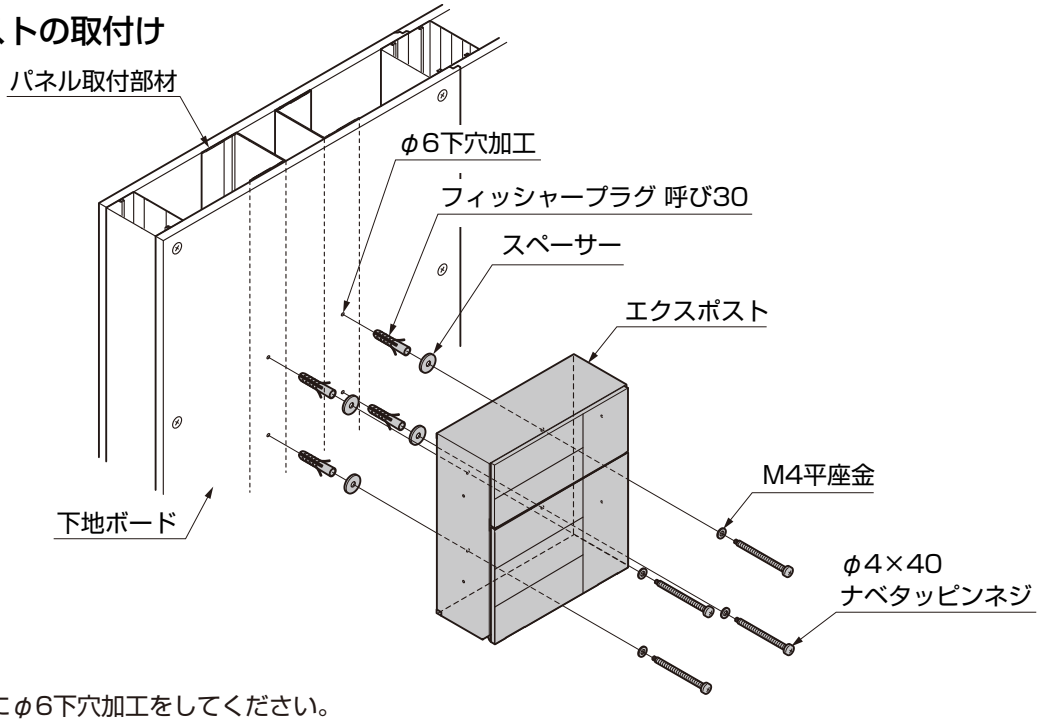
ポイント

●下地ボードを現場切断した場合は、切断面にかならず小口シーラーを塗付してください。

●下地ボード取付ネジの頭を下地ボードの面に合せ、フラットになるまで締め付けてください。締め過ぎるとボードが割れるおそれがあるので注意してください。

①柱に下地ボードを仮当てし、φ3.5の穴加工をしてください。
②下地ボードを柱に【2-1】で取付けてください。

14-5 壁付ポストの取付け



①下地ボードにφ6下穴加工をしてください。
②フィッシャープラグを使用し、ポストを「M4平座金」「φ4×40ナベッピンネジ」で取付けてください。

15. サイン・LEDブラケット・インターホンの取付け

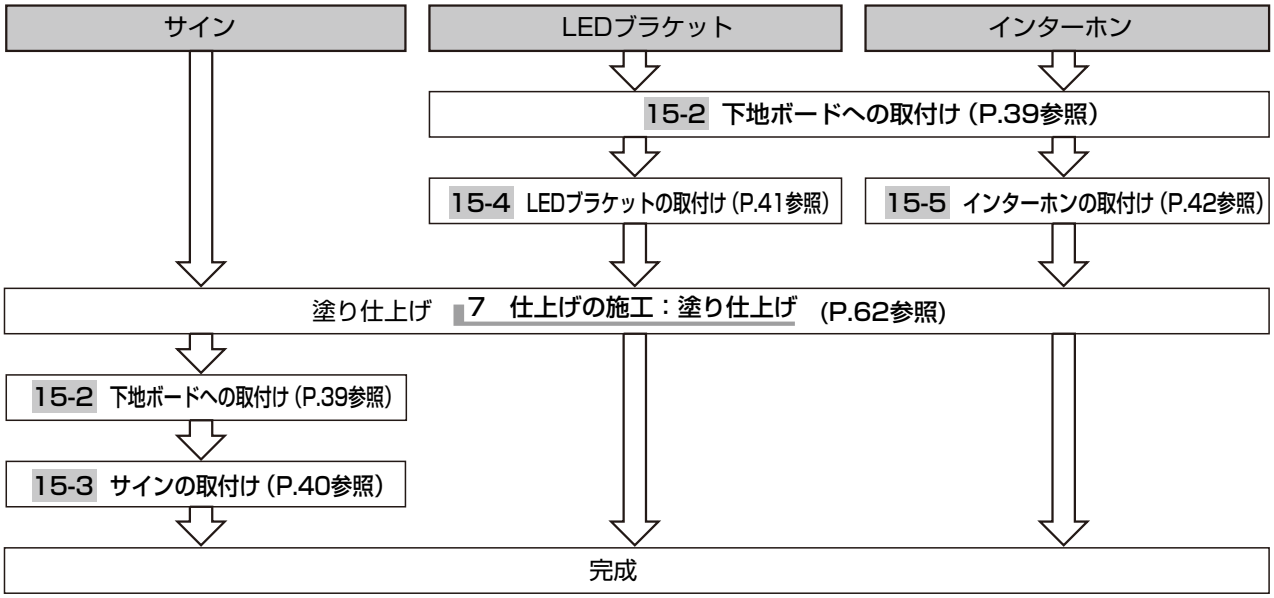
※壁面に各部品を取付ける場合の手順です。

15-1 施工の流れの確認

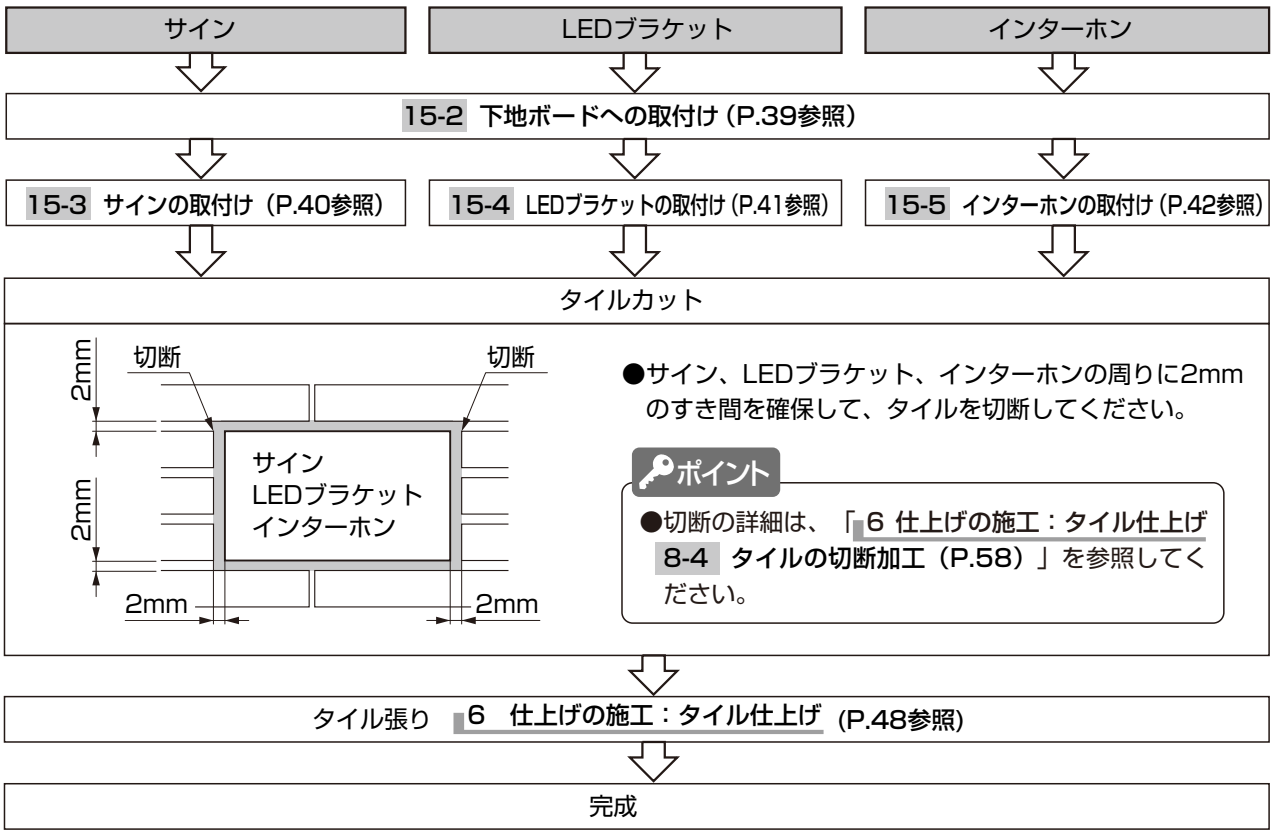
ポイント

●サイン・LEDブラケット・インターホンの取付けから完成までの手順は「タイル仕上げ」と「塗り仕上げ」で異なります。下記手順を参照し、それぞれの部品を取付けてください。

（1）塗り仕上げの場合



（2）タイル仕上げの場合

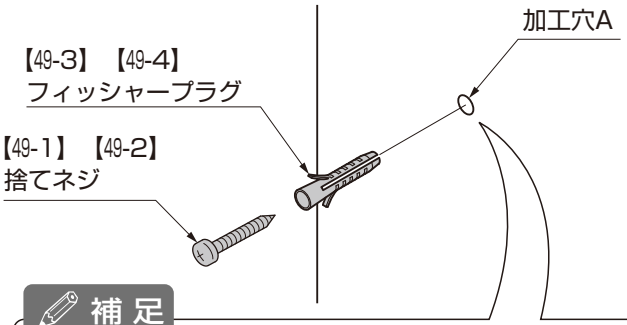


15-2 下地ボードへの取付け

（1）フィッシャープラグの場合

ポイント

●サイン、LEDブラケット、インターホンにカールプラグボルトが同梱されてない場合、「サイン・照明取付材セット」に同梱のフィッシャープラグを使用します。
●デザイナーズパーツの角面材を取付ける場合は「サイン・照明取付材セット」のフィッシャープラグS6を使用してください。1.5mあたり4本（1セット分）



①取付け面に下穴加工をしてください。

注 意

●指定より大きいサイズの穴加工はしないでください。サイン、LEDブラケット、インターホンが落下し、ケガをするおそれがあります。

補 足

表15-1

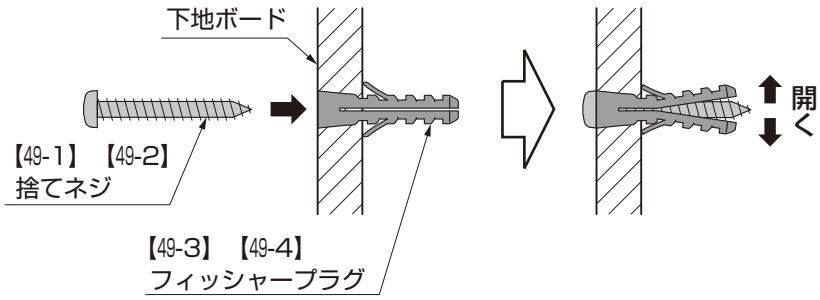
取付ネジサイズ	フィッシャープラグ	加工穴A	捨てネジ（ナベタッピンネジ1種）
φ4～φ5	【49-3】S6	φ6	【49-1】φ4×40
φ4.5～φ6	【49-4】S8	φ8	【49-2】φ5×40

●各部品に付属の取付ネジから、使用するフィッシャープラグを選択し加工穴を決めます。

②加工穴に【49-3】または【49-4】を差込み、捨てネジ【49-1】または【49-2】を取付けてください。

ポイント

●必ず捨てネジは根元までねじ込んでください。

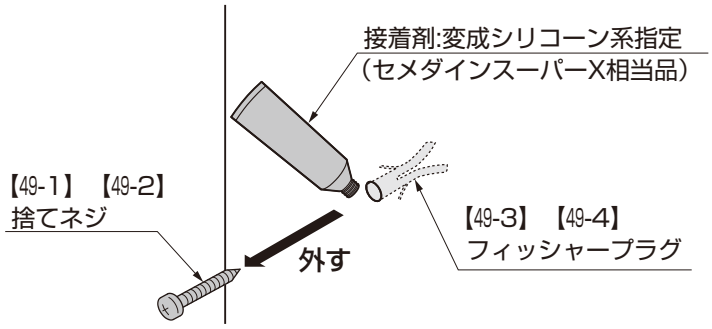


③捨てネジ【49-1】または【49-2】を取外してください。

④接着剤（現場手配）でフィッシャープラグにシーリングしてください。

ポイント

●部品取付けの際、接着剤がはみ出さない量を注入してください。



⑤各部品（サイン、LEDブラケット、インターホン）の取付けを行なってください。

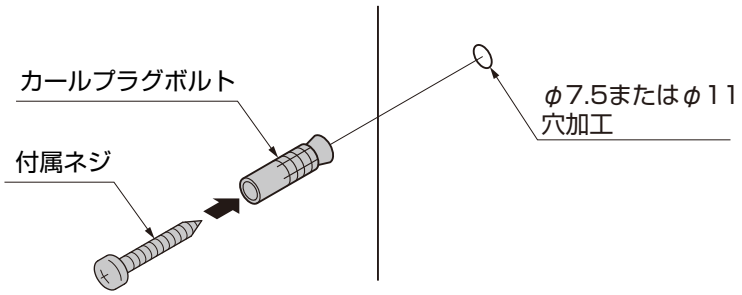
ポイント

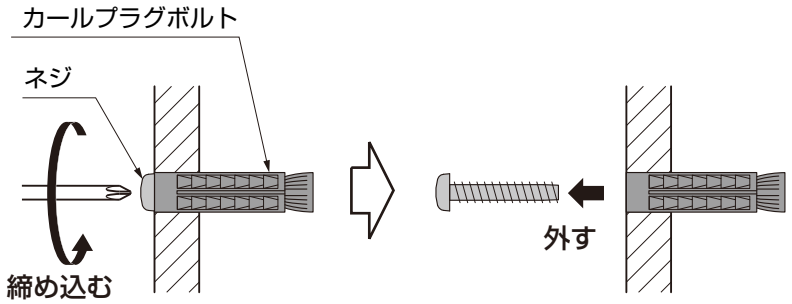
●指定以外のシーリング材を使うとタイル接着剤や塗材の密着性低下の原因になります。

15.（つづき）

15-2 つづき

（2）カールプラグボルトの取付け





①取付位置にφ7.5またはφ11の下穴加工をしてください。

②加工穴に「M6（M8）用カールプラグボルト」を差込み、「ネジ」を締め込んでください。

ポイント

●カールプラグボルトは下地ボードと面合わせで差込んでください。

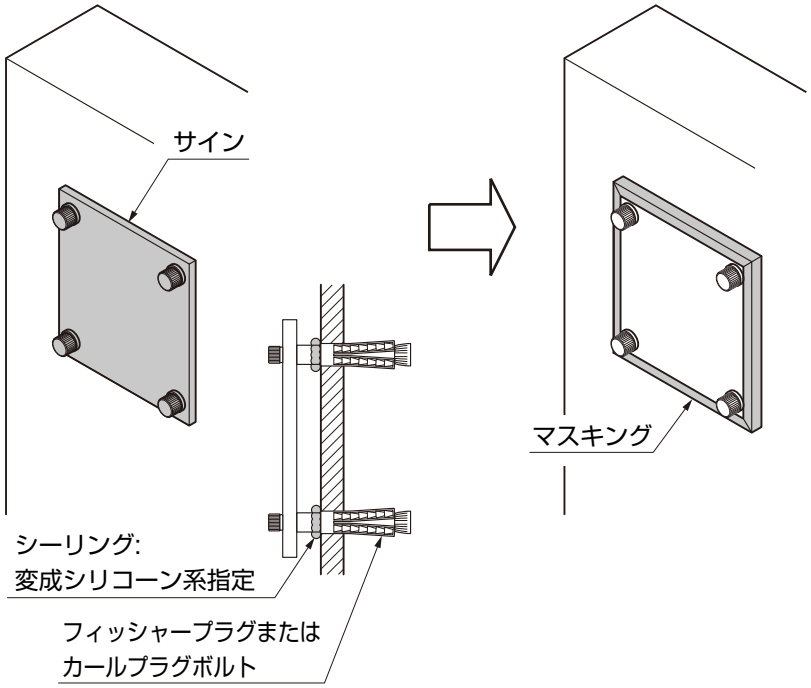
③「ネジ」を一旦取外してください。

④各部品（サイン、LEDブラケット、インターホン）の取付けを行なってください。

15-3 サインの取付け

ポイント

●アイサイン、ステンレスサインWは、フィッシャープラグでの固定以外にサイン裏面と取付けるボンド面を清掃し、現場手配の接着剤を両面に適量塗ってください。



①サインに付属の取付説明書を参照し、サインを取付けてください。

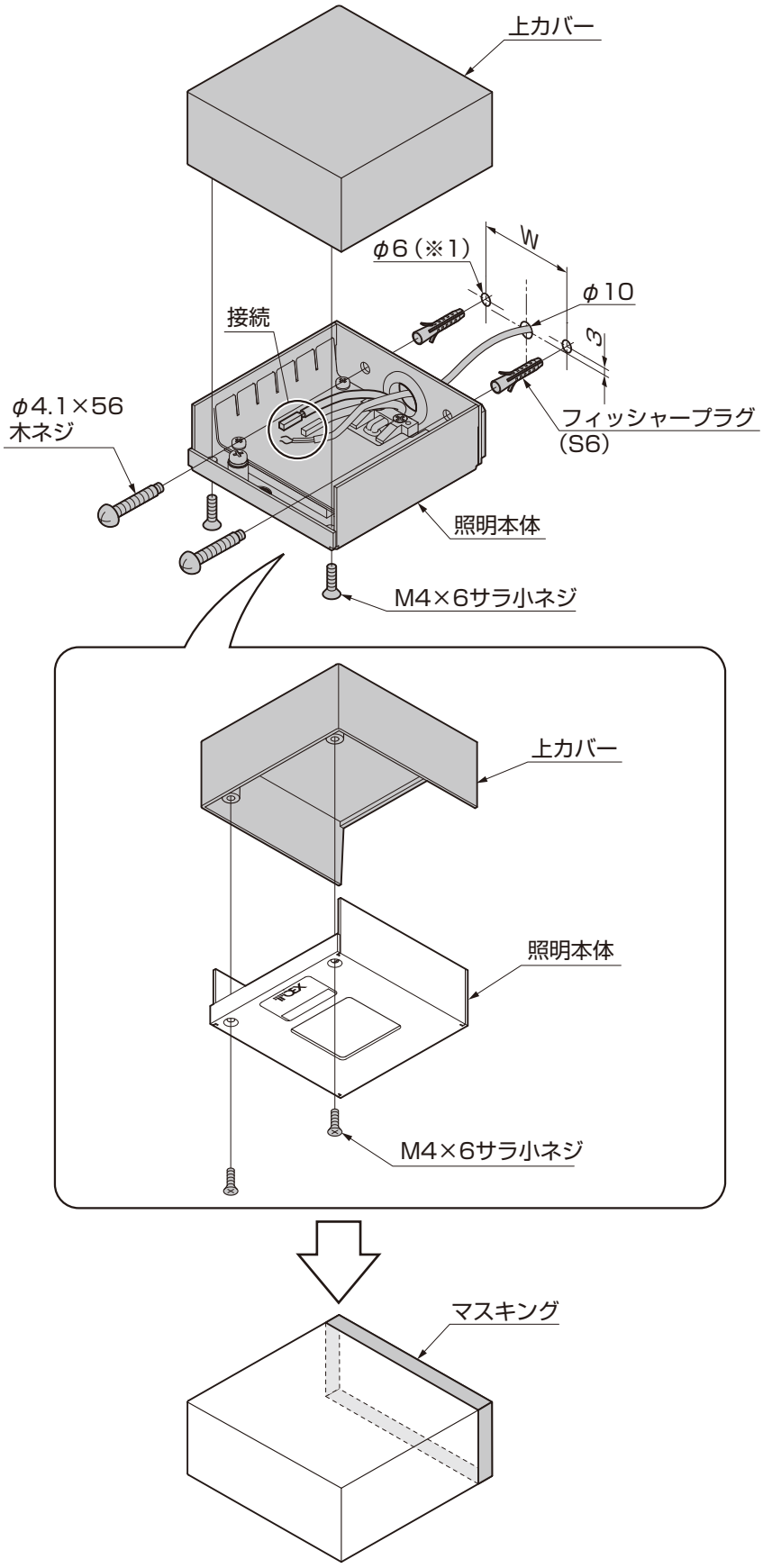
ポイント

●接着剤が硬化するまで、水に濡れないように養生してください。
●接着剤が硬化するまで、ズレないように仮固定してください。
●一時的な固定のためにテープを使うとより簡単に取付けできます。壁面によってはテープがはがれる場合がありますので注意してください。

②フィッシャープラグまたはカールプラグボルト周りをシーリング（現場手配）してください。

③サインの周りをマスキングしてください。

15-4 LEDブラケット（LPK-8型）の取付け



①照明本体を「φ4.1×56木ネジ」で取付けてください。

ポイント

●φ6穴加工とフィッシャープラグの取付けは「15-2 下地ボードへの取付け（1）フィッシャープラグの場合」を参照してください。

②電源入力線とAC100V電源線を接続してください。

⚠ 警 告

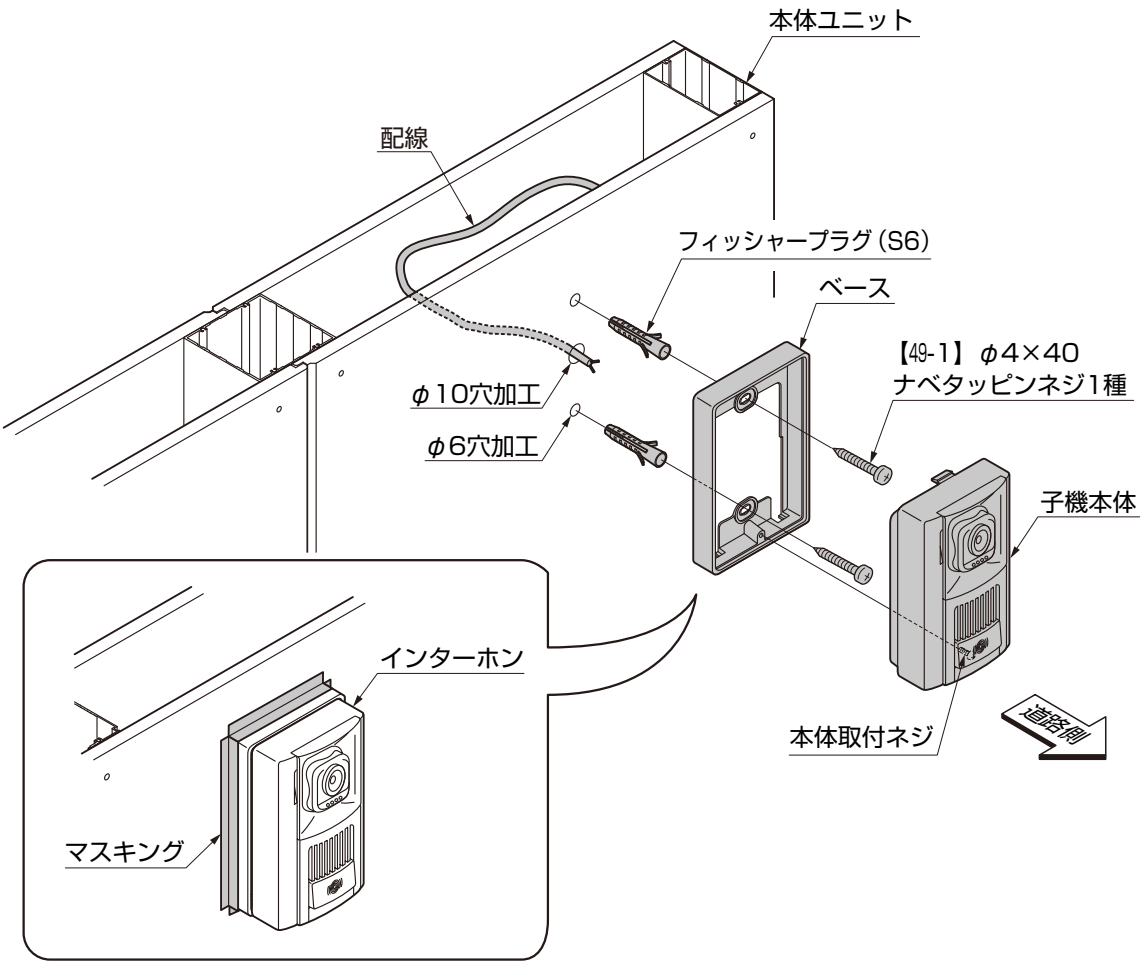
●配線接続部は圧着スリーブで確実に行い、自己融着テープなどで防水テーピングを施してください（内線規定1335-7～9に準ずる）。不完全な場合、絶縁不良による火災・感電の原因になります。

●接地端子ネジからD種接地工事を行なってください。接地不完全な場合、感電のおそれがあります。

③上カバーを「M4×6サラ小ネジ」で取付けてください。

④LEDブラケットにマスキングしてください。

15-5 インターホンの取付け　※インターホンを下地ボード面に取付ける場合の作業です。



①ベースを【49-1】で固定してください。

ポイント

●φ6穴加工とフィッシャープラグの取付けは「 15-2 下地ボードへの取付け（1）フィッシャープラグの場合」を参照してください。

②インターホン子機の取付けおよび配線を行なってください。
③インターホン子機のまわりをマスキングしてください。

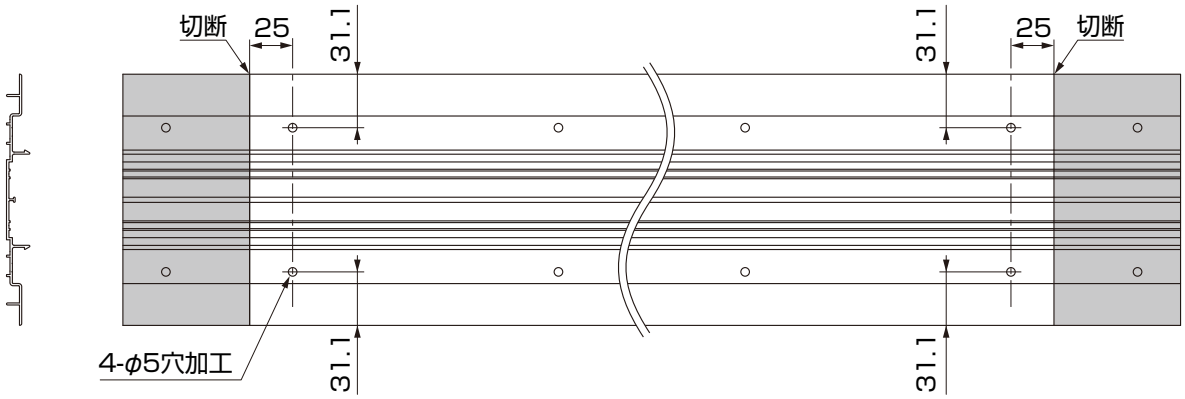
ポイント

●取付けと配線の詳細は、インターホン子機の取付説明書を参照してください。
●タイル施工時に水抜き穴をふさがないように注意してください。

16. 笠木の取付け

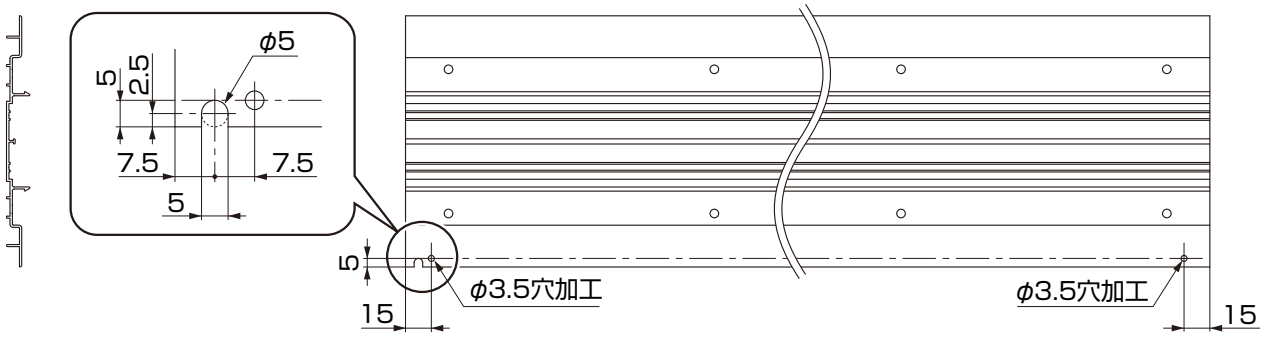
16-1 笠木ベースの加工

（1）両端部から切詰める場合



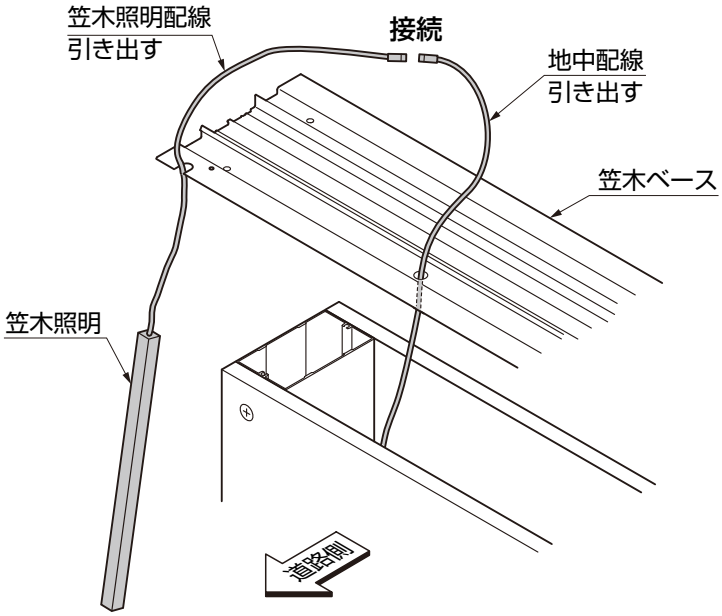
①切詰め後、穴加工をしてください。

（2）笠木照明 オプション を取付ける場合



①笠木ベースに照明配線用の穴加工を行なってください。

16-2 笠木照明配線 オプション ※笠木照明を取付ける場合の作業です。

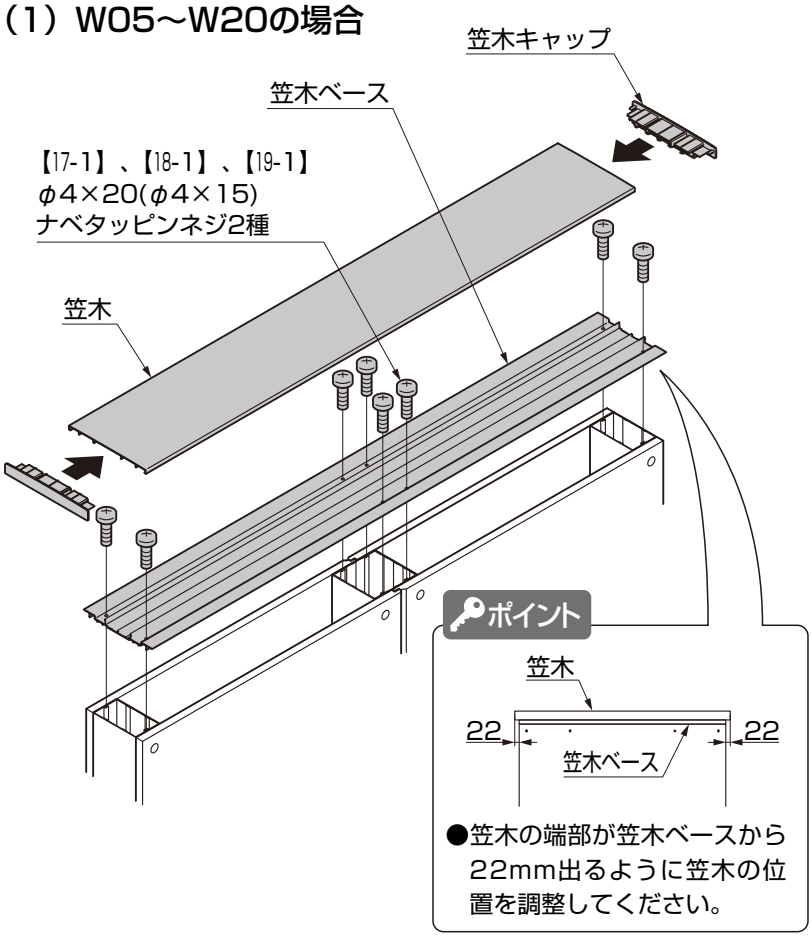


①地中配線を引き出してください。
②笠木照明の配線を接続してください。

16. （つづき）

16-3 笠木の取付け

（1）W05～W20の場合

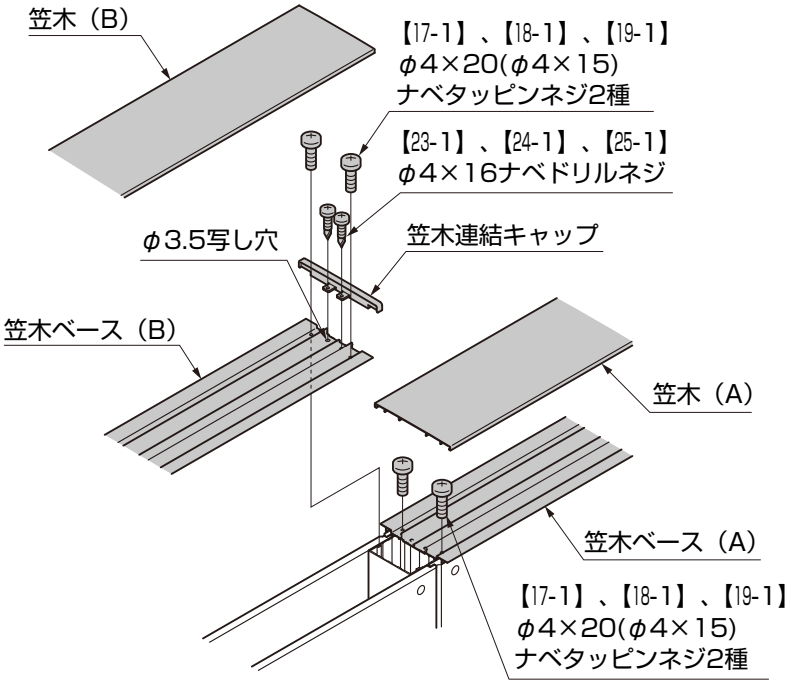


①笠木ベースを柱に【17-1】、【18-1】、【19-1】で取付けてください。

②笠木を笠木ベースにはめ込んでください。

③笠木キャップを笠木にはめ込んでください。

（2）連結する場合（W30）



①笠木ベースにφ3.5写し穴加工をしてください。

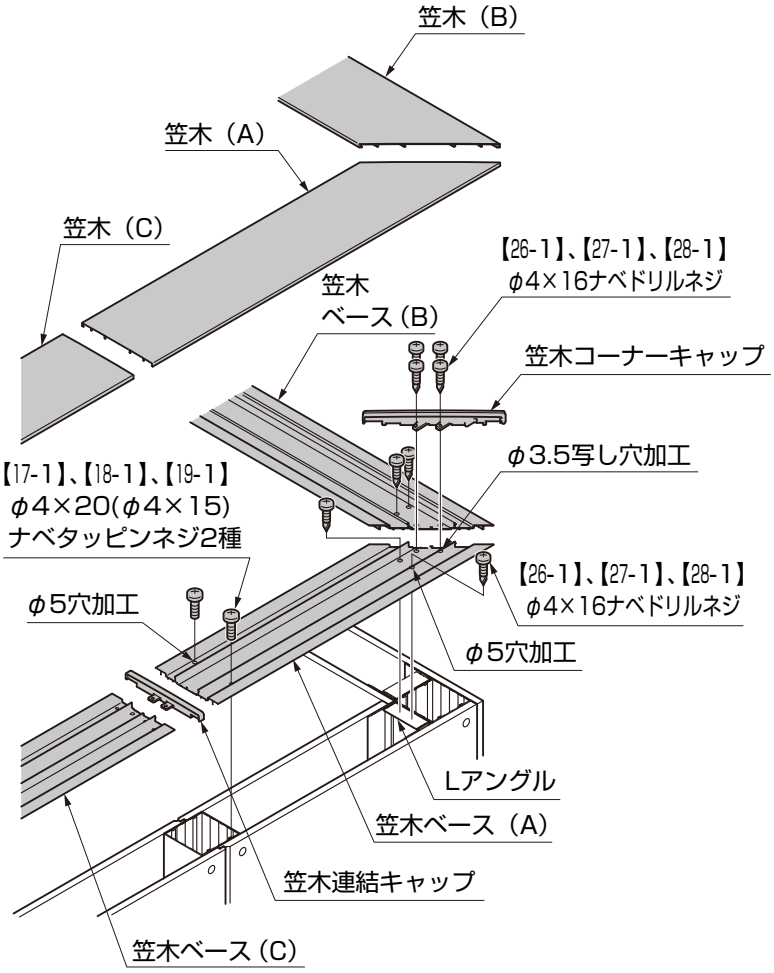
②笠木ベース（A）を90角連結柱に【17-1】、【18-1】、【19-1】で取付け、連結面をそろえて笠木（A）をはめ込んでください。

③笠木連結キャップを笠木ベース（B）に【23-1】、【24-1】、【25-1】で取付けてください。

④取付けた笠木連結キャップを笠木（A）に当てながら、笠木ベース（B）を90角連結柱に【17-1】、【18-1】、【19-1】で取付けてください。

⑤笠木（B）を笠木連結キャップをよけた状態で笠木ベース（B）にはめ込み、笠木連結キャップに当たるまでスライドしてください。

（3）L字連結する場合



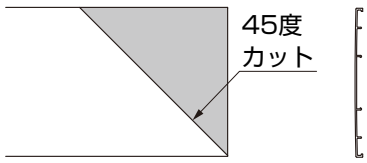


図16-1　笠木（A）加工図

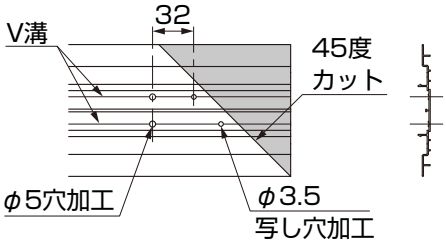
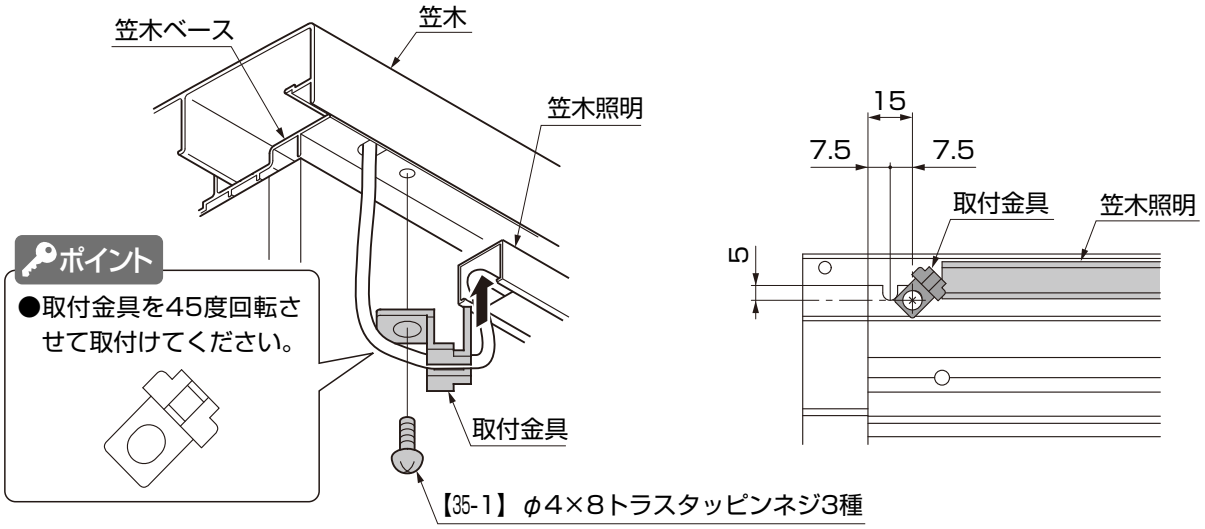


図16-2　笠木ベース（A）加工図

※笠木（A）、笠木（B）は左右対称にカットしてください。

①笠木ベースを45度カットしてください。
②笠木ベースにφ3.5写し穴とφ5穴加工をしてください。
③笠木コーナーキャップを笠木ベースに【26-1】、【27-1】、【28-1】で取付けてください。
④笠木ベースを柱に【17-1】、【18-1】、【19-1】、Lアングルに【26-1】、【27-1】、【28-1】で取付けてください。
⑤笠木（A）、（B）をそれぞれ笠木コーナーキャップをよけた状態ではめ込み、笠木コーナーキャップに当たるまでスライドしてください。
⑥連結する場合は「（2）連結する場合（W30）」を参照し、笠木（C）を連結してください。

16-4　笠木照明の取付け　オプション　※笠木照明を取付ける場合の作業です。



①取付金具を45度回転させた状態で笠木照明をはさみこみ、笠木ベースに【35-1】で仮固定してください。
②笠木照明を笠木外側に当てた状態で取付金具を本固定してください。

17. 陶笠木の取付け オプション

17-1 陶笠木ベース、陶笠木の加工

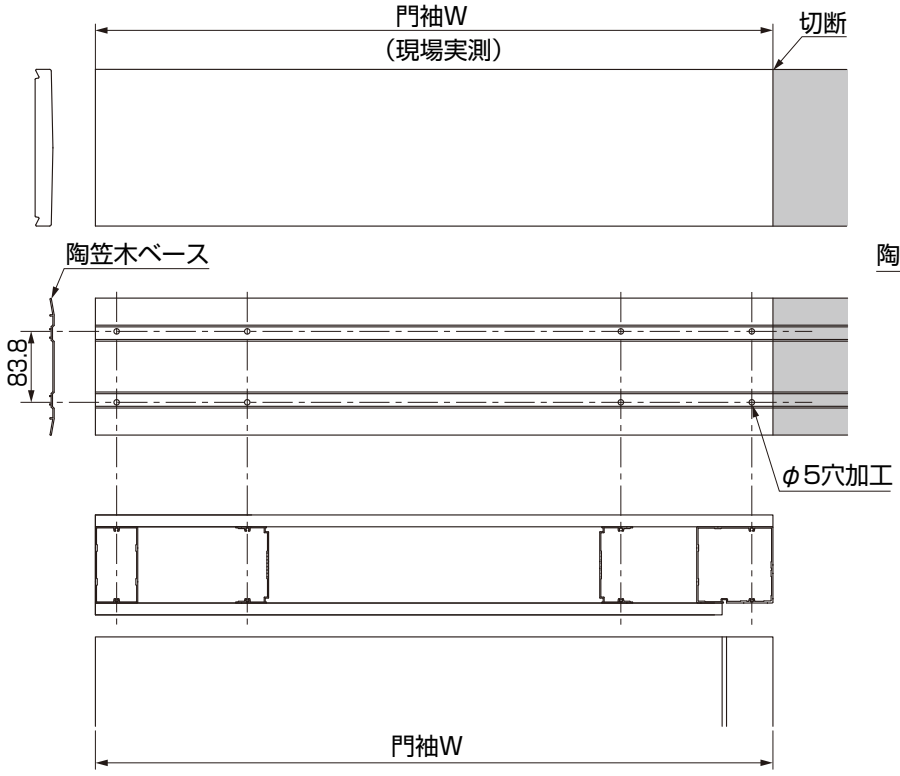


図17-1　門袖に取付ける場合

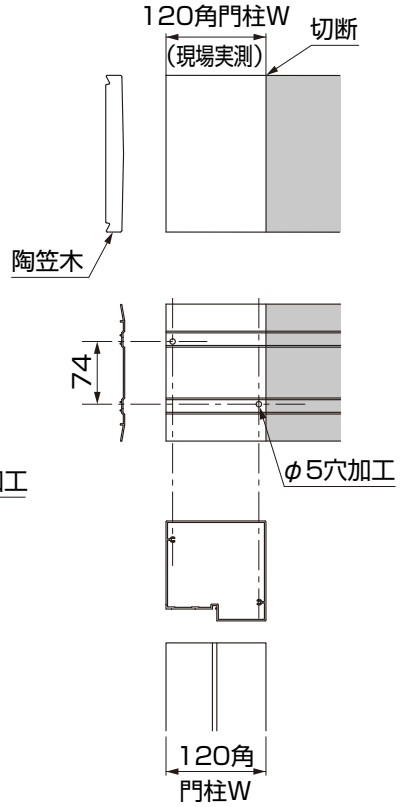


図17-2　門柱に取付ける場合

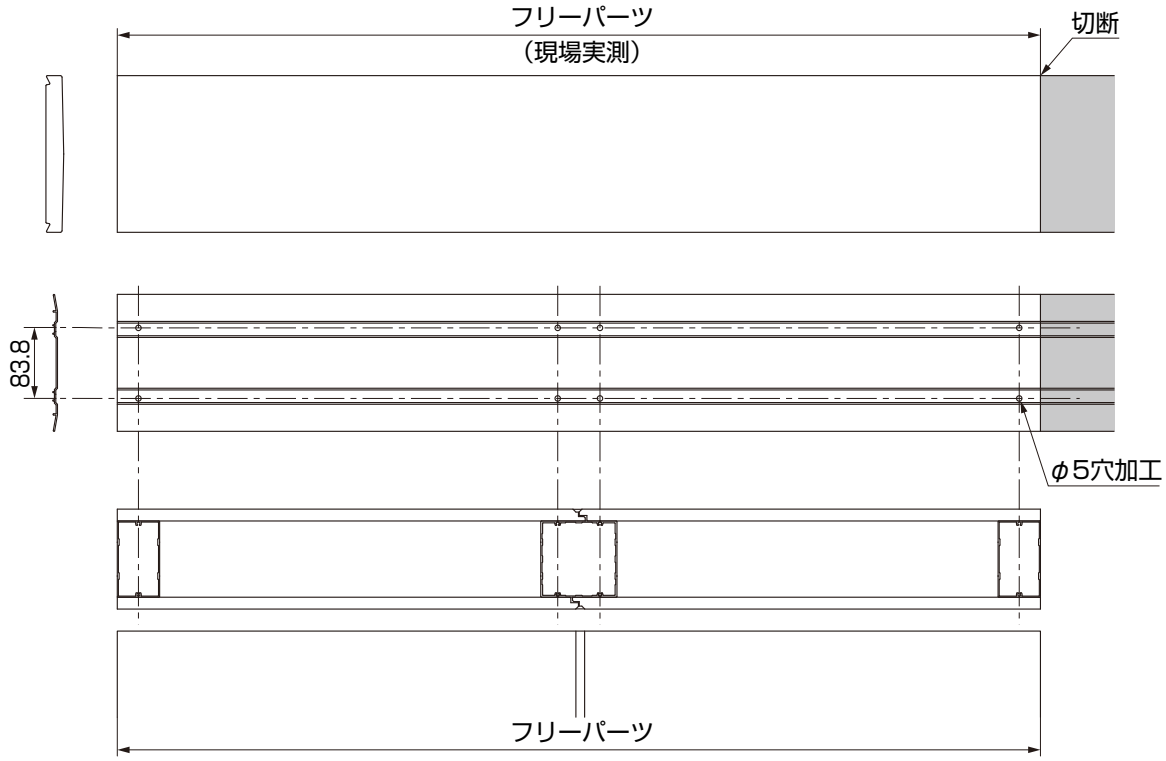


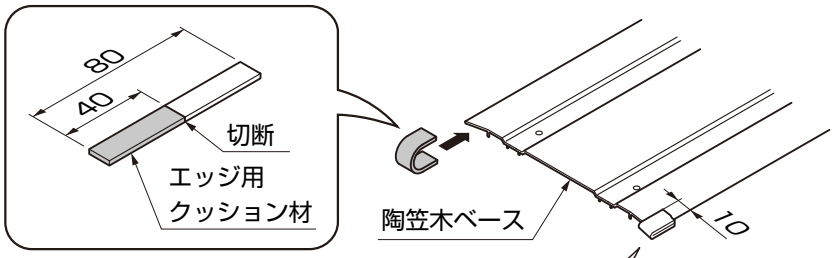
図17-3　フリーパーツに取付ける場合

①陶笠木ベース、陶笠木を加工してください。

17-2 陶笠木ベース、陶笠木の取付け

ポイント

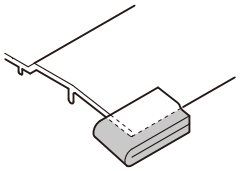
●図はフリーパーツに取付ける場合を示します。門袖、門柱に取付ける場合も同様です。



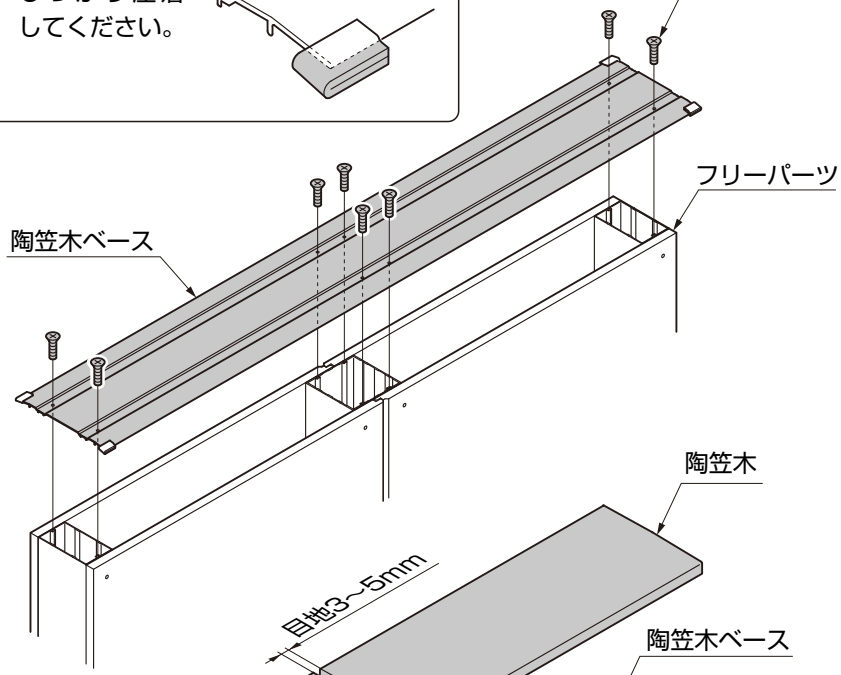
①エッジ用クッション材を切断し、陶笠木ベースに貼付けてください。

ポイント

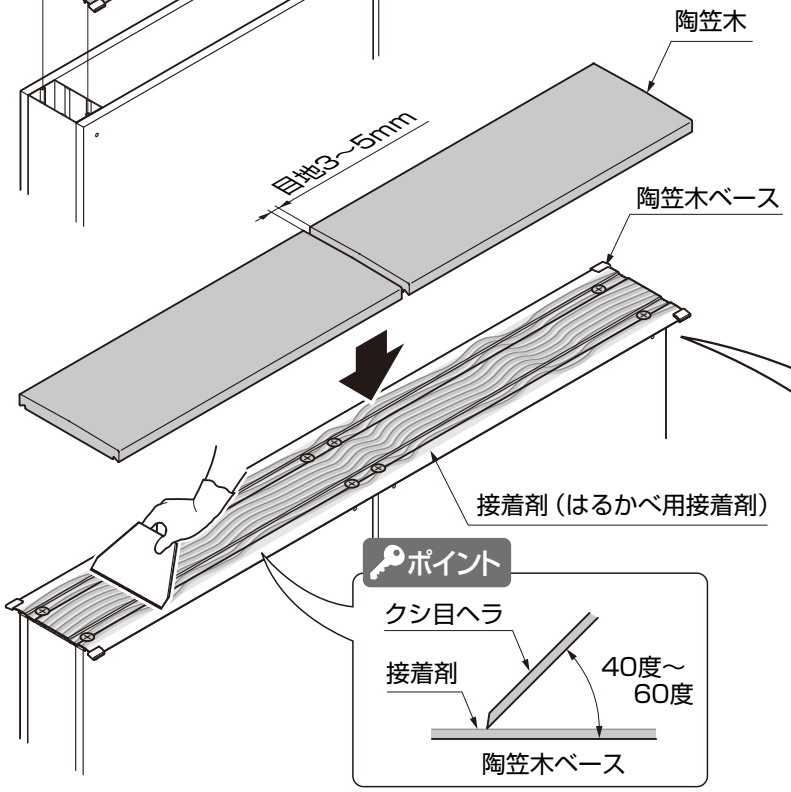
● 部分は
しっかり圧着
してください。



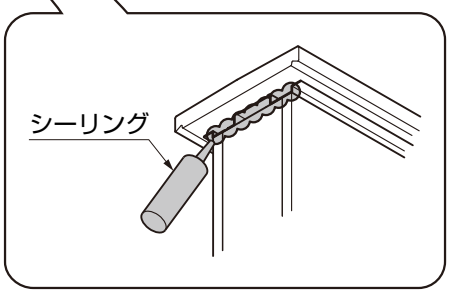
【33-1】φ4×15サラ
タッピンネジ2種



②陶笠木ベースをフリーパーツに【33-1】で取付けてください。



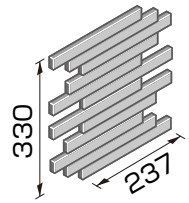
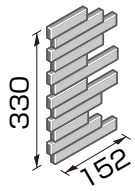
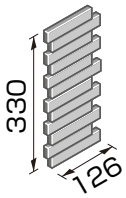
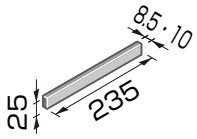
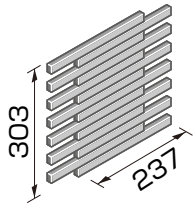
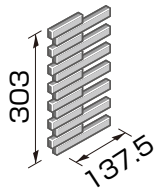
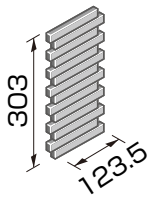
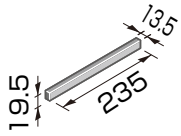
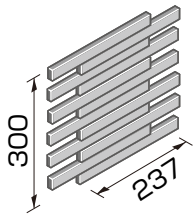
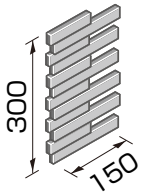
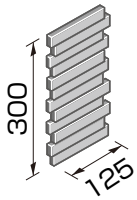
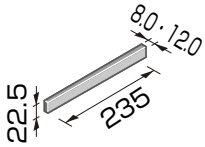
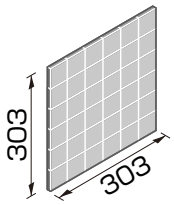
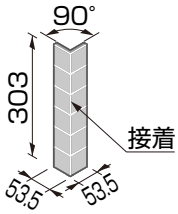
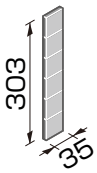
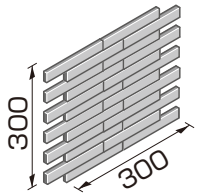
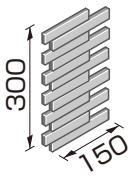
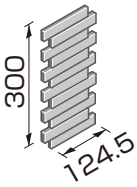
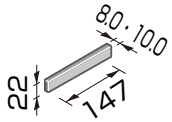
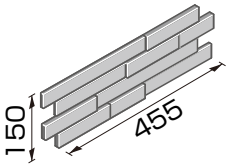
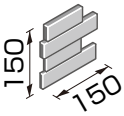
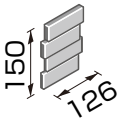
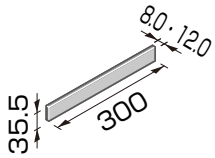
③陶笠木ベースに接着剤を塗布し、クシ目を立ててください。
④陶笠木を陶笠木ベースに接着してください。
⑤陶笠木ベースのエッジ部をシーリングしてください。



6　仕上げの施工：タイル仕上げ

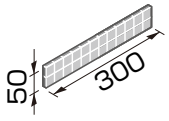
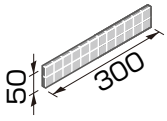
1. 梱包明細表

はるかべタイル形状一覧　※寸法は目地共寸法です。（調整用平のみ実寸法）

商品名	標準平ユニット	出隅用平ユニット	小口面ユニット	調整用平
寂雅楽(さびうた)Ⅱ 目地幅 縦：2mm 横：2.5mm				
細割りボーダー （標準割面） 目地幅 縦：2mm 横：2.1mm				
サイモン 目地幅 縦：2mm 横：2.5mm				
センティア 目地幅 縦：2mm 横：2mm				設定がありません
セラヴィオR 目地幅 縦：3mm 横：3mm				
エクセンシア 目地幅 縦：2mm 横：2mm				

※センティアのみ、出隅用平ユニットではなく90°曲役物になります。

モザイクタイル形状一覧　※寸法は目地共寸法です。

商品名	標準平ユニット	商品名	標準平ユニット
ニュアンス 目地幅 縦：2.5mm 横：2.5mm		シェブレンド 目地幅 縦：2.5mm 横：2.5mm	

B080_201405A

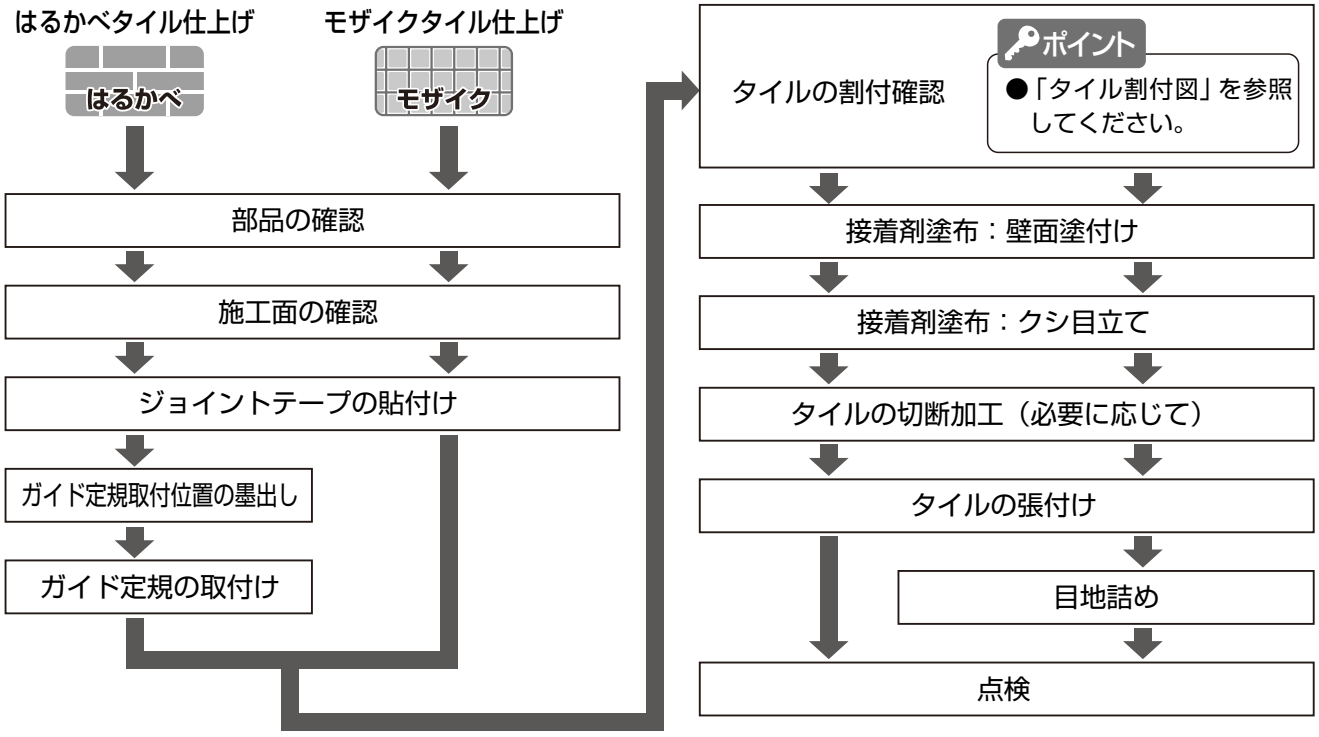
施工部材形状一覧

商品名	外装用弾性接着剤（V1LT）	タイル用目地材（SS）	接着剤用アダプターノズルセット
材質	変成シリコーン系　1kgアルミパック	セメント系　0.5kgPEパック	PE
形状			
商品名	**3mmクシ目ヘラ**	**3mmクシ目コテ**	**ジョイントテープ（幅235）**
材質	PE	ステンレス	ブチルゴム系
形状			235
商品名	**ジョイントテープ（幅100）**	**タイル用切断刃（105F）**	**ガイド定規**
材質	ブチルゴム系	直径：φ105	ガルバニウム鋼板（ブチルゴム系両面テープ付）
形状	100		90°　7.5　5.0　900

2. 施工フロー

ポイント

●仕上げ材には「はるかべタイル仕上げ」と「モザイクタイル仕上げ」があります。
仕上げ材の種類により、以下のフローにしたがってください。



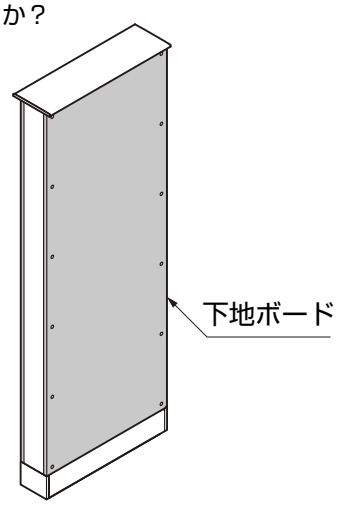
B080_201405A

3. 施工面の確認

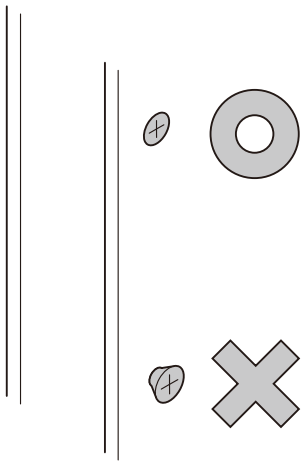
ポイント

●下地ボードが下記の条件になっているか確認してください。
確認できたら☑ を入れてください。

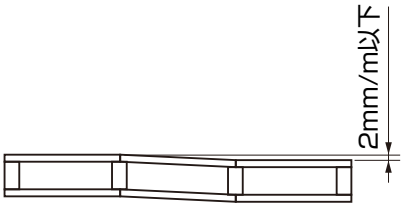
☐ 所定の下地ボードが取付いているか？



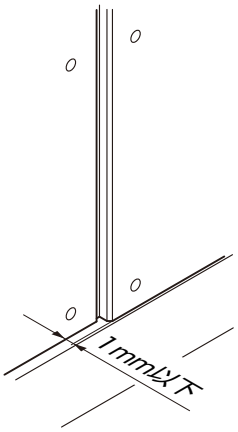
☐ 取付ネジ頭が突出していないか？



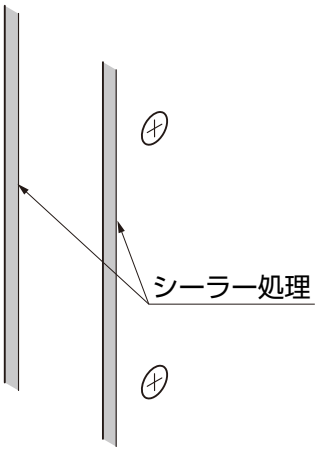
☐ 表面の不陸は2mm/m以下か？



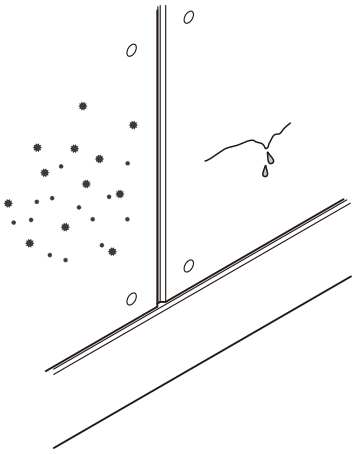
☐ 下地ボード間の段差は1mm以下か？



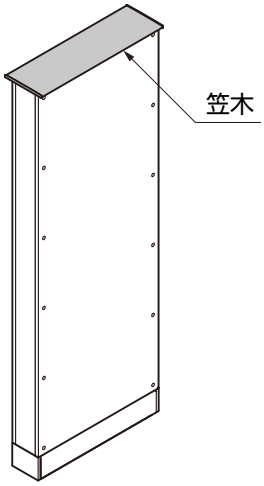
☐ 切断小口面はシーラー処理されているか？



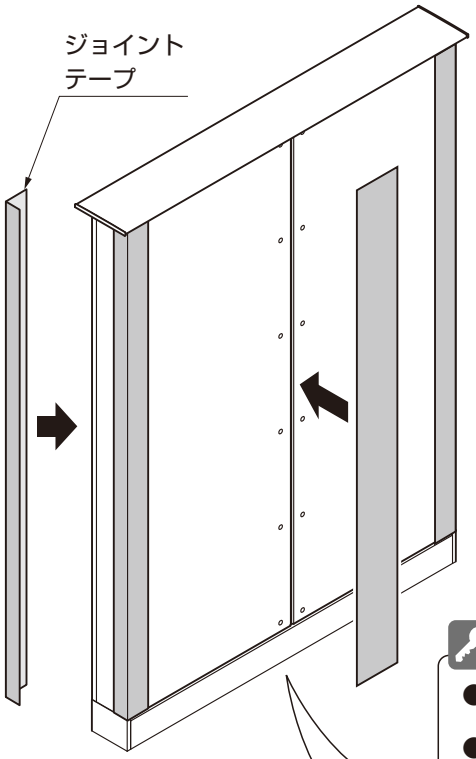
☐ 表面にゴミやホコリ、水濡れはないか？



☐ 取付け部品の施工が完了しているか？
(笠木など)



4. ジョイントテープの貼付け



補 足

●あらかじめ高さに合わせてカットしておくと作業しやすいです。

表4-1　テープ必要数量一覧

		100mm幅		235mm幅	
		必要長さ（m）	1420mm カット枚数	必要長さ（m）	1420mm カット枚数
基本タイプ	W05･W08	5.70	4	−	−
	W10	5.70	4	2.85	2
	W20	5.70	4	5.70	4
	W30	5.70	4	8.55	6
L字連結	W05+W05	5.70	5	1.43	−
	W10+W10	5.70	5	7.13	4
	W20+W20	5.70	5	12.83	8

※センティア、モザイクタイルでは235mm幅は使用しません。カット枚数は100mm幅と235mm幅を合計した枚数としてください。
※上記数量は、壁面全面をタイル仕上げする場合の数量です。タイル施工面積により、数量は増減します。

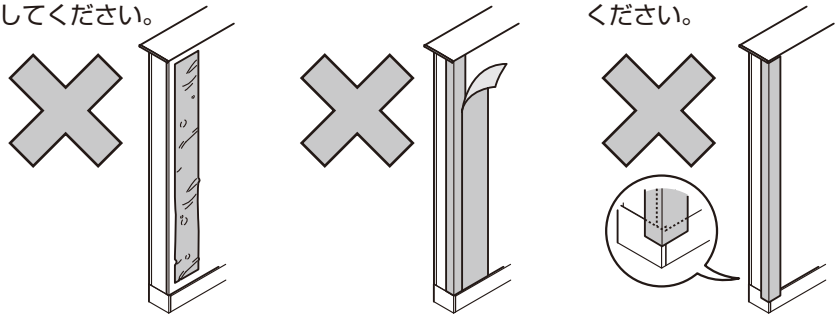
ポイント

●塗り仕上げを行う部分にはジョイントテープを貼付けないでください。

●貼付けの際は、シワや空気が入らないようにしてください。

●テープ同士を重ねて貼付けしないでください。

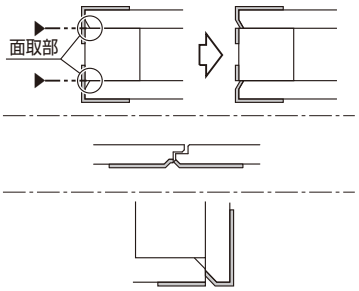
●下地ボードからはみ出さないように貼付けてください。



●空気が入ってしまった場合は、カッターで切込みを入れて空気を抜いてください。

①ジョイントテープ裏面のリケイ紙をはがした上、貼付けてください。

[ジョイントテープ貼付け位置]



①カッターナイフでジョイントテープを柱の外面またはボードの突付け部で切ります。
②ジョイントテープを面取部に十分押付けてください。

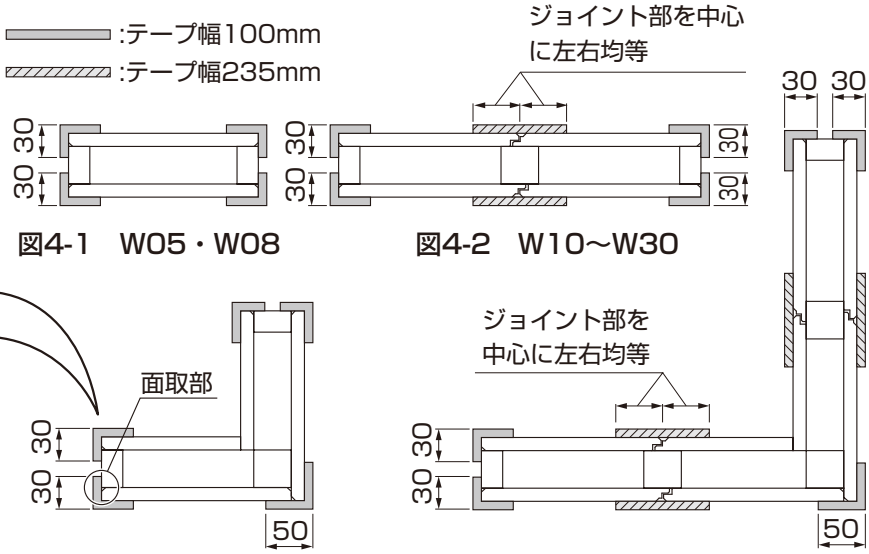


図4-1　W05・W08　　図4-2　W10〜W30

図4-3　L字連結 W05+W05　　図4-4　L字連結 W10+W10、W20+W20

5. ガイド定規取付位置の墨出し

ポイント

●W05、L字連結 W05+W05はガイド定規を取付けません。その場合、タイルユニットの高さ寸法に合わせて墨出ししてください。

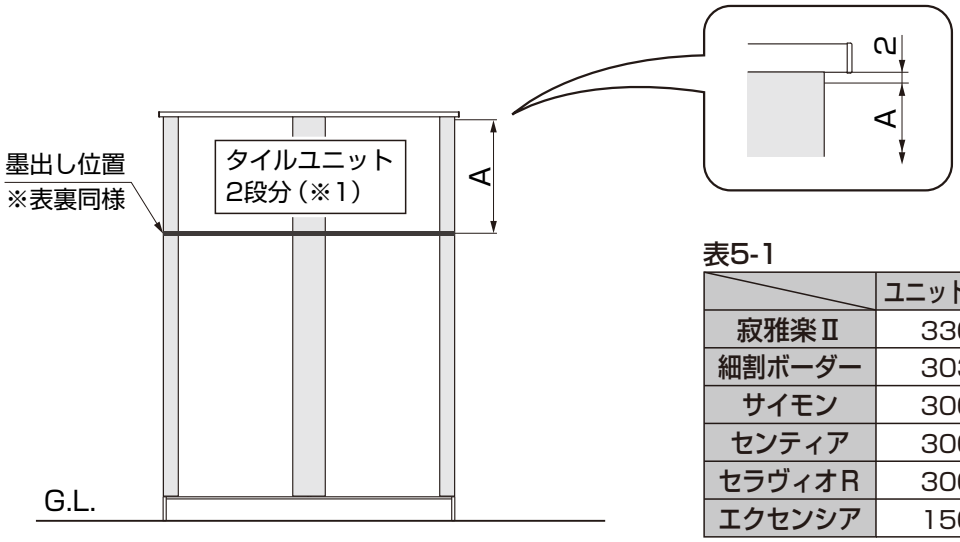


表5-1

	ユニット高さ	A
寂雅楽Ⅱ	330	652.5
細割ボーダー	303	598.5
サイモン	300	592.5
センティア	300	592.5
セラヴィオR	300	592.5
エクセンシア	150	592.5

図5-1
W08・W10/L字連結 W10+W10

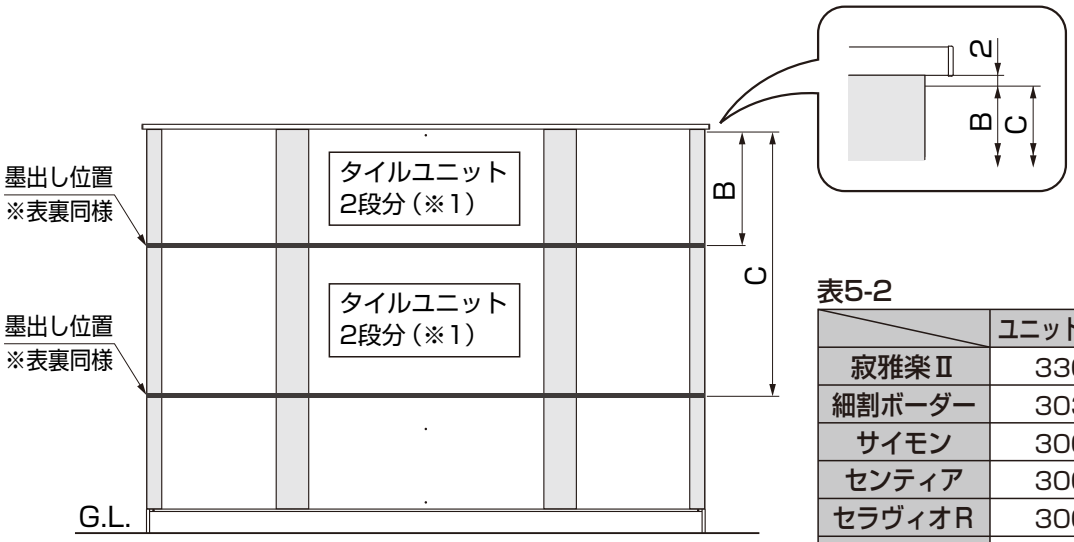


表5-2

	ユニット高さ	B	C
寂雅楽Ⅱ	330	652.5	1312.5
細割ボーダー	303	598.5	1204.5
サイモン	300	592.5	1192.5
センティア	300	592.5	1192.5
セラヴィオR	300	592.5	1192.5
エクセンシア	150	592.5	1192.5

図5-2
W20・W30/L字連結 W20+W20

①下地ボードに墨出ししてください。

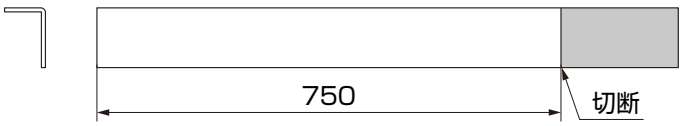
ポイント

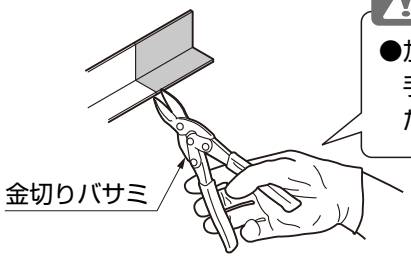
●（※1）はエクセンシア以外のタイルユニット段数です。
エクセンシアの場合は、段数を2倍にしてください。（2段分→4段分、3段分→6段分）

6. ガイド定規の取付け

はるかべ　モザイク

6-1　ガイド定規の切断　※W08の場合の作業です。





注意

●加工の際は保護手袋をはめてください。

①ガイド定規を切断してください。

6-2　ガイド定規の取付け

注意

小口面

●小口面には触れないでください。ケガをするおそれがあります。

ポイント

●ガイド定規は袖部小口に取付けしません。

合わせる

墨出し位置

はく離紙

ガイド定規

圧着　圧着

①ガイド定規を下地ボードに取付けてください。

7. タイルの割付確認

はるかべ　モザイク

はるかべ を施工の場合…図の割付例を参考にタイル割付をしてください。

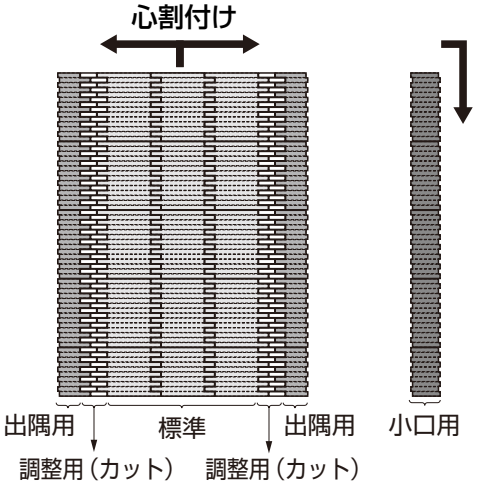


図7-1　機能なしの場合

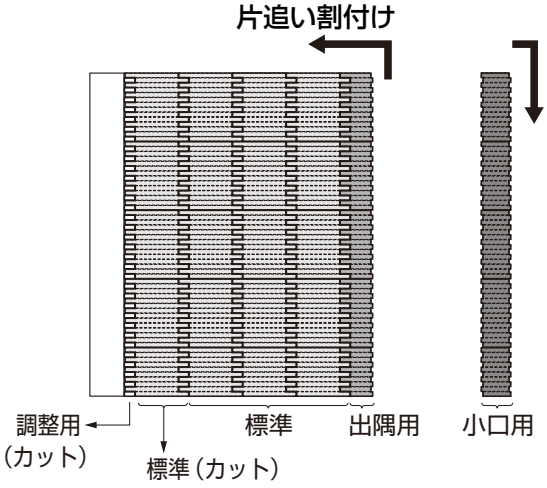


図7-2　機能ありの場合

モザイク を施工の場合…現場ごとにタイルの施工位置を決定し、タイル張り位置を確認してください。

8. タイルの張付け

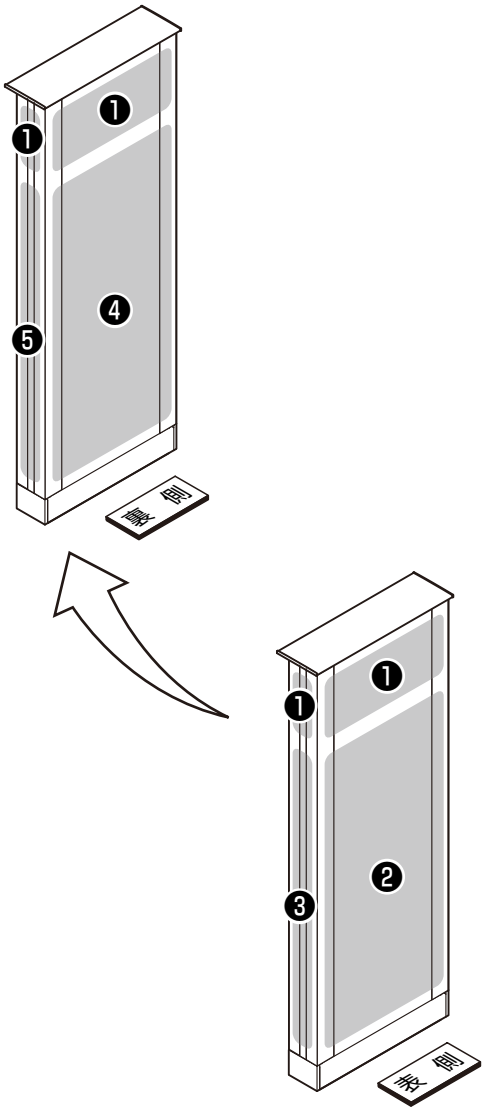
8-1 接着剤、タイル張付け順序の確認

ポイント

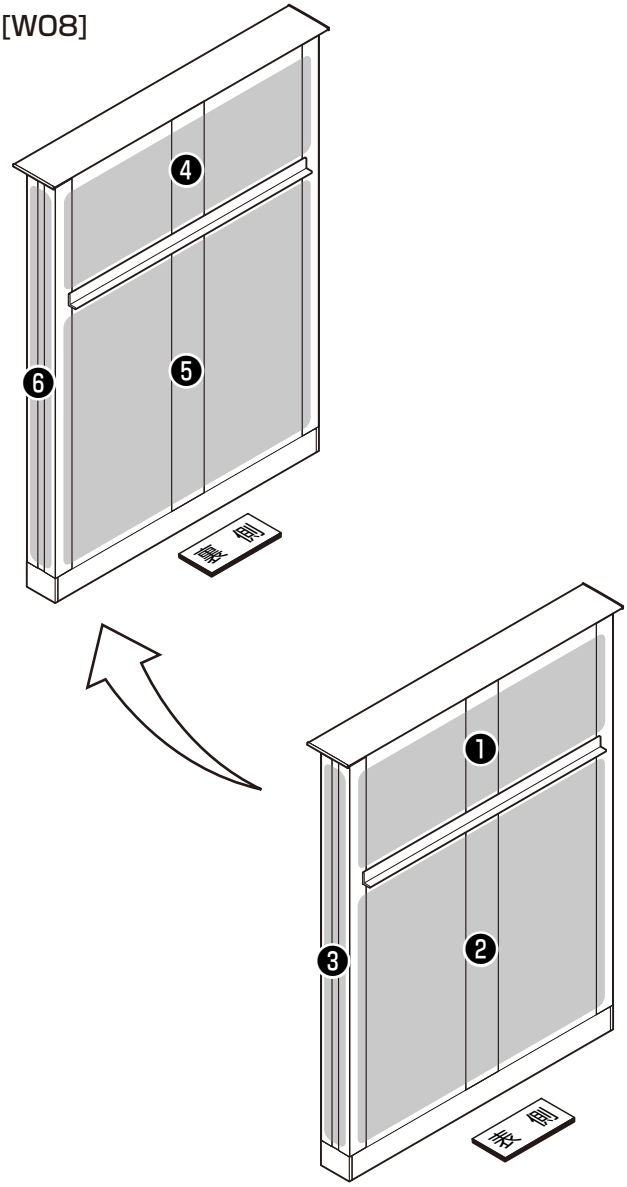
●記載されている順番ごとに「接着剤の塗布」「タイルの張付け」を行なってください。

順番	❶	❷	❻	参照ページ
行程	接着剤塗布 タイル張付け	接着剤塗布 タイル張付け	接着剤塗布 タイル張付け	→「8-3 接着剤塗布」参照（P.57） →「8-5 タイルの張付け」参照（P.59）

[W05]



[W08]

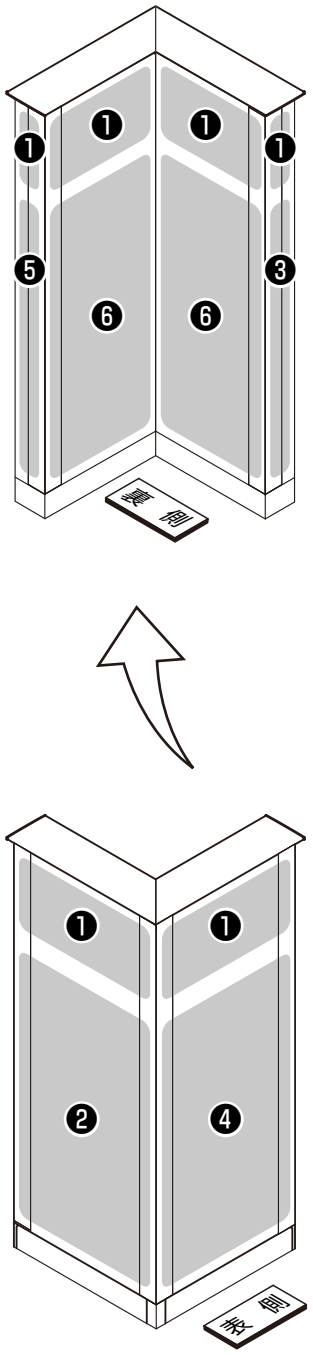


①接着剤とタイルの張付け順序を確認してください。

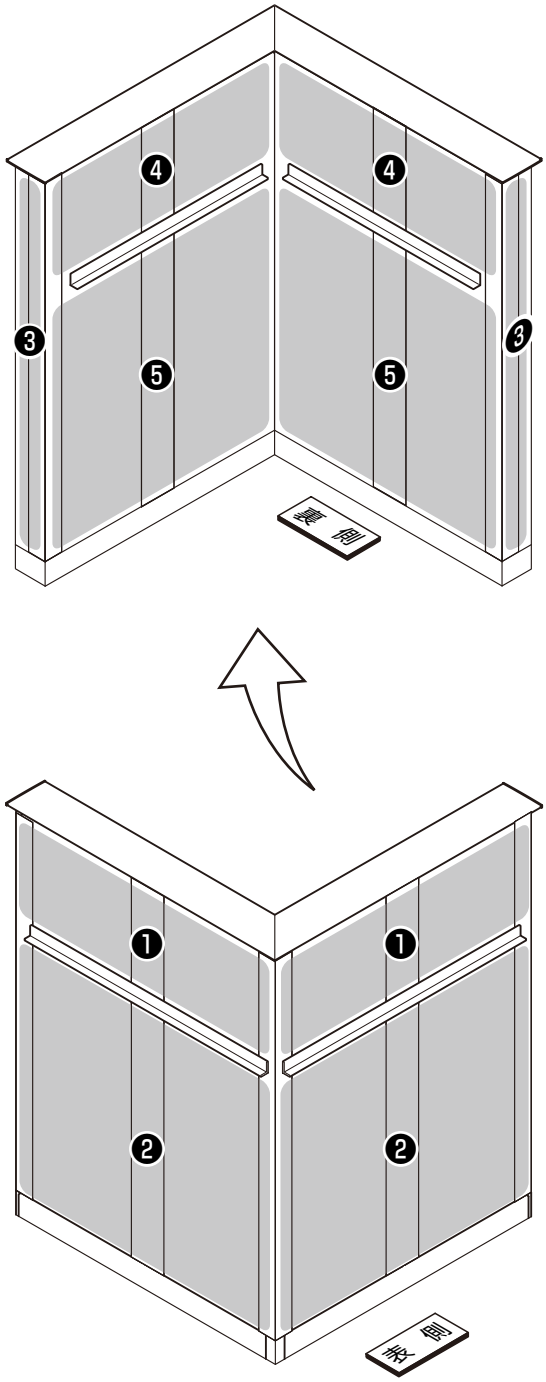
ポイント

●W10、W20、W30はW08と同様です。

[L字連結W05+W05]



[L字連結W10+W10]



①接着剤とタイルの張付け順序を確認してください。

ポイント

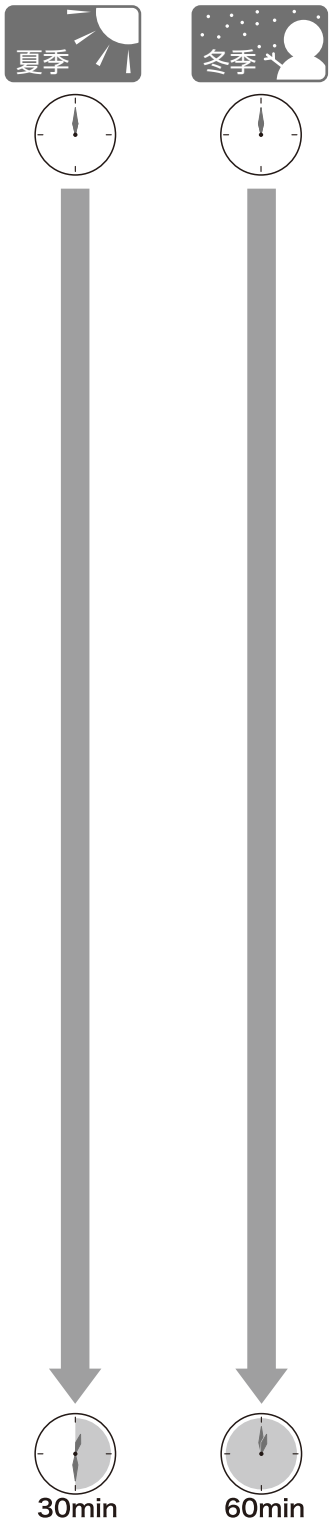
●W20＋W20はW10＋W10と同様です。

8.（つづき）

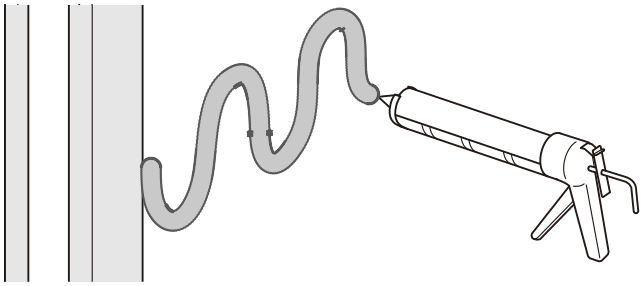
8-2　接着剤塗布～タイル張付け・目地直しまでの作業時間

ポイント

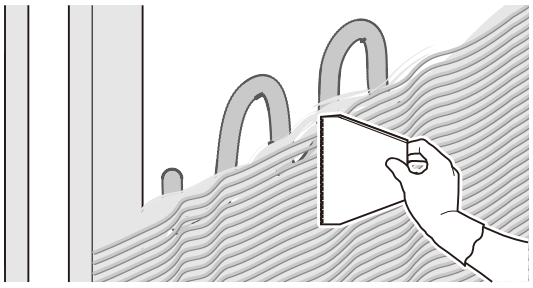
- 接着剤を塗布してからタイルの張付け・目地直しまでの作業は下記の時間内に行なってください。
- 作業時間は、環境条件により変動する場合があります。
- 冬季の作業は5℃以上で行なうようにしてください。5℃を下回る環境では接着剤の硬化が遅くなります。



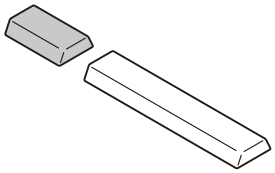
接着剤塗布：壁面塗付け



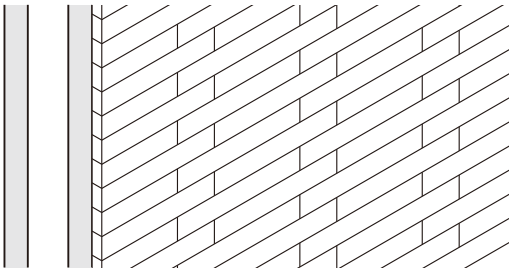
接着剤塗布：クシ目立て



タイルの切断加工（必要に応じて）

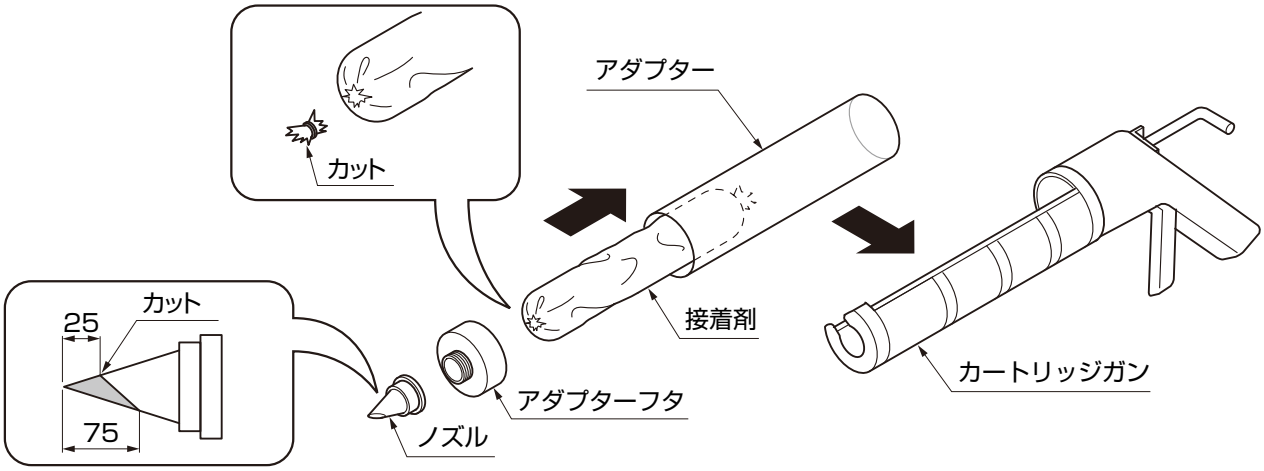


タイルの張付け・目地直し



8-3 接着剤塗布

（1）カートリッジガンの準備



①ノズルの先端をカットしてください。（上記寸法は目安です。）
②接着剤の先端をカットして、アダプターに挿入し、アダプターフタとノズルをはめてください。
③アダプターをカートリッジガンに取付けてください。

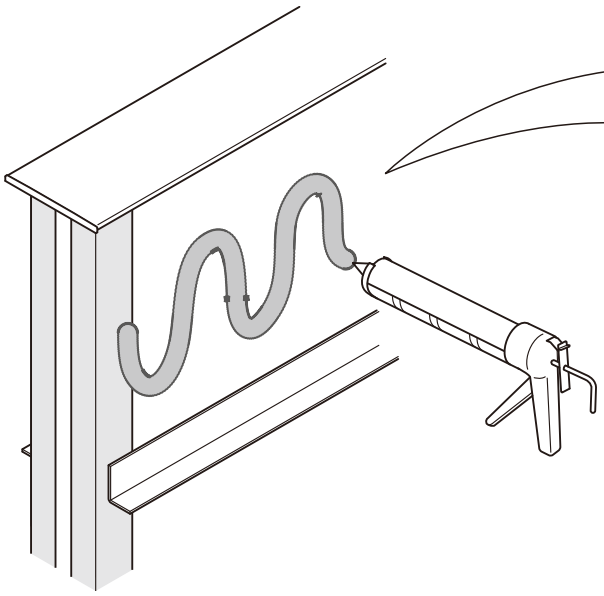
（2）壁面塗付け

注 意

●作業時には、手袋・長袖等を着用して皮膚を保護してください。
※本接着剤は体質によっては、まれにかぶれる場合があります。

ポイント

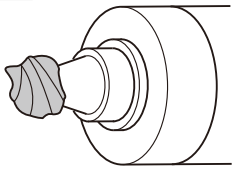
●接着剤塗布からタイルを張付け終えるまでの時間が、指定の作業時間内に納まるよう接着剤塗布の範囲を区切りながら作業を行なってください。



ポイント

●ビード状に塗布してください。
・使用量目安:0.75㎡/本（1.5kg/㎡）
●ノズルの開口面を壁面に密着させながら接着剤を塗布してください。

補 足



●作業を中断する場合、ノズル先端の接着剤をふき取り、ビニールテープなどで覆ってください。

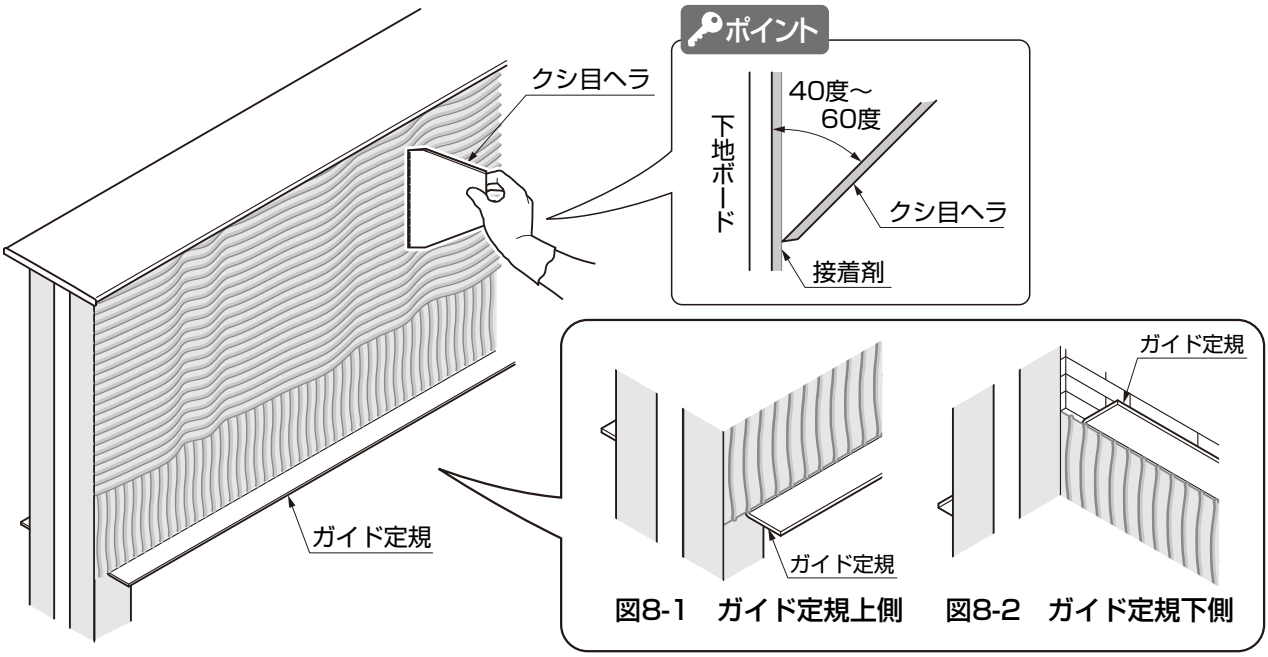
①接着剤を下地ボードに塗布してください。

8.（つづき）

（3）クシ目立て

ポイント

●他部材に接着剤が付着した場合、すぐにふき取ってください。
●クシ目はかならず3mmのクシ目ヘラを使用してください。
3mm以上のクシ目を立てると、接着剤の量が多くなり接着不良の原因となります。



①クシ目ヘラ（またはクシ目コテ）を使用し、接着剤面をかき取るようにしてクシ目を立ててください。

ポイント

●かき取りはヘラを40度～60度程度に傾けて、下地が透けない程度にかき取ってください。

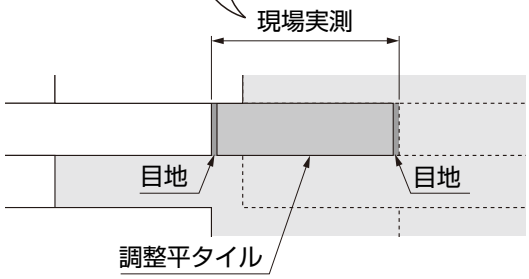
8-4　タイルの切断加工　※加工が必要な場合の作業です。

ポイント

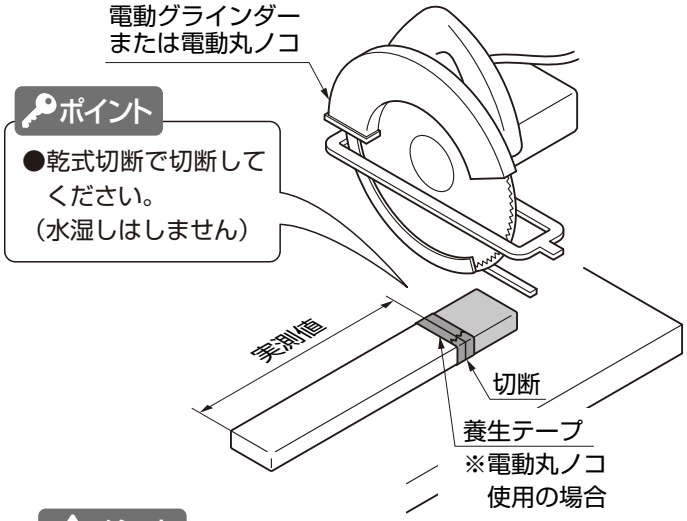
●「タイル割付図」に記載の「タイル切断目安寸法」も併せて参照してください。

ポイント

●タイル同士の目地幅、他部材とのすき間（1～2mm）を含め実測してください。



①加工が必要な場合はタイルを切断してください。

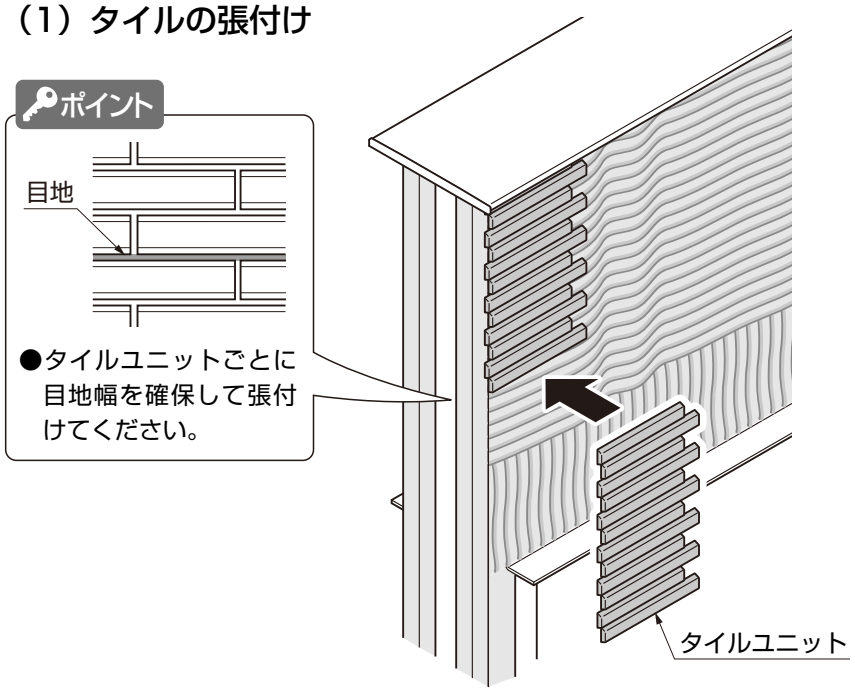


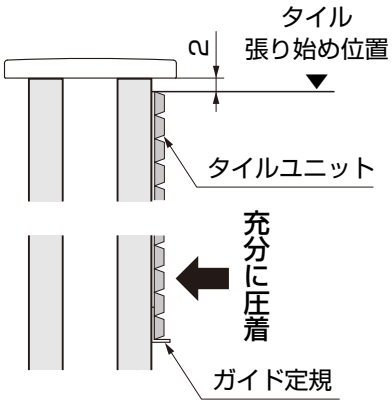
注 意

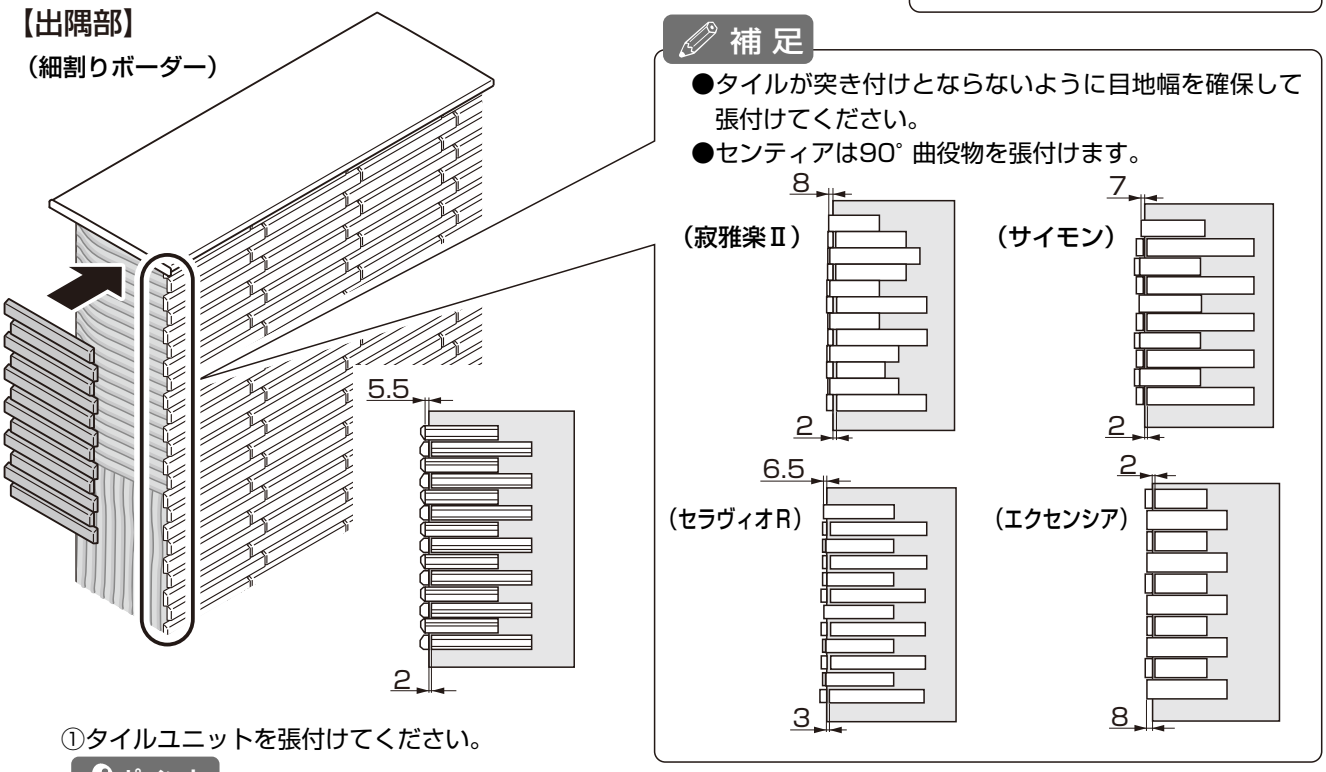
●タイルの切断面は鋭利になっているので触れないでください。ケガをするおそれがあります。

8-5 タイルの張付け

（1）タイルの張付け







①タイルユニットを張付けてください。

ポイント

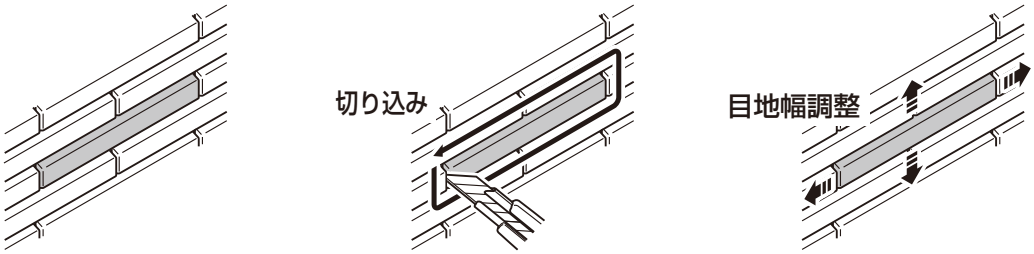
- ●タイル目地部から接着剤がはみ出す場合は、接着剤の塗りすぎであるため再度クシ目ヘラ（コテ）でかき取ってください。
- ●下地ボードの面取部にも接着剤を十分に充填してください。
- ●やむを得ずタイル張りを中断する場合は、接着剤を塗布した範囲を張り終えてから中断してください。
- ●ガイド定規を使用してP.48記載の推奨品以外のタイルを施工する場合、厚さの小さいタイルではガイド定規付近で不陸が目立つ場合がありますので、施工の際には接着剤の塗り厚や圧着方法に十分注意してください。

8.（つづき）

（2）目地直し

ポイント

●指定の作業時間内で作業を完了させてください。



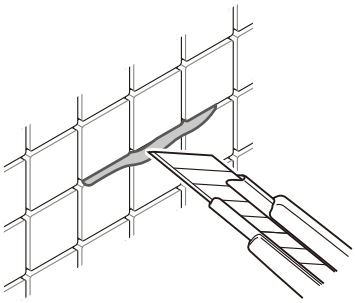
①タイル周囲の目地に切り込みを入れてください。
②タイルの目地幅を調整してください。

9. 目地詰め

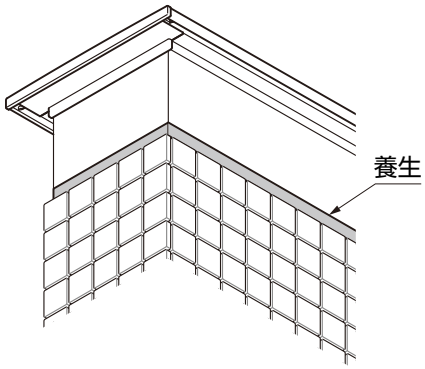
ポイント

●接着剤が硬化したことを確認の上、作業を行なってください。

9-1　接着剤の除去と養生

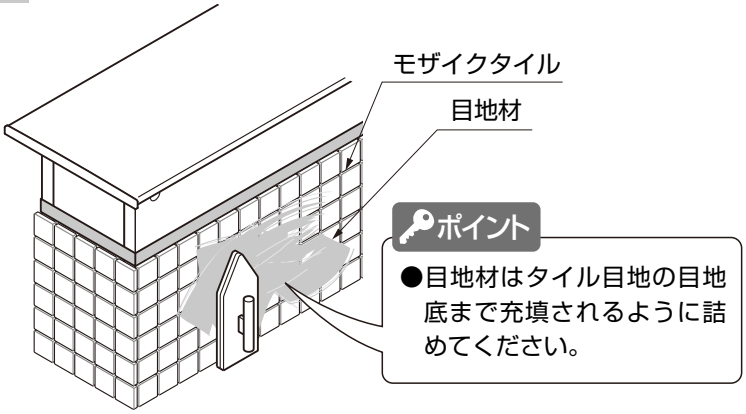


①タイル目地部の接着剤のはみ出しを除去してください。

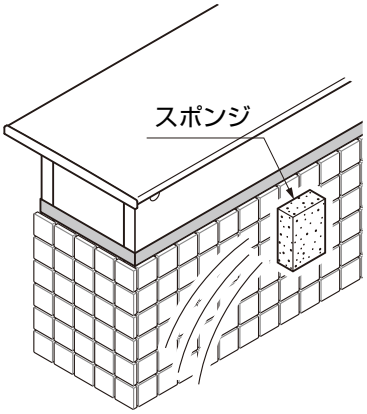


②目地詰めする周囲を養生してください。

9-2　目地詰め



①ゴムコテにて目地材を詰めてください。



②目地詰め後、スポンジで拭き仕上げをしてください。

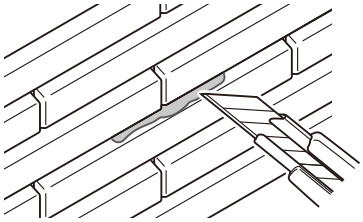
10. 点検・仕上げ

ポイント

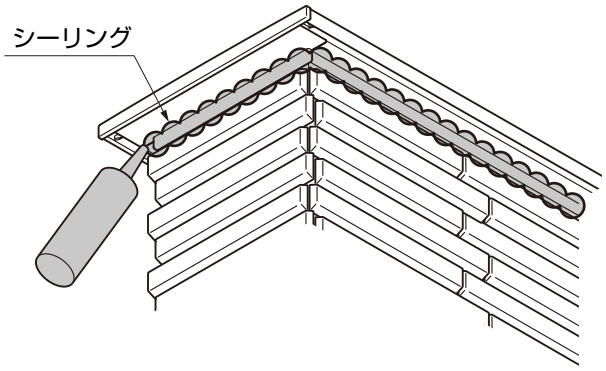
●接着剤・目地材が硬化後、仕上がりの点検を行なってください。

はるかべ を施工の場合

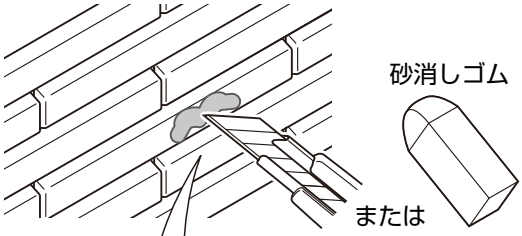
●タイル目地部からの接着剤のはみ出しを除去する



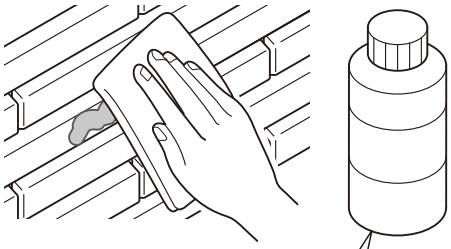
●必要箇所にシーリングする



●表面に付着した接着剤を除去する



取れない場合は…



ポイント

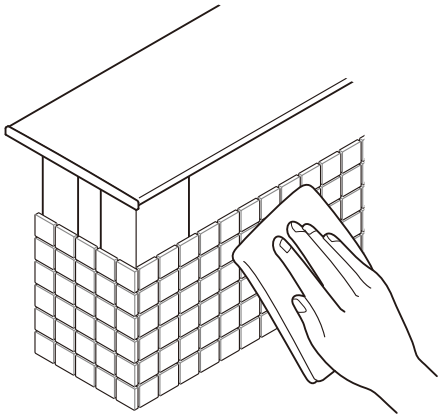
●表面をキズ付けないようにしてください。

ポイント

●他部材に使用する際は、事前に変色・変質確認をしてください。
●溶剤の取扱いには十分に注意してください。

モザイク を施工の場合

●タイル表面の汚れをふき取る



ポイント

●ウエスなどで乾拭きしてください。

7　仕上げの施工:塗り仕上げ

1-1　塗り仕上げの工法および推奨材料

※工法は本取説の内容にしたがってください。
※推奨材料は「エスケー化研（株）ベルアート」です。

⚠注意

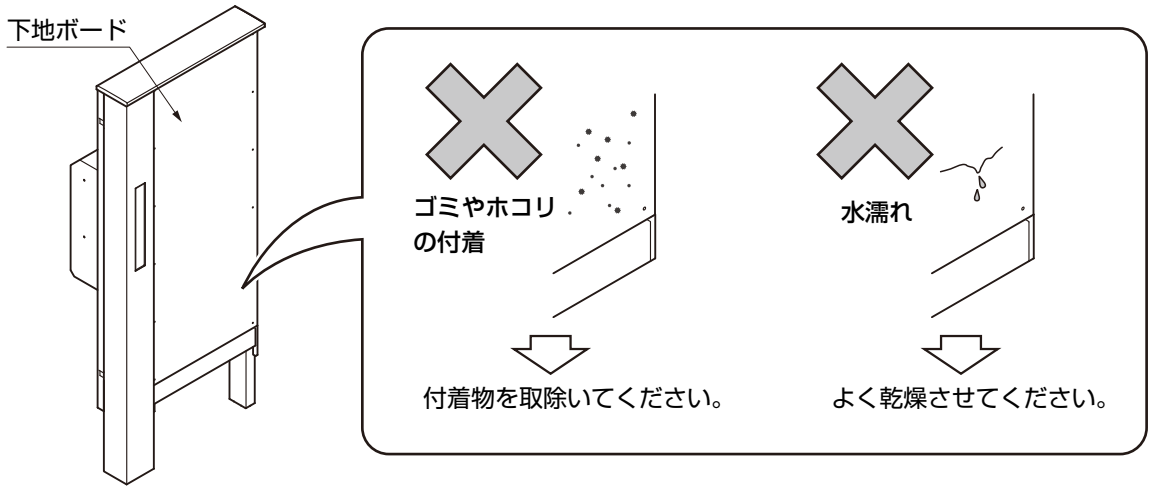
●推奨材料以外は使用しないでください。コーナー部などにクラックが発生するおそれがあります。

1-2　塗り仕上げの手順

※使用する材料については、すべて現場手配となります。使用材料は下記のとおりです。

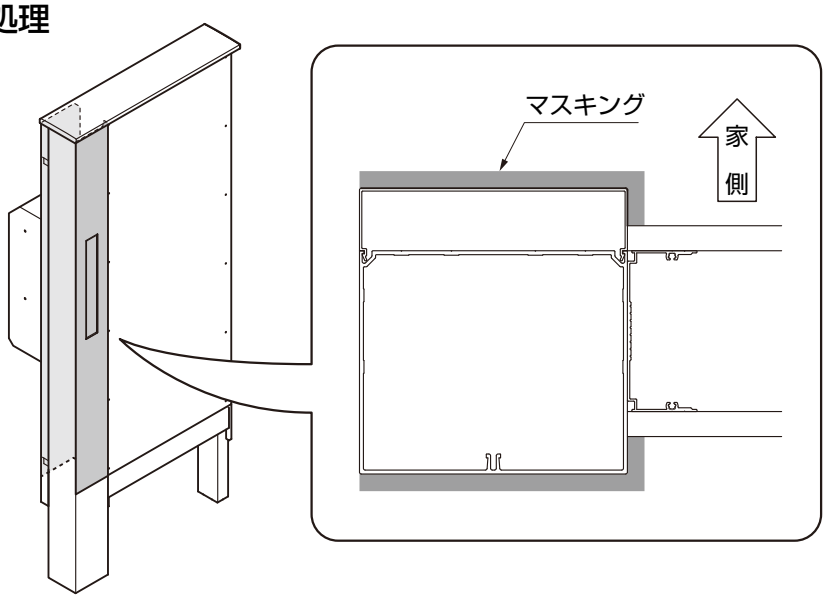
●ジョイント部処理：SK弾性コークN（SK弾性プライマー同梱）
　　SKハードクロス＃50
●ベルアート塗り　：SK水性弾性シーラー
　　ベルアート

（1）施工面の確認



①下地ボードの表面を確認してください。

（2）マスキング処理



①図を参照し、マスキング処理をしてください。

（3）塗り仕上げ　※ベルアート塗りの詳細については「エスケー化研（株）」の施工要領書をご覧ください。

ジョイント部およびアルミ形材部等の処理

①SK弾性コークNプライマーの塗布
塗布場所：アルミ形柱塗り仕上げ面、調整金具ピースカバー下地、下地ボード固定ネジ頭、アルミ形材と接する部分の下地ボード、下地ボード同士のジョイント部の目地

↓

②SK弾性コークNの塗布
塗布場所：アルミ形柱塗り仕上げ面、調整金具ピースカバー下地、下地ボード固定ネジ頭、アルミ形材と接する部分の下地ボード、下地ボード同士のジョイント部

↓

③SKハードクロス＃50の貼付け
貼付け場所：アルミ形材柱と下地ボードジョイント部、下地ボード同士のジョイント部

↓

④SK弾性コークNの塗布
塗布場所：アルミ形柱塗り仕上げ面、調整金具ピースカバー下地、アルミ形材と接する部分の下地ボード、下地ボード同士のジョイント部

ベルアート塗り（※）

⑤SK水性弾性シーラーの塗布

↓

⑥ベルアートの塗布（基層塗り）

↓

⑦ベルアートの塗布（模様塗り）

↓

完了

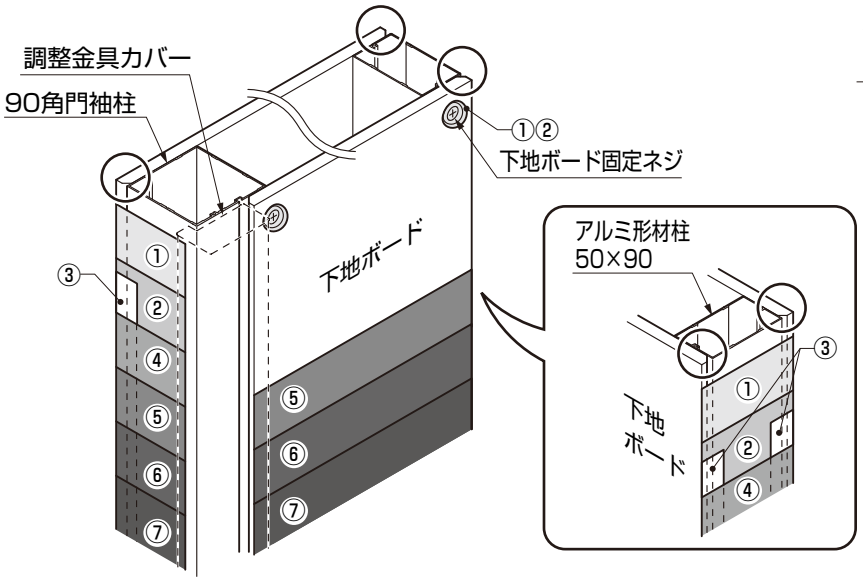


図1-1　調整金具カバーの場合

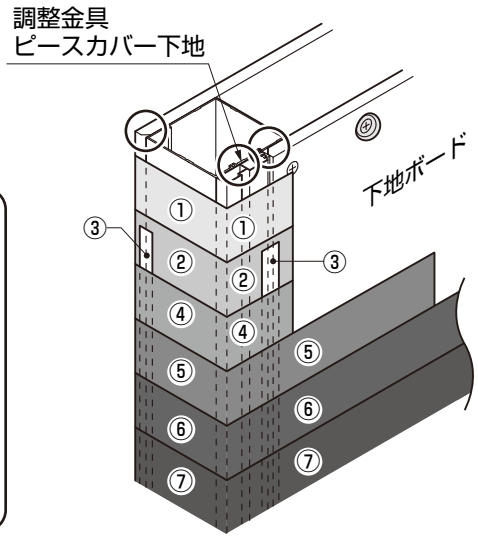


図1-2　調整金具ピースカバーの場合

ポイント

●イラストの○部には「①SK弾性コークNプライマー」と「②SK弾性コークN」を十分に塗布してください。

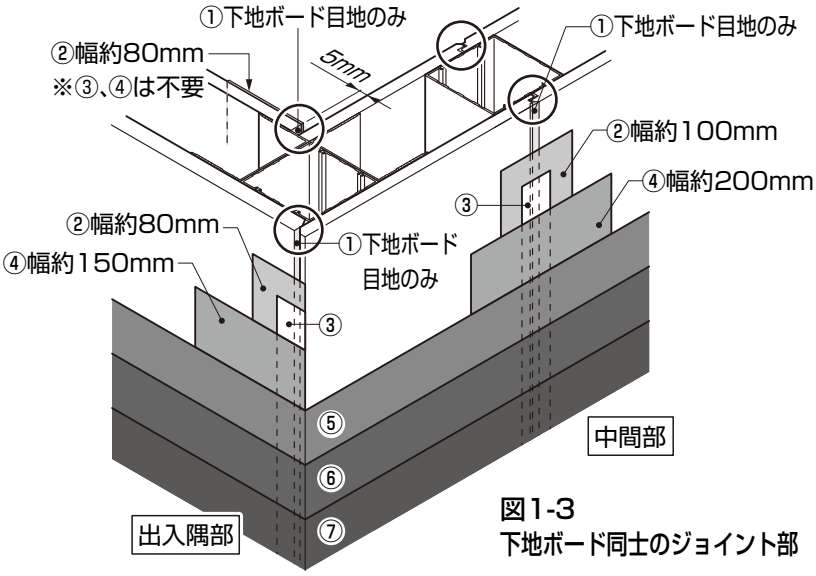


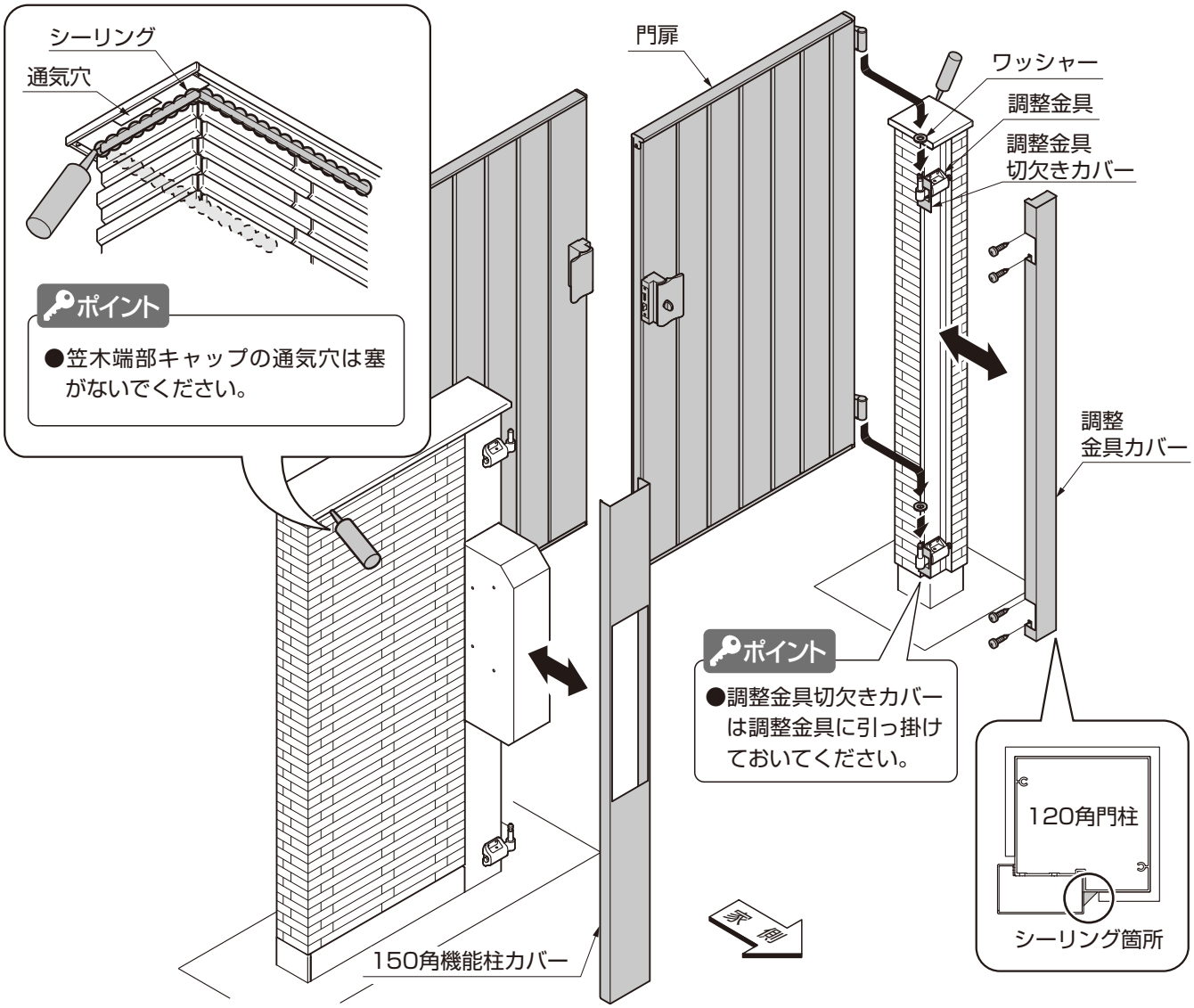
図1-3
下地ボード同士のジョイント部

①塗り材を施工してください。

8　門扉の吊込み　※門扉を取付ける場合の作業です。

ポイント

●タイルの施工が完了した後に、門扉の吊込みを行なってください。
●門扉の吊込み手順、調整金具の調整方法は、門扉に付属の取付説明書をご確認ください。



①本体ユニットの150角機能柱カバー、120角門柱の調整金具カバー(あるいは調整金具ピースカバー)を外してください。
②ワッシャーを調整金具に取付け、門扉を吊り込んでください。
③調整金具を調整してください。
④①で外したカバーを取付けてください。
⑤調整金具カバー、笠木ベースの指定の箇所をシーリングしてください。

ポイント

●メンテナンス時に調整金具カバーを外す場合は、シーリングをカットし、メンテナンス後に再度シーリングしてください。